

## 2014年度 大学院シラバス

PDF閲覧ソフトの検索機能で科目名を検索してください

※担当教員名での検索の場合、全クラス共通シラバスが検索できません

例) Ctrl キーを押しながら F キーを押す

ナンバリング			
科目名	声楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	集中	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

オペラ歌手及び歌曲ソリストになる為に必要な声楽テクニック、舞台表現技術を習得させる。

#### ◆授業内容・計画◆

自分の声の特性を伸ばしながら、レパートリー研究に入る。

各自で取り上げた研究作品を中心に、詩、リブレットの解釈、楽曲分析、ハーモニーと声の音色との関係などを探求し、高度で緻密なテクニックを身に付け、繊細で柔軟な声楽表現を確立する。

##### [前期]

- ・1回目 オリエンテーション。今後の授業内容について各担当教員と相談する。
- ・2回目 発声・ディクシオン練習。曲想を大事にしながら歌唱する。
- ・3回目 前回の復習及び新曲についてのディクシオン練習。詩人・作曲者についての説明。曲の解 説後、再度歌唱する。
- ・4～14回目 3回目同様、適宜指示を与えながら歌唱する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習と夏休みの課題の実施。
- ・2回目 発声・ディクシオン練習。曲想を大事にしながら歌唱する。
- ・3回目 前回の復習及び新曲についてのディクシオン練習。詩人・作曲者についての説明。曲の解 説後、再度歌唱する。
- ・4～13回目 3回目同様、適宜指示を与えながら歌唱する。

#### ◆準備学習の内容◆

予習・復習を必ずすること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価とする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

各自担当教員と相談すること。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

- ・使用テキスト、参考図書、留意事項等、個々の声質に合わせて選択し、授業内で指示する。
- ・質問等不明な点は各担当教員に相談すること。

ナンバリング			
科目名	声楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	集中	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

オペラ歌手及び歌曲ソリストになる為に必要な声楽テクニック、舞台表現技術を習得させる。

#### ◆授業内容・計画◆

自分の声の特性を伸ばしながら、レパートリー研究に入る。

各自で取り上げた研究作品を中心に、詩、リブレットの解釈、楽曲分析、ハーモニーと声の音色との関係などを探求し、高度で緻密なテクニックを身に付け、繊細で柔軟な声楽表現を確立する。

[前期]

- ・1回目 オリエンテーション。今後の授業内容について
- ・2回目 発声・ディクシオン練習。曲想を大事にしな
- ・3回目 前回の復習及び新曲についてのディクシオン歌唱する。
- ・4～14回目 3回目同様、適宜指示を与えながら歌唱す

て各担当教員と相談する。  
がら歌唱する。

練習。詩人・作曲者についての説明。曲の解  
る。

説後、再度

[後期]

- ・1回目 前期の復習と夏休みの課題の実施。
- ・2回目 発声・ディクシオン練習。曲想を大事にしな
- ・3回目 前回の復習及び新曲についてのディクシオン歌唱する。
- ・4～13回目 3回目同様、適宜指示を与えながら歌唱す

がら歌唱する。

練習。詩人・作曲者についての説明。曲の解  
る。

説後、再度

#### ◆準備学習の内容◆

予習・復習を必ずすること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価とする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

各自担当教員と相談すること。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

- ・使用テキスト、参考図書、留意事項等、個々の声質に合わせて選択し、授業内で指示する。
- ・質問等不明な点は各担当教員に相談すること。

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 小林 一男, 福井 敬, 黒田 博, 中村 敬一, 佐藤 宏, 松井 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	水1,水2,水3,水4,金1,金2,金3,金4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

声質にあわせた、個性豊かなレパートリーを研究するとともに、オペラ歌手になるために必要なテクニックや、舞台表現技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を中心に、アンサンブル・ソロ・演技の基本を学び、舞台に於ける発音・発声法を向上させ、オペラ歌手への道を探求する。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	重唱研究 I		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵, 長島 剛子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	通年
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

各自の声と異なった声部との調和を体感させることにより、ハーモニーの中の各自の役割を認識させる力を養う。  
12月には演奏会を小ホールで開催し、舞台上での演奏経験を踏ませ、演奏家としての資質を磨く。

#### ◆授業内容・計画◆

他の声部を聞き分け、自らの声部と他声部を同調させ、バランスをとる技術は芸術歌曲にとって必須である。これを十分に体得させる為、独、仏語の二重唱以上の編成の楽曲を教材に用いて、一年次二年次に分かれて演習する。

##### [前期]

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 発音練習(特に母音)、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4～9回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・10回目 新たな曲を取り入れ、重唱演習をする。
- ・11～13回目 10回目の曲を取り上げ、パートナーを変更しながら歌う。
- ・14回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習。
- ・2回目 新曲の発音練習、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4～6回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・7回目 新たな曲を取り入れ、重唱演習をする。
- ・8～12回目 小ホールでの演奏会に向けたプログラムに沿って、演習する。
- ・13回目 大学院リート・アンサンブル演奏会。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・予習・復習をすること。
- ・各自のパートの音取りをすること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

- ・授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・使用テキスト等は授業内で提示する

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

歌曲コース必修

ナンバリング			
科目名	重唱研究 I		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵, 長島 剛子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	通年
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

各自の声と異なった声部との調和を体感させることにより、ハーモニーの中の各自の役割を認識させる力を養う。  
12月には演奏会を小ホールで開催し、舞台上での演奏経験を踏ませ、演奏家としての資質を磨く。

#### ◆授業内容・計画◆

他の声部を聞き分け、自らの声部と他声部を同調させ、バランスをとる技術は芸術歌曲にとって必須である。これを十分に体得させる為、独、仏語の二重唱以上の編成の楽曲を教材に用いて、一年次二年次に分かれて演習する。

##### [前期]

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 発音練習(特に母音)、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4～9回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・10回目 新たな曲を取り入れ、重唱演習をする。
- ・11～13回目 10回目の曲を取り上げ、パートナーを変更しながら歌う。
- ・14回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習。
- ・2回目 新曲の発音練習、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4～6回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・7回目 新たな曲を取り入れ、重唱演習をする。
- ・8～12回目 小ホールでの演奏会に向けたプログラムに沿って、演習する。
- ・13回目 大学院リート・アンサンブル演奏会。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・予習・復習をすること。
- ・各自のパートの音取りをすること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

- ・授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・使用テキスト等は授業内で提示する

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

歌曲コース必修

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習 I		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	時間外	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ピアノ演奏のより高度な技術を習得し、豊かで緻密な表現力を培うことができる。  
レパートリーの拡大に努める一方、系統的なレパートリーの確立にも力を注ぎ、優れたピアノ演奏者としての基盤作りをすることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

個人レッスンを中心に

ピアノコース)協奏曲発表会・トライリサイタル・中間発表といった、学内で企画されている演奏の機会を利用して、広範なレパートリーを獲得していく。

併せて、卒業研究を視野に入れた系統的な作品選択と研究を進め、ひとつの芸術的理念に貫かれたレパートリーの確立にも力を注ぐ。

伴奏コース)ピアノの技量を維持発展させるため独奏曲中心に学習。必要に応じて伴奏する作品の技術的・芸術的課題についても研究、学習する。

第1・2回:1年間の計画を立てる

第3・4回:作品の解釈にあたり、社会学的なことへの視座を考察する

第5・6回:作品の解釈にあたり、背景となる時代の他の芸術分野への着目を促す

第7・8回:作品の解釈にあたり、作曲技法についての考察を深める

第9・10回:プログラムビルディングについて学修する

第11・12回:生涯にわたるレパートリーの構築について考察する

第13・14回:技巧的側面、特に脱力について、考察する1

第15・16回:技巧的側面、特に脱力について、考察する2

第17・18回:タッチの種類について考察する1

第19・20回:タッチの種類について考察する2

第21・22回:音楽における文学性について考察する

第23・24回:実演において精神的な課題について考える

第25・26回:楽譜記憶の方法論について考察する

第27回:さまざまな演奏上の課題の錬磨について考える

第28回:表現の再確認、再考を経て、より精度の高い演奏を目指す、まとめと発表演奏

#### ◆準備学習の内容◆

演奏とは本来極めて自発的な行為です。

演奏の方策を「与えられる」のではなく、自身で「考え出して」レッスンに臨むように。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席、授業態度、演奏の質を考慮して評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ピアノを弾いていく自らの人生の意味をより深く考え、物まねや技巧偏重に陥らない、真の意味で自発的な演奏のため、自己を啓発することを常に忘れないで欲しい。また自己の内面を充実させていくことも常に心がけてください。

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習 I		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	時間外	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ピアノ演奏のより高度な技術を習得し、豊かで緻密な表現力を培うことができる。  
レパートリーの拡大に努める一方、系統的なレパートリーの確立にも力を注ぎ、優れたピアノ演奏者としての基盤作りをすることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

個人レッスンを中心に

ピアノコース)協奏曲発表会・トライリサイタル・中間発表といった、学内で企画されている演奏の機会を利用して、広範なレパートリーを獲得していく。

併せて、卒業研究を視野に入れた系統的な作品選択と研究を進め、ひとつの芸術的理念に貫かれたレパートリーの確立にも力を注ぐ。

伴奏コース)ピアノの技量を維持発展させるため独奏曲中心に学習。必要に応じて伴奏する作品の技術的・芸術的課題についても研究、学習する。

第1・2回:1年間の計画を立てる

第3・4回:作品の解釈にあたり、社会学的なことへの視座を考察する

第5・6回:作品の解釈に当たり、背景となる時代の他の芸術分野への着目を促す

第7・8回:作品の解釈に当たり、作曲技法についての考察を深める

第9・10回:プログラムビルディングについて学修する

第11・12回:生涯にわたるレパートリーの構築について考察する

第13・14回:技巧的側面、特に脱力について、考察する1

第15・16回:技巧的側面、特に脱力について、考察する2

第17・18回:タッチの種類について考察する1

第19・20回:タッチの種類について考察する2

第21・22回:音楽における文学性について考察する

第23・24回:実演において精神的な課題について考える

第25・26回:楽譜記憶の方法論について考察する

第27回:さまざまな演奏上の課題の錬磨について考える

第28回:表現の再確認、再考を経て、より精度の高い演奏を目指す、まとめと発表演奏

#### ◆準備学習の内容◆

演奏とは本来極めて自発的な行為です。

演奏の方策を「与えられる」のではなく、自身で「考え出して」レッスンに臨むように。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席、授業態度、演奏の質を考慮して評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ピアノを弾いていく自らの人生の意味をより深く考え、物まねや技巧偏重に陥らない、真の意味で自発的な演奏のため、自己を啓発することを常に忘れないで欲しい。また自己の内面を充実させていくことも常に心がけてください。

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	通年
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

さまざまな時代とジャンルの作品を解釈する上で基本となる古典派の記譜法を正しく理解し、それを自身の演奏に反映できるようにする。作曲家自身のアーティキュレーションが記入されていない作品(主にバロックおよび古典派の初期)も自分で適切に処理できるよう、18世紀のヨーロッパ(ドイツ語圏)で一般的だった抑揚の基本を身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典派の作品を学習する際には、原典版の楽譜を使用することが一般的になっている。しかし原典版に記載されているアーティキュレーションや装飾音などの書法には、それらをどのように捉えるべきか困惑するものも散見される。基本的なスラーやスタッカートの用法において、古典派の時代とその後の時代に差があることも、見過ごされていることが少なくない。それぞれの時代の記譜法の慣習を知った上で作曲家の真意を探り、それを自分の演奏に反映させるための知識を蓄積する。

前期はマルコム・ビルソンのDVD《楽譜の解釈》を教材として、古典派の記譜法の理解に関してどんな問題が存在するかを認識し、各自の問題意識を喚起する。さまざまな例を通じてバロックから古典派に至る時代に確立した基本的な記譜法の特徴を学習する。

後期はモーツァルトの作品を中心に(可能な限りハイドンやベートーヴェンその他の作品も並行して扱う)個別の作品の楽譜(自筆譜、初版譜および現代のエディション)を参照しながら個々の問題点について検討し、意見を述べ合う。またこの時代のアーティキュレーションが書かれていない作品に自らアーティキュレーションを書き込み、その拠り所とした音楽語法を説明することによって(そこにはなぜそのアーティキュレーションが適切なかの理由付け)、作曲家の意図をより正確に読み取るための能力を高める。こうして得た知識を活用して、バッハの鍵盤作品にも、スタイルに即したアーティキュレーションを書き入れる実習を行う。

アーティキュレーションのみならず、装飾法に関する基礎的なルールも学び、20世紀初頭に編纂されたバロックおよび古典派作品の校訂版にどのような問題点が存在するかも、あわせて研究する。

#### ◆準備学習の内容◆

特別な準備が必要な場合は授業内で指示する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価による。出席状況も加味される。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	通年
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

さまざまな時代とジャンルの作品を解釈する上で基本となる古典派の記譜法を正しく理解し、それを自身の演奏に反映できるようにする。作曲家自身のアーティキュレーションが記入されていない作品(主にバロックおよび古典派の初期)も自分で適切に処理できるよう、18世紀のヨーロッパ(ドイツ語圏)で一般的だった抑揚の基本を身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典派の作品を学習する際には、原典版の楽譜を使用することが一般的になっている。しかし原典版に記載されているアーティキュレーションや装飾音などの書法には、それらをどのように捉えるべきか困惑するものも散見される。基本的なスラーやスタッカートの用法において、古典派の時代とその後時代に差があることも、見過ごされていることが少なくない。それぞれの時代の記譜法の慣習を知った上で作曲家の真意を探り、それを自分の演奏に反映させるための知識を蓄積する。

前期はマルコム・ビルソンのDVD《楽譜の解釈》を教材として、古典派の記譜法の理解に関してどんな問題が存在するかを認識し、各自の問題意識を喚起する。さまざまな例を通じてバロックから古典派に至る時代に確立した基本的な記譜法の特徴を学習する。

後期はモーツァルトの作品を中心に(可能な限りハイドンやベートーヴェンその他の作品も並行して扱う)個別の作品の楽譜(自筆譜、初版譜および現代のエディション)を参照しながら個々の問題点について検討し、意見を述べ合う。またこの時代のアーティキュレーションが書かれていない作品に自らアーティキュレーションを書き込み、その拠り所とした音楽語法を説明することによって(そこにはなぜそのアーティキュレーションが適切なかの理由付け)、作曲家の意図をより正確に読み取るための能力を高める。こうして得た知識を活用して、バッハの鍵盤作品にも、スタイルに即したアーティキュレーションを書き入れる実習を行う。

アーティキュレーションのみならず、装飾法に関する基礎的なルールも学び、20世紀初頭に編纂されたバロックおよび古典派作品の校訂版にどのような問題点が存在するかも、あわせて研究する。

#### ◆準備学習の内容◆

特別な準備が必要な場合は授業内で指示する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価による。出席状況も加味される。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	通年
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の演奏法を、主に下記の観点を通して学ぶ。

1. 個々の作曲家の音楽様式とピアノ技法
2. 音楽と詩芸術との関係性
3. ピアノ音楽と歌唱芸術との関係性
4. ロマン派音楽と民族主義との関係性
5. ピアノ音楽と楽器との関係性

#### ◆授業内容・計画◆

<前期>

第1回: ガイダンス及びロマン派の作曲家のピアノ音楽の概要

第2回: 楽器学資料館見学、歴史的ピアノの試奏

第3回: ショパン作品研究(1)

第4回: ショパン演奏研究(1)<ノクターン>

第5回: ショパン演奏研究(2)<練習曲>

第6回: ショパン演奏研究(3)<バラード>

第7回: ショパン演奏研究(4)<スケルツォ>

第8回: ショパン演奏研究(5)<即興曲>

第9回: ショパン演奏研究(6)<前奏曲>

第10回: シューマン作品研究(1)

第11回: シューマン演奏研究(1)<ツィクルス>

第12回: シューマン演奏研究(2)<ソナタor幻想曲>

第13回: リスト作品研究(1)

第14回: リスト演奏研究(1)<性格的小品>

<後期>

第1回: ショパン作品研究(2)

第2回: ショパン演奏研究(7)<ワルツ>

第3回: ショパン演奏研究(8)<マズルカ>

第4回: ショパン演奏研究(9)<ポロネーズ>

第5回: ショパン演奏研究(10)<ソナタ>

第6回: ショパン演奏研究(11)<協奏曲>

第7回: ショパン演奏研究(12)<室内楽>

第8回: ショパン演奏研究(13)<歌曲>

第9回: シューマン作品研究(2)

第10回: シューマン演奏研究(3)<変奏曲>

第11回: シューマン演奏研究(4)<歌曲or室内楽>

第12回: リスト作品研究(2)

第13回: リスト演奏研究(2)<編曲作品>

\* 各回の授業の課題は学生と相談しながら決めます。

#### ◆準備学習の内容◆

発表する課題に関する下記の準備を行って下さい。

1. 作品の成立背景や楽曲構成等に関するプレゼンテーション

2. 演奏

\* 尚、理論系の学生は主に上記1の方面から授業に参加することで、互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び履修状況により、総合的に評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。これ以外は授業内で指示します。

・F.Chopin: National Edition of the Works of Fryderyka Chopin.

・R.Schumann: Samtliche Klavierwerke(Henle Verlag)

・F.Liszt: Neue Ausgabe samtlicher Werke(Editio Musica Budapest).

#### ◆参考図書◆

・J.J.エーゲルディンゲル『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005年)

・K.Hofmann und S.Keil, Robert Schumann, thematisches Verzeichnis samtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens(Schuberth,1982).

・A.Walker, Franz Liszt(Alfred A.Knopf,1983).

#### ◆留意事項◆

この授業はショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は、専攻に関わらず、奮ってご参加下さい。

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	通年
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の演奏法を、主に下記の観点を通して学ぶ。

1. 個々の作曲家の音楽様式とピアノ技法
2. 音楽と詩芸術との関係性
3. ピアノ音楽と歌唱芸術との関係性
4. ロマン派音楽と民族主義との関係性
5. ピアノ音楽と楽器との関係性

#### ◆授業内容・計画◆

<前期>

第1回: ガイダンス及びロマン派の作曲家のピアノ音楽の概要

第2回: 楽器学資料館見学、歴史的ピアノの試奏

第3回: ショパン作品研究(1)

第4回: ショパン演奏研究(1)<ノクターン>

第5回: ショパン演奏研究(2)<練習曲>

第6回: ショパン演奏研究(3)<バラード>

第7回: ショパン演奏研究(4)<スケルツォ>

第8回: ショパン演奏研究(5)<即興曲>

第9回: ショパン演奏研究(6)<前奏曲>

第10回: シューマン作品研究(1)

第11回: シューマン演奏研究(1)<ツィクルス>

第12回: シューマン演奏研究(2)<ソナタor幻想曲>

第13回: リスト作品研究(1)

第14回: リスト演奏研究(1)<性格的小品>

<後期>

第1回: ショパン作品研究(2)

第2回: ショパン演奏研究(7)<ワルツ>

第3回: ショパン演奏研究(8)<マズルカ>

第4回: ショパン演奏研究(9)<ポロネーズ>

第5回: ショパン演奏研究(10)<ソナタ>

第6回: ショパン演奏研究(11)<協奏曲>

第7回: ショパン演奏研究(12)<室内楽>

第8回: ショパン演奏研究(13)<歌曲>

第9回: シューマン作品研究(2)

第10回: シューマン演奏研究(3)<変奏曲>

第11回: シューマン演奏研究(4)<歌曲or室内楽>

第12回: リスト作品研究(2)

第13回: リスト演奏研究(2)<編曲作品>

\* 各回の授業の課題は学生と相談しながら決めます。

#### ◆準備学習の内容◆

発表する課題に関する下記の準備を行って下さい。

1. 作品の成立背景や楽曲構成等に関するプレゼンテーション

2. 演奏

\* 尚、理論系の学生は主に上記1の方面から授業に参加することで、互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び履修状況により、総合的に評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。これ以外は授業内で指示します。

・F.Chopin: National Edition of the Works of Fryderyka Chopin.

・R.Schumann: Samtliche Klavierwerke(Henle Verlag)

・F.Liszt: Neue Ausgabe samtlicher Werke(Editio Musica Budapest).

#### ◆参考図書◆

・J.J.エーゲルディンゲル『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005年)

・K.Hofmann und S.Keil, Robert Schumann, thematisches Verzeichnis samtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens(Schuberth,1982).

・A.Walker, Franz Liszt(Alfred A.Knopf,1983).

#### ◆留意事項◆

この授業はショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は、専攻に関わらず、奮ってご参加下さい。

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-327	開講学期	通年
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

#### ◆授業内容・計画◆

前半・後半のTF曲家のTF曲をハフンへ長々取り上げ、現11曲目TF曲ピアノ演奏法の研究を行う。又、現11曲目に対して9回理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で取り上げた作品を、前期第14回、及び後期第13回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

(前期)

第1回:授業内容、授業の進め方等の説明。第2回の授業で取り上げる作品への導入

第2回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第3回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第4回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第5回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第6回:2曲目の作品(3)演奏法

第7回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第8回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第9回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第10回:3曲目の作品(3)演奏法

第11回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第12回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第13回:ミニ・コンサートのリハーサル

第14回:ミニ・コンサート

(後期)

第1回:4曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第2回:4曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第3回:5曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第4回:5曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第5回:5曲目の作品(3)演奏法

第6回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第7回:6曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第8回:6曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第9回:6曲目の作品(3)演奏法

第10回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第11回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第12回:ミニ・コンサートのリハーサル

第13回:ミニ・コンサート

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、取り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

#### ◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-327	開講学期	通年
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

#### ◆授業内容・計画◆

前半・後半のTF曲家のTF曲をハフンへ長々取り上げ、現11曲目TF曲ピアノ演奏法の研究を行う。又、現11曲目に対して9回理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で取り上げた作品を、前期第14回、及び後期第13回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

(前期)

第1回:授業内容、授業の進め方等の説明。第2回の授業で取り上げる作品への導入

第2回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第3回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第4回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第5回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第6回:2曲目の作品(3)演奏法

第7回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第8回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第9回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第10回:3曲目の作品(3)演奏法

第11回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第12回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第13回:ミニ・コンサートのリハーサル

第14回:ミニ・コンサート

(後期)

第1回:4曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第2回:4曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第3回:5曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第4回:5曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第5回:5曲目の作品(3)演奏法

第6回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第7回:6曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第8回:6曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第9回:6曲目の作品(3)演奏法

第10回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第11回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第12回:ミニ・コンサートのリハーサル

第13回:ミニ・コンサート

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、取り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

#### ◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O2
講義室	2-27	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

さまざまな時代とジャンルの作品を解釈する上で基本となる古典派の記譜法を正しく理解し、それを自身の演奏に反映できるようにする。作曲家自身のアーティキュレーションが記入されていない作品(主にバロックおよび古典派の初期)も自分で適切に処理できるよう、18世紀のヨーロッパ(ドイツ語圏)で一般的だった抑揚の基本を身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典派の作品を学習する際には、原典版の楽譜を使用することが一般的になっている。しかし原典版に記載されているアーティキュレーションや装飾音などの書法には、それらをどのように捉えるべきか困惑するものも散見される。基本的なスラーやスタッカート用法において、古典派の時代とその後時代に差があることも、見過ごされていることが少なくない。それぞれの時代の記譜法の慣習を知った上で作曲家の真意を探り、それを自分の演奏に反映させるための知識を蓄積する。

前期はマルコム・ビルソンのDVD《楽譜の解釈》を教材として、古典派の記譜法の理解に関してどんな問題が存在するかを認識し、各自の問題意識を喚起する。さまざまな例を通じてバロックから古典派に至る時代に確立した基本的な記譜法の特徴を学習する。

後期はモーツァルトの作品を中心に(可能な限りハイドンやベートーヴェンその他の作品も並行して扱う)個別の作品の楽譜(自筆譜、初版譜および現代のエディション)を参照しながら個々の問題点について検討し、意見を述べ合う。またこの時代のアーティキュレーションが書かれていない作品に自らアーティキュレーションを書き込み、その拠り所とした音楽語法を説明することによって(そこにはなぜそのアーティキュレーションが適切なかの理由付け)、作曲家の意図をより正確に読み取るための能力を高める。こうして得た知識を活用して、バッハの鍵盤作品にも、スタイルに即したアーティキュレーションを書き入れる実習を行う。

アーティキュレーションのみならず、装飾法に関する基礎的なルールも学び、20世紀初頭に編纂されたバロックおよび古典派作品の校訂版にどのような問題点が存在するかも、あわせて研究する。

#### ◆準備学習の内容◆

特別な準備が必要な場合は授業内で指示する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価による。出席状況も加味される。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O2
講義室	2-27	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

さまざまな時代とジャンルの作品を解釈する上で基本となる古典派の記譜法を正しく理解し、それを自身の演奏に反映できるようにする。作曲家自身のアーティキュレーションが記入されていない作品(主にバロックおよび古典派の初期)も自分で適切に処理できるよう、18世紀のヨーロッパ(ドイツ語圏)で一般的だった抑揚の基本を身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典派の作品を学習する際には、原典版の楽譜を使用することが一般的になっている。しかし原典版に記載されているアーティキュレーションや装飾音などの書法には、それらをどのように捉えるべきか困惑するものも散見される。基本的なスラーやスタッカート用法において、古典派の時代とその後時代に差があることも、見過ごされていることが少なくない。それぞれの時代の記譜法の慣習を知った上で作曲家の真意を探り、それを自分の演奏に反映させるための知識を蓄積する。

前期はマルコム・ビルソンのDVD《楽譜の解釈》を教材として、古典派の記譜法の理解に関してどんな問題が存在するかを認識し、各自の問題意識を喚起する。さまざまな例を通じてバロックから古典派に至る時代に確立した基本的な記譜法の特徴を学習する。

後期はモーツァルトの作品を中心に(可能な限りハイドンやベートーヴェンその他の作品も並行して扱う)個別の作品の楽譜(自筆譜、初版譜および現代のエディション)を参照しながら個々の問題点について検討し、意見を述べ合う。またこの時代のアーティキュレーションが書かれていない作品に自らアーティキュレーションを書き込み、その拠り所とした音楽語法を説明することによって(そこにはなぜそのアーティキュレーションが適切なかの理由付け)、作曲家の意図をより正確に読み取るための能力を高める。こうして得た知識を活用して、バッハの鍵盤作品にも、スタイルに即したアーティキュレーションを書き入れる実習を行う。

アーティキュレーションのみならず、装飾法に関する基礎的なルールも学び、20世紀初頭に編纂されたバロックおよび古典派作品の校訂版にどのような問題点が存在するかも、あわせて研究する。

#### ◆準備学習の内容◆

特別な準備が必要な場合は授業内で指示する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価による。出席状況も加味される。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-27	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の演奏法を、主に下記の観点を通して学ぶ。

1. 個々の作曲家の音楽様式とピアノ技法
2. 音楽と詩芸術との関係性
3. ピアノ音楽と歌唱芸術との関係性
4. ロマン派音楽と民族主義との関係性
5. ピアノ音楽と楽器との関係性

#### ◆授業内容・計画◆

<前期>

第1回: ガイダンス及びロマン派の作曲家のピアノ音楽の概要

第2回: 楽器学資料館見学、歴史的ピアノの試奏

第3回: ショパン作品研究(1)

第4回: ショパン演奏研究(1)<ノクターン>

第5回: ショパン演奏研究(2)<練習曲>

第6回: ショパン演奏研究(3)<バラード>

第7回: ショパン演奏研究(4)<スケルツォ>

第8回: ショパン演奏研究(5)<即興曲>

第9回: ショパン演奏研究(6)<前奏曲>

第10回: シューマン作品研究(1)

第11回: シューマン演奏研究(1)<ツィクルス>

第12回: シューマン演奏研究(2)<ソナタor幻想曲>

第13回: リスト作品研究(1)

第14回: リスト演奏研究(1)<性格的小品>

<後期>

第1回: ショパン作品研究(2)

第2回: ショパン演奏研究(7)<ワルツ>

第3回: ショパン演奏研究(8)<マズルカ>

第4回: ショパン演奏研究(9)<ポロネーズ>

第5回: ショパン演奏研究(10)<ソナタ>

第6回: ショパン演奏研究(11)<協奏曲>

第7回: ショパン演奏研究(12)<室内楽>

第8回: ショパン演奏研究(13)<歌曲>

第9回: シューマン作品研究(2)

第10回: シューマン演奏研究(3)<変奏曲>

第11回: シューマン演奏研究(4)<歌曲or室内楽>

第12回: リスト作品研究(2)

第13回: リスト演奏研究(2)<編曲作品>

\* 各回の授業の課題は学生と相談しながら決めます。

#### ◆準備学習の内容◆

発表する課題に関する下記の準備を行って下さい。

1. 作品の成立背景や楽曲構成等に関するプレゼンテーション

2. 演奏

\* 尚、理論系の学生は主に上記1の方面から授業に参加することで、互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び履修状況により、総合的に評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。これ以外は授業内で指示します。

・F.Chopin: National Edition of the Works of Fryderyka Chopin.

・R.Schumann: Samtliche Klavierwerke(Henle Verlag)

・F.Liszt: Neue Ausgabe samtlicher Werke(Editio Musica Budapest).

#### ◆参考図書◆

・J.J.エーゲルディンゲル『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005年)

・K.Hofmann und S.Keil, Robert Schumann, thematisches Verzeichnis samtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens(Schuberth,1982).

・A.Walker, Franz Liszt(Alfred A.Knopf,1983).

#### ◆留意事項◆

この授業はショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は、専攻に関わらず、奮ってご参加下さい。



ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-27	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の演奏法を、主に下記の観点を通して学ぶ。

1. 個々の作曲家の音楽様式とピアノ技法
2. 音楽と詩芸術との関係性
3. ピアノ音楽と歌唱芸術との関係性
4. ロマン派音楽と民族主義との関係性
5. ピアノ音楽と楽器との関係性

#### ◆授業内容・計画◆

<前期>

第1回: ガイダンス及びロマン派の作曲家のピアノ音楽の概要

第2回: 楽器学資料館見学、歴史的ピアノの試奏

第3回: ショパン作品研究(1)

第4回: ショパン演奏研究(1)<ノクターン>

第5回: ショパン演奏研究(2)<練習曲>

第6回: ショパン演奏研究(3)<バラード>

第7回: ショパン演奏研究(4)<スケルツォ>

第8回: ショパン演奏研究(5)<即興曲>

第9回: ショパン演奏研究(6)<前奏曲>

第10回: シューマン作品研究(1)

第11回: シューマン演奏研究(1)<ツィクルス>

第12回: シューマン演奏研究(2)<ソナタor幻想曲>

第13回: リスト作品研究(1)

第14回: リスト演奏研究(1)<性格的小品>

<後期>

第1回: ショパン作品研究(2)

第2回: ショパン演奏研究(7)<ワルツ>

第3回: ショパン演奏研究(8)<マズルカ>

第4回: ショパン演奏研究(9)<ポロネーズ>

第5回: ショパン演奏研究(10)<ソナタ>

第6回: ショパン演奏研究(11)<協奏曲>

第7回: ショパン演奏研究(12)<室内楽>

第8回: ショパン演奏研究(13)<歌曲>

第9回: シューマン作品研究(2)

第10回: シューマン演奏研究(3)<変奏曲>

第11回: シューマン演奏研究(4)<歌曲or室内楽>

第12回: リスト作品研究(2)

第13回: リスト演奏研究(2)<編曲作品>

\* 各回の授業の課題は学生と相談しながら決めます。

#### ◆準備学習の内容◆

発表する課題に関する下記の準備を行って下さい。

1. 作品の成立背景や楽曲構成等に関するプレゼンテーション

2. 演奏

\* 尚、理論系の学生は主に上記1の方面から授業に参加することで、互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び履修状況により、総合的に評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。これ以外は授業内で指示します。

・F.Chopin: National Edition of the Works of Fryderyka Chopin.

・R.Schumann: Samtliche Klavierwerke(Henle Verlag)

・F.Liszt: Neue Ausgabe samtlicher Werke(Editio Musica Budapest).

#### ◆参考図書◆

・J.J.エーゲルディンゲル『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005年)

・K.Hofmann und S.Keil, Robert Schumann, thematisches Verzeichnis samtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens(Schuberth,1982).

・A.Walker, Franz Liszt(Alfred A.Knopf,1983).

#### ◆留意事項◆

この授業はショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は、専攻に関わらず、奮ってご参加下さい。

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-27	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

#### ◆授業内容・計画◆

前半・後半のTF曲家のTF曲をハフンへ長々取り上げ、現11曲目TF曲ピアノ演奏法の研究を行う。又、現11曲目に対する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で取り上げた作品を、前期第14回、及び後期第13回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

(前期)

第1回:授業内容、授業の進め方等の説明。第2回の授業で取り上げる作品への導入

第2回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第3回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第4回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第5回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第6回:2曲目の作品(3)演奏法

第7回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第8回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第9回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第10回:3曲目の作品(3)演奏法

第11回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第12回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第13回:ミニ・コンサートのリハーサル

第14回:ミニ・コンサート

(後期)

第1回:4曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第2回:4曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第3回:5曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第4回:5曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第5回:5曲目の作品(3)演奏法

第6回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第7回:6曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第8回:6曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第9回:6曲目の作品(3)演奏法

第10回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第11回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第12回:ミニ・コンサートのリハーサル

第13回:ミニ・コンサート

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、取り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

#### ◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-27	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

#### ◆授業内容・計画◆

前半・後半のTF曲家のTF曲をハフソへ長々取り上げ、現11曲目TF曲ピアノ演奏法の研究を行う。又、現11曲目に對する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で取り上げた作品を、前期第14回、及び後期第13回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

(前期)

第1回:授業内容、授業の進め方等の説明。第2回の授業で取り上げる作品への導入

第2回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第3回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第4回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第5回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第6回:2曲目の作品(3)演奏法

第7回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第8回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第9回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第10回:3曲目の作品(3)演奏法

第11回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第12回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第13回:ミニ・コンサートのリハーサル

第14回:ミニ・コンサート

(後期)

第1回:4曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第2回:4曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第3回:5曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第4回:5曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第5回:5曲目の作品(3)演奏法

第6回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第7回:6曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第8回:6曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第9回:6曲目の作品(3)演奏法

第10回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第11回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第12回:ミニ・コンサートのリハーサル

第13回:ミニ・コンサート

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、取り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

#### ◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-409	開講学期	通年
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

さまざまな時代とジャンルの作品を解釈する上で基本となる古典派の記譜法を正しく理解し、それを自身の演奏に反映できるようにする。作曲家自身のアーティキュレーションが記入されていない作品(主にバロックおよび古典派の初期)も自分で適切に処理できるよう、18世紀のヨーロッパ(ドイツ語圏)で一般的だった抑揚の基本を身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典派の作品を学習する際には、原典版の楽譜を使用することが一般的になっている。しかし原典版に記載されているアーティキュレーションや装飾音などの書法には、それらをどのように捉えるべきか困惑するものも散見される。基本的なスラーやスタッカート用法において、古典派の時代とその後時代に差があることも、見過ごされていることが少なくない。それぞれの時代の記譜法の慣習を知った上で作曲家の真意を探り、それを自分の演奏に反映させるための知識を蓄積する。

前期はマルコム・ビルソンのDVD《楽譜の解釈》を教材として、古典派の記譜法の理解に関してどんな問題が存在するかを認識し、各自の問題意識を喚起する。さまざまな例を通じてバロックから古典派に至る時代に確立した基本的な記譜法の特徴を学習する。

後期はモーツァルトの作品を中心に(可能な限りハイドンやベートーヴェンその他の作品も並行して扱う)個別の作品の楽譜(自筆譜、初版譜および現代のエディション)を参照しながら個々の問題点について検討し、意見を述べ合う。またこの時代のアーティキュレーションが書かれていない作品に自らアーティキュレーションを書き込み、その拠り所とした音楽語法を説明することによって(そこにはなぜそのアーティキュレーションが適切なかの理由付け)、作曲家の意図をより正確に読み取るための能力を高める。こうして得た知識を活用して、バッハの鍵盤作品にも、スタイルに即したアーティキュレーションを書き入れる実習を行う。

アーティキュレーションのみならず、装飾法に関する基礎的なルールも学び、20世紀初頭に編纂されたバロックおよび古典派作品の校訂版にどのような問題点が存在するかも、あわせて研究する。

#### ◆準備学習の内容◆

特別な準備が必要な場合は授業内で指示する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価による。出席状況も加味される。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-409	開講学期	通年
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

さまざまな時代とジャンルの作品を解釈する上で基本となる古典派の記譜法を正しく理解し、それを自身の演奏に反映できるようにする。作曲家自身のアーティキュレーションが記入されていない作品(主にバロックおよび古典派の初期)も自分で適切に処理できるよう、18世紀のヨーロッパ(ドイツ語圏)で一般的だった抑揚の基本を身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典派の作品を学習する際には、原典版の楽譜を使用することが一般的になっている。しかし原典版に記載されているアーティキュレーションや装飾音などの書法には、それらをどのように捉えるべきか困惑するものも散見される。基本的なスラーやスタッカート用法において、古典派の時代とその後時代に差があることも、見過ごされていることが少なくない。それぞれの時代の記譜法の慣習を知った上で作曲家の真意を探り、それを自分の演奏に反映させるための知識を蓄積する。

前期はマルコム・ビルソンのDVD《楽譜の解釈》を教材として、古典派の記譜法の理解に関してどんな問題が存在するかを認識し、各自の問題意識を喚起する。さまざまな例を通じてバロックから古典派に至る時代に確立した基本的な記譜法の特徴を学習する。

後期はモーツァルトの作品を中心に(可能な限りハイドンやベートーヴェンその他の作品も並行して扱う)個別の作品の楽譜(自筆譜、初版譜および現代のエディション)を参照しながら個々の問題点について検討し、意見を述べ合う。またこの時代のアーティキュレーションが書かれていない作品に自らアーティキュレーションを書き込み、その拠り所とした音楽語法を説明することによって(そこにはなぜそのアーティキュレーションが適切なかの理由付け)、作曲家の意図をより正確に読み取るための能力を高める。こうして得た知識を活用して、バッハの鍵盤作品にも、スタイルに即したアーティキュレーションを書き入れる実習を行う。

アーティキュレーションのみならず、装飾法に関する基礎的なルールも学び、20世紀初頭に編纂されたバロックおよび古典派作品の校訂版にどのような問題点が存在するかも、あわせて研究する。

#### ◆準備学習の内容◆

特別な準備が必要な場合は授業内で指示する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価による。出席状況も加味される。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-409	開講学期	通年
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の演奏法を、主に下記の観点を通して学ぶ。

1. 個々の作曲家の音楽様式とピアノ技法
2. 音楽と詩芸術との関係性
3. ピアノ音楽と歌唱芸術との関係性
4. ロマン派音楽と民族主義との関係性
5. ピアノ音楽と楽器との関係性

#### ◆授業内容・計画◆

<前期>

第1回: ガイダンス及びロマン派の作曲家のピアノ音楽の概要

第2回: 楽器学資料館見学、歴史的ピアノの試奏

第3回: ショパン作品研究(1)

第4回: ショパン演奏研究(1)<ノクターン>

第5回: ショパン演奏研究(2)<練習曲>

第6回: ショパン演奏研究(3)<バラード>

第7回: ショパン演奏研究(4)<スケルツォ>

第8回: ショパン演奏研究(5)<即興曲>

第9回: ショパン演奏研究(6)<前奏曲>

第10回: シューマン作品研究(1)

第11回: シューマン演奏研究(1)<ツィクルス>

第12回: シューマン演奏研究(2)<ソナタor幻想曲>

第13回: リスト作品研究(1)

第14回: リスト演奏研究(1)<性格的小品>

<後期>

第1回: ショパン作品研究(2)

第2回: ショパン演奏研究(7)<ワルツ>

第3回: ショパン演奏研究(8)<マズルカ>

第4回: ショパン演奏研究(9)<ポロネーズ>

第5回: ショパン演奏研究(10)<ソナタ>

第6回: ショパン演奏研究(11)<協奏曲>

第7回: ショパン演奏研究(12)<室内楽>

第8回: ショパン演奏研究(13)<歌曲>

第9回: シューマン作品研究(2)

第10回: シューマン演奏研究(3)<変奏曲>

第11回: シューマン演奏研究(4)<歌曲or室内楽>

第12回: リスト作品研究(2)

第13回: リスト演奏研究(2)<編曲作品>

\* 各回の授業の課題は学生と相談しながら決めます。

#### ◆準備学習の内容◆

発表する課題に関する下記の準備を行って下さい。

1. 作品の成立背景や楽曲構成等に関するプレゼンテーション

2. 演奏

\* 尚、理論系の学生は主に上記1の方面から授業に参加することで、互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び履修状況により、総合的に評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。これ以外は授業内で指示します。

・F.Chopin: National Edition of the Works of Fryderyka Chopin.

・R.Schumann: Samtliche Klavierwerke(Henle Verlag)

・F.Liszt: Neue Ausgabe samtlicher Werke(Editio Musica Budapest).

#### ◆参考図書◆

・J.J.エーゲルディンゲル『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005年)

・K.Hofmann und S.Keil, Robert Schumann, thematisches Verzeichnis samtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens(Schuberth,1982).

・A.Walker, Franz Liszt(Alfred A.Knopf,1983).

#### ◆留意事項◆

この授業はショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は、専攻に関わらず、奮ってご参加下さい。

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-409	開講学期	通年
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の演奏法を、主に下記の観点を通して学ぶ。

1. 個々の作曲家の音楽様式とピアノ技法
2. 音楽と詩芸術との関係性
3. ピアノ音楽と歌唱芸術との関係性
4. ロマン派音楽と民族主義との関係性
5. ピアノ音楽と楽器との関係性

#### ◆授業内容・計画◆

<前期>

第1回: ガイダンス及びロマン派の作曲家のピアノ音楽の概要

第2回: 楽器学資料館見学、歴史的ピアノの試奏

第3回: ショパン作品研究(1)

第4回: ショパン演奏研究(1)<ノクターン>

第5回: ショパン演奏研究(2)<練習曲>

第6回: ショパン演奏研究(3)<バラード>

第7回: ショパン演奏研究(4)<スケルツォ>

第8回: ショパン演奏研究(5)<即興曲>

第9回: ショパン演奏研究(6)<前奏曲>

第10回: シューマン作品研究(1)

第11回: シューマン演奏研究(1)<ツィクルス>

第12回: シューマン演奏研究(2)<ソナタor幻想曲>

第13回: リスト作品研究(1)

第14回: リスト演奏研究(1)<性格的小品>

<後期>

第1回: ショパン作品研究(2)

第2回: ショパン演奏研究(7)<ワルツ>

第3回: ショパン演奏研究(8)<マズルカ>

第4回: ショパン演奏研究(9)<ポロネーズ>

第5回: ショパン演奏研究(10)<ソナタ>

第6回: ショパン演奏研究(11)<協奏曲>

第7回: ショパン演奏研究(12)<室内楽>

第8回: ショパン演奏研究(13)<歌曲>

第9回: シューマン作品研究(2)

第10回: シューマン演奏研究(3)<変奏曲>

第11回: シューマン演奏研究(4)<歌曲or室内楽>

第12回: リスト作品研究(2)

第13回: リスト演奏研究(2)<編曲作品>

\* 各回の授業の課題は学生と相談しながら決めます。

#### ◆準備学習の内容◆

発表する課題に関する下記の準備を行って下さい。

1. 作品の成立背景や楽曲構成等に関するプレゼンテーション

2. 演奏

\* 尚、理論系の学生は主に上記1の方面から授業に参加することで、互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び履修状況により、総合的に評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。これ以外は授業内で指示します。

・F.Chopin: National Edition of the Works of Fryderyka Chopin.

・R.Schumann: Samtliche Klavierwerke(Henle Verlag)

・F.Liszt: Neue Ausgabe samtlicher Werke(Editio Musica Budapest).

#### ◆参考図書◆

・J.J.エーゲルディンゲル『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005年)

・K.Hofmann und S.Keil, Robert Schumann, thematisches Verzeichnis samtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens(Schuberth,1982).

・A.Walker, Franz Liszt(Alfred A.Knopf,1983).

#### ◆留意事項◆

この授業はショパンを中心としたロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は、専攻に関わらず、奮ってご参加下さい。

ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-409	開講学期	通年
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

#### ◆授業内容・計画◆

前半・後半のTF曲家のTF曲をハフンへ長々取り上げ、現11曲目TF曲ピアノ演奏法の研究を行う。又、現11曲目に對する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で取り上げた作品を、前期第14回、及び後期第13回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

(前期)

第1回:授業内容、授業の進め方等の説明。第2回の授業で取り上げる作品への導入

第2回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第3回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第4回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第5回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第6回:2曲目の作品(3)演奏法

第7回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第8回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第9回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第10回:3曲目の作品(3)演奏法

第11回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第12回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第13回:ミニ・コンサートのリハーサル

第14回:ミニ・コンサート

(後期)

第1回:4曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第2回:4曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第3回:5曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第4回:5曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第5回:5曲目の作品(3)演奏法

第6回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第7回:6曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第8回:6曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第9回:6曲目の作品(3)演奏法

第10回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第11回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第12回:ミニ・コンサートのリハーサル

第13回:ミニ・コンサート

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、取り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

#### ◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	器楽(鍵盤楽器ソロ)研究A		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-409	開講学期	通年
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

#### ◆授業内容・計画◆

前半・後半のTF曲家のTF曲をハフンへ長々取り上げ、現11曲目TF曲ピアノ演奏法の研究を行う。又、現11曲目に對する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で取り上げた作品を、前期第14回、及び後期第13回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

(前期)

第1回:授業内容、授業の進め方等の説明。第2回の授業で取り上げる作品への導入

第2回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第3回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第4回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第5回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第6回:2曲目の作品(3)演奏法

第7回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第8回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第9回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第10回:3曲目の作品(3)演奏法

第11回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第12回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第13回:ミニ・コンサートのリハーサル

第14回:ミニ・コンサート

(後期)

第1回:4曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第2回:4曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第3回:5曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第4回:5曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第5回:5曲目の作品(3)演奏法

第6回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第7回:6曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第8回:6曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第9回:6曲目の作品(3)演奏法

第10回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第11回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第12回:ミニ・コンサートのリハーサル

第13回:ミニ・コンサート

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、取り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

#### ◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽(伴奏)研究 I		
科目詳細	声楽系		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

芸術歌曲を各言語圏から抽出し、それぞれの言語圏のスペシャリスト4人の講師による指導のもとで演習をする、オムニバス形式の講座。芸術歌曲作品へのアプローチの方法を、特に伴奏者の立場から学ぶことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

各言語圏とは次の通り

前期:第1回、第2回、第3回、第4回

後期:第1回、第2回、第3回

ドイツ歌曲領域1:モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、メンデルスゾーン、ブラームス、グリーグ(ドイツ語による) 安井耕一

前期:第7回、第8回、第9回、

後期:第6回、第7回、第8回

ドイツ歌曲領域2:ブラームス、ヴォルフ、マーラー、シュトラウス、プフィッツナー、レーガー、シェーンベルク、ベルク、ヒンデミット、シベリウス(ドイツ語による) 星野明子

前期:第10回、第11回、第12回、

イタリア歌曲領域:ロッシニ、ドニゼッティ、ベッリーニ、ヴェルディ、トスティ、レスピーギ、チマラ 河原忠之

後期:第9回、第10回、第11回

スペイン歌曲領域:グラナドス、ファリャ、トゥリーナ、(モンサルヴァーチェ、グリーディなどの南米歌曲もあり得る) 河原忠之

第5回、第6回、

フランス歌曲領域:ベルリオーズ、ショソン、ビゼー、サン・サーンス、デュパルク、フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、6人組、メシアン 花岡千春

後期:第4回、第5回

英語歌曲領域:バーバー、コーブランド、バーンステイン、ブリテン、ヴォーン・ウィリアムズ 花岡千春

ロシア歌曲領域:5人組、チャイコフスキー、ラフマニノフ、ショスタコビッチ 花岡千春

前期:第13回、第14回

後期:第12回、第13回

日本歌曲領域:瀧廉太郎から木下牧子、加藤昌則まで 花岡千春

第14回まとめと歌曲伴奏行為の本質について講義

年次計画の詳細は講義初回に渡します。

#### ◆準備学習の内容◆

社会に出て痛感することは、学生時代に「どれだけ多くの作品に触れてこられたか」ということです。

この講義では、出来るだけ多くの作品に触れて貰うことを旨としています。その都度、自分の出来る限りの準備をして臨むこと。芸術歌曲の伴奏にあたり、時には歌い手よりも多くの知識が必要なことは、ままあるものです。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席、授業態度、演習の内容などを、総合的にみて評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

どの言語系の作品も等しく消化出来た上で伴奏の仕事をしていくのは難しいことである。専門の領域のみの作品を演奏していれば有り難いのであるが、実際には専門領域以外のものを演奏する場合は非常に多い。そういった事態のためにも、この講義を通じて、多くの領域の作品に触れ、それぞれの言語圏の作品を伴奏していく為の糸口を掴んで欲しい。

この講義ではかなり膨大な量の作品をこなす必要があるので、覚悟して臨むように。

※声楽専攻の学生の履修も推奨する。

ナンバリング			
科目名	器楽(伴奏)研究 I		
科目詳細	声楽系		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

芸術歌曲を各言語圏から抽出し、それぞれの言語圏のスペシャリスト4人の講師による指導のもとで演習をする、オムニバス形式の講座。芸術歌曲作品へのアプローチの方法を、特に伴奏者の立場から学ぶことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

各言語圏とは次の通り

前期:第1回、第2回、第3回、第4回

後期:第1回、第2回、第3回

ドイツ歌曲領域1:モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、メンデルスゾーン、ブラームス、グリーグ(ドイツ語による) 安井耕一

前期:第7回、第8回、第9回、

後期:第6回、第7回、第8回

ドイツ歌曲領域2:ブラームス、ヴォルフ、マーラー、シュトラウス、プフィッツナー、レーガー、シェーンベルク、ベルク、ヒンデミット、シベリウス(ドイツ語による) 星野明子

前期:第10回、第11回、第12回、

イタリア歌曲領域:ロッシニ、ドニゼッティ、ベッリーニ、ヴェルディ、トスティ、レスピーギ、チマラ 河原忠之

後期:第9回、第10回、第11回

スペイン歌曲領域:グラナドス、ファリャ、トゥリーナ、(モンサルヴァーチェ、グリーディなどの南米歌曲もあり得る) 河原忠之

第5回、第6回、

フランス歌曲領域:ベルリオーズ、ショソン、ビゼー、サン・サーンス、デュパルク、フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、6人組、メシアン 花岡千春

後期:第4回、第5回

英語歌曲領域:バーバー、コーブランド、バーンステイン、ブリテン、ヴォーン・ウィリアムズ 花岡千春

ロシア歌曲領域:5人組、チャイコフスキー、ラフマニノフ、ショスタコビッチ 花岡千春

前期:第13回、第14回

後期:第12回、第13回

日本歌曲領域:瀧廉太郎から木下牧子、加藤昌則まで 花岡千春

第14回まとめと歌曲伴奏行為の本質について講義

年次計画の詳細は講義初回に渡します。

#### ◆準備学習の内容◆

社会に出て痛感することは、学生時代に「どれだけ多くの作品に触れてこられたか」ということです。

この講義では、出来るだけ多くの作品に触れて貰うことを旨としています。その都度、自分の出来る限りの準備をして臨むこと。芸術歌曲の伴奏にあたり、時には歌い手よりも多くの知識が必要なことは、ままあるものです。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席、授業態度、演習の内容などを、総合的にみて評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

どの言語系の作品も等しく消化出来た上で伴奏の仕事をしていくのは難しいことである。専門の領域のみの作品を演奏していれば有り難いのであるが、実際には専門領域以外のものを演奏する場合は非常に多い。そういった事態のためにも、この講義を通じて、多くの領域の作品に触れ、それぞれの言語圏の作品を伴奏していく為の糸口を掴んで欲しい。

この講義ではかなり膨大な量の作品をこなす必要があるので、覚悟して臨むように。

※声楽専攻の学生の履修も推奨する。

ナンバリング			
科目名	器楽(伴奏)研究 I		
科目詳細	声楽系		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

アンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。  
共演者とのコミュニケーションの方法を理解することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。  
前期は管楽器とのアンサンブル、後期は弦楽器とのアンサンブルを中心に取り上げ、レパートリーを広げるとともに、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について、レッスン形式で学ぶ。

以下のポイントをおさえながら進める

- 1) アンサンブルに有益な知識としてピアノと他楽器との違いを知る
- 2) 様式、テンポ、用語や記号など譜面を正しく読み取る
- 3) 装飾音、アーティキュレーションなどを考察する
- 4) ふさわしい音色とそのための演奏技術の探求
- 5) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 6) 合図の出し方、見方、アインザッツ(呼吸)の合わせ方
- 7) 演奏を客観的に聴き、修正を繰り返す

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。  
事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席状況及び受講態度と演奏の成果による授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。  
選択曲については、自由とする。

ナンバリング			
科目名	器楽(伴奏)研究 I		
科目詳細	声楽系		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

アンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。  
共演者とのコミュニケーションの方法を理解することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。  
前期は管楽器とのアンサンブル、後期は弦楽器とのアンサンブルを中心に取り上げ、レパートリーを広げるとともに、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について、レッスン形式で学ぶ。

以下のポイントをおさえながら進める

- 1) アンサンブルに有益な知識としてピアノと他楽器との違いを知る
- 2) 様式、テンポ、用語や記号など譜面を正しく読み取る
- 3) 装飾音、アーティキュレーションなどを考察する
- 4) ふさわしい音色とそのための演奏技術の探求
- 5) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 6) 合図の出し方、見方、アインザッツ(呼吸)の合わせ方
- 7) 演奏を客観的に聴き、修正を繰り返す

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。  
事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席状況及び受講態度と演奏の成果による授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。  
選択曲については、自由とする。

ナンバリング			
科目名	器楽(伴奏)研究 I		
科目詳細	器楽系		
担当教員	三木 香代		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	通年
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

アンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。共演者とのコミュニケーションの方法を理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。前期は管楽器とのアンサンブル、後期は弦楽器とのアンサンブルを中心に取り上げ、レパートリーを広げるとともに、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について、レッスン形式で学ぶ。

以下のポイントをおさえながら進める

- 1) アンサンブルに有益な知識としてピアノと他楽器との違いを知る
- 2) 様式、テンポ、用語や記号など譜面を正しく読み取る
- 3) 装飾音、アーティキュレーションなどを考察する
- 4) ふさわしい音色とそのための演奏技術の探求
- 5) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 6) 合図の出し方、見方、アインザッツ(呼吸)の合わせ方
- 7) 演奏を客観的に聴き、修正を繰り返す

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。  
事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席状況及び受講態度と演奏の成果による授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。  
選択曲については、自由とする。

ナンバリング			
科目名	器楽(伴奏)研究Ⅱ		
科目詳細	器楽系		
担当教員	三木 香代		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	通年
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

アンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。共演者とのコミュニケーションの方法を理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。前期は管楽器とのアンサンブル、後期は弦楽器とのアンサンブルを中心に取り上げ、レパートリーを広げるとともに、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について、レッスン形式で学ぶ。

以下のポイントをおさえながら進める

- 1) アンサンブルに有益な知識としてピアノと他楽器との違いを知る
- 2) 様式、テンポ、用語や記号など譜面を正しく読み取る
- 3) 装飾音、アーティキュレーションなどを考察する
- 4) ふさわしい音色とそのための演奏技術の探求
- 5) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 6) 合図の出し方、見方、アインザッツ(呼吸)の合わせ方
- 7) 演奏を客観的に聴き、修正を繰り返す

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。  
事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席状況及び受講態度と演奏の成果による授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。  
選択曲については、自由とする。

ナンバリング			
科目名	室内楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-112	開講学期	通年
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

他楽器とのアンサンブルを通じて幅広い経験を積み、より柔軟な表現力を習得する。リハーサルの展開に当たってパートナーに何をどのように提案すべきかを深く考え、それを的確に発言できる積極性を培うのが、最大の目標である。

#### ◆授業内容・計画◆

前期、後期を通じてさまざまな楽器とのアンサンブル作品(基本的にトリオ以上の編成)を準備する。指導教員の指示に従うだけの受動的な演奏改善を目的とするのではなく、演奏者自身が演奏上、またアンサンブル上の問題点に気づき、それらを自らの提案を通じて改善するリハーサルを構築できるよう努力する。

単にアンサンブルの技術を高めるだけではなく、リハーサルの際には何に注目し、それをパートナーにどのように伝えたら良いかを自ら考え、実行する。演奏していない者も積極的にリハーサルに関与し、アドバイザーとしての役割を担う。リハーサルで解決すべき課題は何かを見つけ、リハーサルを効率よく構築・進行させる経験を積むことに重点をおき、うまく弾けない時に「その原因は何か、なぜうまくいかないのか」を洞察する能力を磨くべく、授業を展開する。

前期、後期ともいつ、どの作品を演奏するかに関しては授業の開始時に告知する。

#### ◆準備学習の内容◆

アンサンブルの際に何より大切なのは「自分のパートを完璧に準備しておくこと」につける。前期授業の第1曲目として履修する作品に関しては学内の掲示板を見てその指示に従い、授業開始時までに演奏できるよう準備しておくこと。その後の履修作品に関しては授業内で指示する。授業で扱われる作品に関しては、履修者全員がそのスコアを準備すること。楽譜の入手方法に関しては授業内での指示に従うこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席状況を最重視した上で、事前の演奏準備の綿密さや授業内での発言の積極性をふまえた評価を加味する。出席状況の評価には無届けの遅刻・早退も反映されるので注意すること。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

何らかの事情で授業に参加できないことが明らかになった場合は、すみやかに指導教員、およびアンサンブルのパートナーに通達すること。



ナンバリング			
科目名	室内楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-112	開講学期	通年
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

他楽器とのアンサンブルを通じて幅広い経験を積み、より柔軟な表現力を習得する。リハーサルの展開に当たってパートナーに何をどのように提案すべきかを深く考え、それを的確に発言できる積極性を培うのが、最大の目標である。

#### ◆授業内容・計画◆

前期、後期を通じてさまざまな楽器とのアンサンブル作品(基本的にトリオ以上の編成)を準備する。指導教員の指示に従うだけの受動的な演奏改善を目的とするのではなく、演奏者自身が演奏上、またアンサンブル上の問題点に気づき、それらを自らの提案を通じて改善するリハーサルを構築できるよう努力する。

単にアンサンブルの技術を高めるだけではなく、リハーサルの際には何に注目し、それをパートナーにどのように伝えたら良いかを自ら考え、実行する。演奏していない者も積極的にリハーサルに関与し、アドバイザーとしての役割を担う。リハーサルで解決すべき課題は何かを見つけ、リハーサルを効率よく構築・進行させる経験を積むことに重点をおき、うまく弾けない時に「その原因は何か、なぜうまくいかないのか」を洞察する能力を磨くべく、授業を展開する。

前期、後期ともいつ、どの作品を演奏するかに関しては授業の開始時に告知する。

#### ◆準備学習の内容◆

アンサンブルの際に何より大切なのは「自分のパートを完璧に準備しておくこと」につける。前期授業の第1曲目として履修する作品に関しては学内の掲示板を見てその指示に従い、授業開始時までに演奏できるよう準備しておくこと。その後の履修作品に関しては授業内で指示する。授業で扱われる作品に関しては、履修者全員がそのスコアを準備すること。楽譜の入手方法に関しては授業内での指示に従うこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席状況を最重視した上で、事前の演奏準備の綿密さや授業内での発言の積極性をふまえた評価を加味する。出席状況の評価には無届けの遅刻・早退も反映されるので注意すること。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

何らかの事情で授業に参加できないことが明らかになった場合は、すみやかに指導教員、およびアンサンブルのパートナーに通達すること。

ナンバリング			
科目名	器楽(弦管打)演習 I		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	時間外	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

演奏家になるために必要なテクニックを習得する。

◆授業内容・計画◆

修了時研究報告を見据えたレパートリーを指導教員の意見を取り入れいくつか作り、それに沿って研究を進める。また、室内楽、合奏などの授業を積極的に受けアンサンブル能力も高める。

◆準備学習の内容◆

授業内指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業内評価とする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等にに合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング			
科目名	器楽(弦管打)演習 I		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	時間外	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

演奏家になるために必要なテクニックを習得する。

◆授業内容・計画◆

修了時研究報告を見据えたレパートリーを指導教員の意見を取り入れいくつか作り、それに沿って研究を進める。また、室内楽、合奏などの授業を積極的に受けアンサンブル能力も高める。

◆準備学習の内容◆

授業内指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業内評価とする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等にに合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング			
科目名	器楽(弦管打)研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	武田 忠善		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

レパートリー研究だけではなくステージマナーも含め、演奏するということはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を育成する。

◆授業内容・計画◆

現在勉強している曲を持ち寄り、担当教員が進行役を務め、毎回発表会形式とする。  
自己紹介に始まり、曲目解説も含め自身の曲に対する考えを述べ演奏に入る。  
終了後参加者全員で演奏に対してディスカッションをする。  
別称、パフォーマンスクラスとする。

◆準備学習の内容◆

授業内指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業内評価とする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等にに合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング			
科目名	器楽(弦管打)研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	武田 忠善		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

レパートリー研究だけではなくステージマナーも含め、演奏するということはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を育成する。

◆授業内容・計画◆

現在勉強している曲を持ち寄り、担当教員が進行役を務め、毎回発表会形式とする。  
自己紹介に始まり、曲目解説も含め自身の曲に対する考えを述べ演奏に入る。  
終了後参加者全員で演奏に対してディスカッションをする。  
別称、パフォーマンスクラスとする。

◆準備学習の内容◆

授業内指示。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業内評価とする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等にに合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング			
科目名	作曲演習 I		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	時間外	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。  
(2)中間発表作品及び修了作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

1年次は中間発表に向けた作品創作と自主的作品創作。  
2年次は修了作品創作。  
(いずれも編成は自由であるが中間発表作品および修了作品に関しては担当教員と相談し決定すること)

内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、特に以下の項目に留意して授業展開を行う。

1. 世界の音楽作品の聴取
2. 時代様式の考察
3. 楽器・奏法・技法の検討
4. 芸術文化への広汎な視点と創作との関係性
5. 音楽語法の考察
6. 自律的方法論の模索

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。  
担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

1年次  
中間発表の作品演奏審査と平常の授業への取組みを総合的に評価する。  
2年次  
修了審査会における作品の演奏審査と、最終試験における譜面審査(面接)により評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

修了作品は研究課題と関連付けた内容が問われる。

ナンバリング			
科目名	作曲演習 I		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	時間外	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。  
(2)中間発表作品及び修了作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

1年次は中間発表に向けた作品創作と自主的作品創作。  
2年次は修了作品創作。  
(いずれも編成は自由であるが中間発表作品および修了作品に関しては担当教員と相談し決定すること)

内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、特に以下の項目に留意して授業展開を行う。

1. 世界の音楽作品の聴取
2. 時代様式の考察
3. 楽器・奏法・技法の検討
4. 芸術文化への広汎な視点と創作との関係性
5. 音楽語法の考察
6. 自律的方法論の模索

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。  
担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

1年次  
中間発表の作品演奏審査と平常の授業への取組みを総合的に評価する。  
2年次  
修了審査会における作品の演奏審査と、最終試験における譜面審査(面接)により評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

修了作品は研究課題と関連付けた内容が問われる。

ナンバリング			
科目名	ソルフェージュ演習 I		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	時間外	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身に付けている。具体的には、指導力、演奏表現能力、教材作成能力、論文執筆能力が備わっていることが目標である。

#### ◆授業内容・計画◆

まず、自己のソルフェージュ能力、及び基礎となるエクリチュール、作曲、楽曲分析能力などを磨く。同時に、文献研究、教材研究、教材作成と実践・指導などにより、教育者としての資質を高める。

具体的授業内容は次の通り。

- 1.~2.先行研究・論文の検討
- 3.~4.先行研究・論文のレジュメ作成
- 5.~6.ソルフェージュ指導に関する基本語彙
- 7.~9.授業見学に関するレポート
- 10.~14.オーケストラ・スコアのリダクション
- 15.~18.教育論、演奏法に関する研究
- 19.~22.教材研究
- 23.~29.教材作成と実践、指導、レポート
- 30.全体のまとめ

授業とは別に随時論文執筆に関する相談、指導などを行う。

#### ◆準備学習の内容◆

予め指定された文献、教材、楽曲について、深く探求、思索したうえで、議論の中で意見を述べる、あるいは新しい提案ができるよう準備する。また、演奏表現については、自己が表現するだけでなく、指導する立場からのアプローチについて考え、説明することができるよう準備する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

1年次は、中間発表(総譜視奏と教材作成)及び平常点。  
2年次は、修士論文、修了演奏(総譜視奏と教材作成)及び平常点。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

その都度指示する。

#### ◆参考図書◆

その都度指示する。

#### ◆留意事項◆

なるべく多くのソルフェージュ論を読み、楽譜を読んで音楽を総合的に広く知ること。特に修士論文で扱う事柄については、専門的で深い視座が要求される。ソルフェージュを理論のみで捉えることなく、実際の生きた音楽として「美」を追求するという大前提を忘れないこと。音楽の深さと楽しさを伝えられる指導者を目指して欲しい。



ナンバリング			
科目名	ソルフェージュ演習 I		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	時間外	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身に付けている。具体的には、指導力、演奏表現能力、教材作成能力、論文執筆能力が備わっていることが目標である。

#### ◆授業内容・計画◆

まず、自己のソルフェージュ能力、及び基礎となるエクリチュール、作曲、楽曲分析能力などを磨く。同時に、文献研究、教材研究、教材作成と実践・指導などにより、教育者としての資質を高める。

具体的授業内容は次の通り。

- 1.~2.先行研究・論文の検討
- 3.~4.先行研究・論文のレジュメ作成
- 5.~6.ソルフェージュ指導に関する基本語彙
- 7.~9.授業見学に関するレポート
- 10.~14.オーケストラ・スコアのリダクション
- 15.~18.教育論、演奏法に関する研究
- 19.~22.教材研究
- 23.~29.教材作成と実践、指導、レポート
- 30.全体のまとめ

授業とは別に随時論文執筆に関する相談、指導などを行う。

#### ◆準備学習の内容◆

予め指定された文献、教材、楽曲について、深く探求、思索したうえで、議論の中で意見を述べる、あるいは新しい提案ができるよう準備する。また、演奏表現については、自己が表現するだけでなく、指導する立場からのアプローチについて考え、説明することができるよう準備する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

1年次は、中間発表(総譜視奏と教材作成)及び平常点。  
2年次は、修士論文、修了演奏(総譜視奏と教材作成)及び平常点。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

その都度指示する。

#### ◆参考図書◆

その都度指示する。

#### ◆留意事項◆

なるべく多くのソルフェージュ論を読み、楽譜を読んで音楽を総合的に広く知ること。特に修士論文で扱う事柄については、専門的で深い視座が要求される。ソルフェージュを理論のみで捉えることなく、実際の生きた音楽として「美」を追求するという大前提を忘れないこと。音楽の深さと楽しさを伝えられる指導者を目指して欲しい。

ナンバリング			
科目名	作曲法研究 I		
科目詳細			
担当教員	T. マイヤー＝F		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	通年
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

1910年以降の音楽史上の出来事を基に、その後派生した多くの様式、手法について考察する。  
各作曲家の様式のみならず、時代ごとにおける作品の対比や、時代が作曲家に与えた影響などについてもとりあげる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. シューベルト①
2. シューベルト②
3. シューベルト③
4. バルトーク①
5. バルトーク②
6. ストラヴィンスキー①
7. ストラヴィンスキー②
8. ヴェーベルン①
9. ヴェーベルン②
10. ベルク①
11. ベルク②
12. ヒンデミット①
13. ヒンデミット②
14. その他の作曲家①
15. その他の作曲家②
16. その他の作曲家③
17. その他の作曲家④
18. その他の作曲家⑤
19. その他の作曲家⑥
20. その他の作曲家⑦
21. その他の作曲家⑧
22. その他の作曲家⑨
23. その他の作曲家⑩
24. その他の作曲家⑪
25. その他の作曲家⑫
26. その他の作曲家⑬
27. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で扱う作曲家について各自予備知識を準備しておくこと。また、授業後も、授業で扱った内容を元に、作曲家・作品についての知識を集めること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他随時課題を出す。  
授業内で提供される課題の遂行状況および授業に対する意欲も参考とする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

その都度プリントを配付

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	作曲法研究 I		
科目詳細			
担当教員	T. マイヤー⇒F		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	通年
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

1910年以降の音楽史上の出来事を基に、その後派生した多くの様式、手法について考察する。  
各作曲家の様式のみならず、時代ごとにおける作品の対比や、時代が作曲家に与えた影響などについてもとりあげる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. シューベルト①
2. シューベルト②
3. シューベルト③
4. バルトーク①
5. バルトーク②
6. ストラヴィンスキー①
7. ストラヴィンスキー②
8. ヴェーベルン①
9. ヴェーベルン②
10. ベルク①
11. ベルク②
12. ヒンデミット①
13. ヒンデミット②
14. その他の作曲家①
15. その他の作曲家②
16. その他の作曲家③
17. その他の作曲家④
18. その他の作曲家⑤
19. その他の作曲家⑥
20. その他の作曲家⑦
21. その他の作曲家⑧
22. その他の作曲家⑨
23. その他の作曲家⑩
24. その他の作曲家⑪
25. その他の作曲家⑫
26. その他の作曲家⑬
27. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で扱う作曲家について各自予備知識を準備しておくこと。また、授業後も、授業で扱った内容を元に、作曲家・作品についての知識を集めること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他随時課題を出す。  
授業内で提供される課題の遂行状況および授業に対する意欲も参考とする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

その都度プリントを配付

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	作曲法研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	川島 素晴		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-12	開講学期	通年
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

多岐にわたる現代音楽の作曲技法を、CD試聴、楽譜の検証、楽曲分析を通じて概観することで会得する。楽曲分析を中心に据えて研究していくが、大切なのは作曲家の意図、イメージーションやコスモロジーに肉薄することであり、分析が机上の作業に終始しないことである。ここで学んだことの自作への応用が技法として借用・援用することではなく、創作家としての姿勢を做うことにつなげていく。

#### ◆授業内容・計画◆

前期

- (1) 新ウィーン楽派-1
- (2) 新ウィーン楽派-2
- (3) メシアン
- (4) ブーレーズ
- (5) シュトックハウゼン
- (6) ノーノ、電子音楽
- (7) クセナキス
- (8) ペンデレツキとポーランド楽派
- (9) リゲティ-1
- (10) ナンカロウとリゲティ-2
- (11) ベリオと引用音楽、多様式
- (12) グロポカールと即興音楽
- (13) カーゲルとムジークテアター
- (14) 20世紀初頭の様々な動向

後期

- (1) アイヴズ、カウエル
- (2) ヴァレーズ、アンタイル、パーチ、ハリソン
- (3) ケージ-1
- (4) ケージ-2
- (5) フェルドマン、フルクサス
- (6) ライヒとミニマル音楽、他
- (7) ラッヘンマン、ホリガーとドイツ語圏の音楽
- (8) シェルシ、ドナトーニとイタリアの作曲家
- (9) スペクトル楽派とその後のフランス音楽
- (10) 新ロマン主義とニュー・コンプレキシティー
- (11) その後の動向
- (12) 日本の作曲家
- (13) 課題発表＋補遺

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で扱う楽曲について、できる限り事前に読譜、試聴をしておくことが望ましい。また、授業内では扱う楽曲の全てを試聴できない場合が多い。事後にも、復習として読譜とともに試聴し、研究を深めるべきである。毎回の授業では、次回までの課題を示す場合が多いので、それについては確実にを行い、自身が興味を持った作曲家・事項については、更に深く掘り下げた研究を進めるべきである。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

- 1) 前期末レポート「リゲティ『室内協奏曲』第1楽章」(30%)
- 2) 後期末レポート「ドナトーニ『Omar』」(30%)
- 3) 後期末作品「通常の奏法を用いないピアノ作品」提出、及び演奏発表(30%)
- 4) 授業内での取り組み内容(10%)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	作曲法研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	川島 素晴		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-12	開講学期	通年
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

多岐にわたる現代音楽の作曲技法を、CD試聴、楽譜の検証、楽曲分析を通じて概観することで会得する。楽曲分析を中心に据えて研究していくが、大切なのは作曲家の意図、イメージーションやコスモロジーに肉薄することであり、分析が机上の作業に終始しないことである。ここで学んだことの自作への応用が技法として借用・援用することではなく、創作家としての姿勢を做うことにつなげていく。

#### ◆授業内容・計画◆

前期

- (1) 新ウィーン楽派-1
- (2) 新ウィーン楽派-2
- (3) メシアン
- (4) ブーレーズ
- (5) シュトックハウゼン
- (6) ノーノ、電子音楽
- (7) クセナキス
- (8) ペンデレツキとポーランド楽派
- (9) リゲティ-1
- (10) ナンカロウとリゲティ-2
- (11) ベリオと引用音楽、多様式
- (12) グロポカールと即興音楽
- (13) カーゲルとムジークテアター
- (14) 20世紀初頭の様々な動向

後期

- (1) アイヴズ、カウエル
- (2) ヴァレーズ、アンタイル、パーチ、ハリソン
- (3) ケージ-1
- (4) ケージ-2
- (5) フェルドマン、フルクサス
- (6) ライヒとミニマル音楽、他
- (7) ラッヘンマン、ホリガーとドイツ語圏の音楽
- (8) シェルシ、ドナトーニとイタリアの作曲家
- (9) スペクトル楽派とその後のフランス音楽
- (10) 新ロマン主義とニュー・コンプレキシティー
- (11) その後の動向
- (12) 日本の作曲家
- (13) 課題発表＋補遺

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で扱う楽曲について、できる限り事前に読譜、試聴をしておくことが望ましい。また、授業内では扱う楽曲の全てを試聴できない場合が多い。事後にも、復習として読譜とともに試聴し、研究を深めるべきである。毎回の授業では、次回までの課題を示す場合が多いので、それについては確実にを行い、自身が興味を持った作曲家・事項については、更に深く掘り下げた研究を進めるべきである。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

- 1) 前期末レポート「リゲティ『室内協奏曲』第1楽章」(30%)
- 2) 後期末レポート「ドナトーニ『Omar』」(30%)
- 3) 後期末作品「通常の奏法を用いないピアノ作品」提出、及び演奏発表(30%)
- 4) 授業内での取り組み内容(10%)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	コンピュータ音楽研究 I		
科目詳細			
担当教員	松田 周		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-04	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

創作や演奏、インストール、教育などのための、高度かつ洗練された音楽アプリケーションを開発できる。DIPSを援用したインタラクティブ・マルチメディア作品を創作できる。

#### ◆授業内容・計画◆

履修者ごとにプロジェクトを立案し、実現に向けての基礎研究とプログラミングの実践を行う。さらに仕様書やマニュアルの作成までを視野に入れる。授業は基本的に個人指導により進めてゆく。

Max未経験者にはMaxの基礎から実習指導を始める。

- 1)オリエンテーション、事例紹介
- 2)プロジェクト立案
- 3)プロジェクト遂行
- 4)プロジェクト遂行
- 5)プロジェクト遂行
- 6)中間報告会
- 7)中間報告会
- 8)プロジェクト遂行
- 9)プロジェクト遂行
- 10)プロジェクト遂行
- 11)中間報告会
- 12)中間報告会
- 13)プロジェクト仕上げ
- 14)プロジェクト仕上げ
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

個人プロジェクトの遂行はもとより、関連分野のリサーチを怠らないこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内実習評価、アプリケーション、インタラクティブ・マルチメディア作品、またはマルチメディア・アート等に関する研究論文(テーマ等詳細は後日指定)提出。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

Pure Data—チュートリアル&リファレンス(美山千香士 著/ワークスコーポレーション)  
 コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート(Curtis Roads 著/東京電機大学出版局)  
 Designing Sound(Andy Farnell/The MIT Press)  
 Electronic Music and Sound Design(Alessandro Cipriani/Contemponet)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	コンピュータ音楽研究 I		
科目詳細			
担当教員	松田 周		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-04	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

創作や演奏、インストール、教育などのための、高度かつ洗練された音楽アプリケーションを開発できる。DIPSを援用したインタラクティブ・マルチメディア作品を創作できる。

#### ◆授業内容・計画◆

履修者ごとにプロジェクトを立案し、実現に向けての基礎研究とプログラミングの実践を行う。さらに仕様書やマニュアルの作成までを視野に入れる。授業は基本的に個人指導により進めてゆく。

Max未経験者にはMaxの基礎から実習指導を始める。

- 1)オリエンテーション、事例紹介
- 2)プロジェクト立案
- 3)プロジェクト遂行
- 4)プロジェクト遂行
- 5)プロジェクト遂行
- 6)中間報告会
- 7)中間報告会
- 8)プロジェクト遂行
- 9)プロジェクト遂行
- 10)プロジェクト遂行
- 11)中間報告会
- 12)中間報告会
- 13)プロジェクト仕上げ
- 14)プロジェクト仕上げ
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

個人プロジェクトの遂行はもとより、関連分野のリサーチを怠らないこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内実習評価、アプリケーション、インタラクティブ・マルチメディア作品、またはマルチメディア・アート等に関する研究論文(テーマ等詳細は後日指定)提出。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

Pure Data—チュートリアル&リファレンス(美山千香士 著/ワークスコーポレーション)  
 コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート(Curtis Roads 著/東京電機大学出版局)  
 Designing Sound(Andy Farnell/The MIT Press)  
 Electronic Music and Sound Design(Alessandro Cipriani/Contemponet)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	コンピュータ音楽研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	古川 聖		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-01, 2-02	開講学期	通年
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

◆準備学習の内容◆

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	コンピュータ音楽研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	古川 聖		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-01, 2-02	開講学期	通年
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

◆準備学習の内容◆

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	ソルフェージュ研究		
科目詳細			
担当教員	板倉 康明		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-403	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀以降の作品を題材とし、広義のソルフェージュの概念を援用しつつテキストを読み込み、演奏解釈へどのように関連付けて実際の演奏の質を高めていくかを研究する。

◆授業内容・計画◆

学生が取り上げる作品をクラスで共有し、様々な角度から、読譜、分析を行い、作品自体の音空間を考察する。次の段階として、その読取を自己の実演に対する批判的聴取を重ねることにより音響現象として実体化していく。通常のレパトリーでは扱いきれない、現代作品を中心に授業を展開する。また、数々の音楽が創造される現場を実際に体験することも企図している。

◆準備学習の内容◆

1945年以降に作曲された作品について、興味を持ち楽譜、音の資料に常に接するように準備する。また、参考文献は英語、又は仏語となるので、これらの語学の基本的能力があることが望ましい。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点で評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

特に無し。

◆参考図書◆

取り上げる作品により、その都度指定する。

◆留意事項◆

実技の授業となるから事前に十分な準備をすること。

ナンバリング			
科目名	ソルフェージュ研究		
科目詳細			
担当教員	板倉 康明		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-403	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

20世紀以降の作品を題材とし、広義のソルフェージュの概念を援用しつつテキストを読み込み、演奏解釈へどのように関連付けて実際の演奏の質を高めていくかを研究する。

#### ◆授業内容・計画◆

学生が取り上げる作品をクラスで共有し、様々な角度から、読譜、分析を行い、作品自体の音空間を考察する。次の段階として、その読取を自己の実演に対する批判的聴取を重ねることにより音響現象として実体化していく。通常のレパトリーでは扱いきれない、現代作品を中心に授業を展開する。また、数々の音楽が創造される現場を実際に体験することも企図している。

#### ◆準備学習の内容◆

1945年以降に作曲された作品について、興味を持ち楽譜、音の資料に常に接するように準備する。また、参考文献は英語、又は仏語となるので、これらの語学の基本的能力があることが望ましい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点で評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に無し。

#### ◆参考図書◆

取り上げる作品により、その都度指定する。

#### ◆留意事項◆

実技の授業となるから事前に十分な準備をすること。

ナンバリング			
科目名	作曲家作品研究		
科目詳細			
担当教員	森垣 桂一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	通年
曜日・時限	金3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

- (1) 作曲家とその作品について問題意識を持って調査・研究し、楽曲分析等によって結論を導き出すことができる。
- (2) 修士論文、研究課題作成への材料となる課題を策定し、プレゼンテーションできる。

◆授業内容・計画◆

はじめに「作曲家の様式」「作品の分析」「プレゼンテーション」等について、音源・映像資料等を用いたレクチャーを行う。その後、個々の学生が最も興味のある作曲家の作品を分析し、それぞれが1年間に5～6回にわたって研究発表する。また毎回発表の内容について参加者全員で討議・討論をする。

◆準備学習の内容◆

各自研究発表に向けて、研究と分析を十分にしておくこと。プレゼンテーションの準備として、配布資料(内容は授業中に指導する)を作成し、取り上げる楽曲の音源、楽譜等を用意しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

研究発表の内容、平常の授業への取組みを総合的にみて評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	作曲家作品研究		
科目詳細			
担当教員	森垣 桂一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	通年
曜日・時限	金3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

- (1) 作曲家とその作品について問題意識を持って調査・研究し、楽曲分析等によって結論を導き出すことができる。
- (2) 修士論文、研究課題作成への材料となる課題を策定し、プレゼンテーションできる。

◆授業内容・計画◆

はじめに「作曲家の様式」「作品の分析」「プレゼンテーション」等について、音源・映像資料等を用いたレクチャーを行う。その後、個々の学生が最も興味のある作曲家の作品を分析し、それぞれが1年間に5～6回にわたって研究発表する。また毎回発表の内容について参加者全員で討議・討論をする。

◆準備学習の内容◆

各自研究発表に向けて、研究と分析を十分にしておくこと。プレゼンテーションの準備として、配布資料(内容は授業中に指導する)を作成し、取り上げる楽曲の音源、楽譜等を用意しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

研究発表の内容、平常の授業への取組みを総合的にみて評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	音楽学演習 I		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-25	開講学期	通年
曜日・時限	火5	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学の研究方法を理解して、応用できる。
- ②研究内容を適切に論述して、修士論文を執筆できる。

◆授業内容・計画◆

以下の手順を確認して、執筆をすすめる。

- ・研究の論点を絞る
- ・先行研究のふまえ、しかるべき方法論にのっとり、適正に論証をすすめる。
- ・明確な結論を導く。
- ・適正な書式の原則にそって執筆する。

・毎授業ごとに、1週間の研究状況を報告し、発表する。

◆準備学習の内容◆

各自研究を継続して、授業内の発表の資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と修士論文

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時授業で提示

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	音楽学演習 I		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-25	開講学期	通年
曜日・時限	火5	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学の研究方法を理解して、応用できる。
- ②研究内容を適切に論述して、修士論文を執筆できる。

◆授業内容・計画◆

以下の手順を確認して、執筆をすすめる。

- ・研究の論点を絞る
- ・先行研究のふまえ、しかるべき方法論にのっとり、適正に論証をすすめる。
- ・明確な結論を導く。
- ・適正な書式の原則にそって執筆する。

・毎授業ごとに、1週間の研究状況を報告し、発表する。

◆準備学習の内容◆

各自研究を継続して、授業内の発表の資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と修士論文

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時授業で提示

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	音楽学演習 I		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-202	開講学期	通年
曜日・時限	水5	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学の研究方法を理解して、応用できる。
- ②研究内容を適切に論述して、修士論文を執筆できる。

◆授業内容・計画◆

以下の手順を確認して、執筆をすすめる。

- ・研究の論点を絞る
- ・先行研究のふまえ、しかるべき方法論にのっとり、適正に論証をすすめる。
- ・明確な結論を導く。
- ・適正な書式の原則にそって執筆する。

・毎授業ごとに、1週間の研究状況を報告し、発表する。

◆準備学習の内容◆

各自研究を継続して、授業内の発表の資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と修士論文

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時授業で提示

◆留意事項◆

特になし



ナンバリング			
科目名	音楽学演習 I		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-202	開講学期	通年
曜日・時限	水5	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学の研究方法を理解して、応用できる。
- ②研究内容を適切に論述して、修士論文を執筆できる。

◆授業内容・計画◆

以下の手順を確認して、執筆をすすめる。

- ・研究の論点を絞る
- ・先行研究のふまえ、しかるべき方法論にのっとり、適正に論証をすすめる。
- ・明確な結論を導く。
- ・適正な書式の原則にそって執筆する。

・毎授業ごとに、1週間の研究状況を報告し、発表する。

◆準備学習の内容◆

各自研究を継続して、授業内の発表の資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と修士論文

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時授業で提示

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	音楽学研究法 I		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-309	開講学期	通年
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)、音楽学研究コース3～4年生、ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程(2年生以上)は修論プロスペクト、音楽学研究コース(4年生以上)は卒論プロスペクトの発表、大学院修士過程(1年生)には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

#### ○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教員発表(1)
- 第3回 教員発表(2)
- 第4回 文献紹介1(学部4年生)
- 第5回 文献紹介2(学部4年生)
- 第6回 文献紹介3(修士課程1年生)
- 第7回 文献紹介4(修士課程2年生)
- 第8回 修論プロスペクトと文献紹介(各1名)
- 第9回 修論プロスペクトと文献紹介(各1名)
- 第10回 卒論プロスペクト1(3名)
- 第11回 卒論プロスペクト2(2名)
- 第12回 教員発表(3)
- 第13回 教員発表(4)
- 第14回 教員発表(5)
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏まえ、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

発表・平常点(ディスカッション)・期末レポート。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適時、指示する。

#### ◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング			
科目名	音楽学研究法 I		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-309	開講学期	通年
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)、音楽学研究コース3～4年生、ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程(2年生以上)は修論プロスペクト、音楽学研究コース(4年生以上)は卒論プロスペクトの発表、大学院修士過程(1年生)には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

#### ○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教員発表(1)
- 第3回 教員発表(2)
- 第4回 文献紹介1(学部4年生)
- 第5回 文献紹介2(学部4年生)
- 第6回 文献紹介3(修士課程1年生)
- 第7回 文献紹介4(修士課程2年生)
- 第8回 修論プロスペクトと文献紹介(各1名)
- 第9回 修論プロスペクトと文献紹介(各1名)
- 第10回 卒論プロスペクト1(3名)
- 第11回 卒論プロスペクト2(2名)
- 第12回 教員発表(3)
- 第13回 教員発表(4)
- 第14回 教員発表(5)
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジユメの作成方法等を踏まえ、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

発表・平常点(ディスカッション)・期末レポート。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適時、指示する。

#### ◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング			
科目名	音楽教育研究法 I		
科目詳細			
担当教員	塩原 麻里		
学年	1年	クラス	01
講義室	1-120	開講学期	通年
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1) 音楽教育研究の様々な方法について理解する。
- (2) 内外の代表的な音楽教育研究に関する知識を得る。
- (3) 海外の最新の音楽教育研究の動向を、英語の情報や論文を通して理解する。
- (4) 自分の研究課題のための研究方法を選択する。
- (5) 修士論文、その他の研究論文を書くために必要なことがらを理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期

1. オリエンテーション: 授業の内容説明とスケジュールの確認
2. 音楽教育における研究とは
3. 音楽教育研究の心得
4. 音楽教育研究の手続き
5. 量的研究について
6. 質的研究について
7. 歴史的な研究について
8. 民族誌的研究について
9. パフォーマンスに関する音楽教育研究について
10. 音楽教育研究に関する内外の動向
11. インタビューについて
12. 観察について
13. データの分析とは
14. レポート課題の設定
15. まとめ

後期

1. レポートの発表
2. 修士論文のテーマに関する討議
3. 修士論文の資料の収集と整理
4. 修士論文の章立て
5. 修士論文の引用と文献について
6. 修士論文の資料と追記について
7. 修士論文の文章について
8. イギリスの音楽教育研究(1): 音楽発達
9. イギリスの音楽教育研究(2): インフォーマル学習
10. イギリスの音楽教育研究(3): コミュニティ音楽
11. 修士論文の概要の発表と討議
12. 修士論文完成のための諸事項
13. 修士論文完成のための質疑応答
14. 修士論文の中間発表
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い、資料や文献を読み込んだ上で授業に臨むこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

レポート、その他随時課題を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。授業内で適時提示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で随時紹介する。

#### ◆留意事項◆

英語の文献も読むので、積極的に英語に親しむようにすること。

ナンバリング			
科目名	音楽教育研究法 I		
科目詳細			
担当教員	塩原 麻里		
学年	1年	クラス	01
講義室	1-120	開講学期	通年
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1) 音楽教育研究の様々な方法について理解する。
- (2) 内外の代表的な音楽教育研究に関する知識を得る。
- (3) 海外の最新の音楽教育研究の動向を、英語の情報や論文を通して理解する。
- (4) 自分の研究課題のための研究方法を選択する。
- (5) 修士論文、その他の研究論文を書くために必要なことがらを理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期

1. オリエンテーション: 授業の内容説明とスケジュールの確認
2. 音楽教育における研究とは
3. 音楽教育研究の心得
4. 音楽教育研究の手続き
5. 量的研究について
6. 質的研究について
7. 歴史的研究について
8. 民族誌的研究について
9. パフォーマンスに関する音楽教育研究について
10. 音楽教育研究に関する内外の動向
11. インタビューについて
12. 観察について
13. データの分析とは
14. レポート課題の設定
15. まとめ

後期

1. レポートの発表
2. 修士論文のテーマに関する討議
3. 修士論文の資料の収集と整理
4. 修士論文の章立て
5. 修士論文の引用と文献について
6. 修士論文の資料と追記について
7. 修士論文の文章について
8. イギリスの音楽教育研究(1): 音楽発達
9. イギリスの音楽教育研究(2): インフォーマル学習
10. イギリスの音楽教育研究(3): コミュニティ音楽
11. 修士論文の概要の発表と討議
12. 修士論文完成のための諸事項
13. 修士論文完成のための質疑応答
14. 修士論文の中間発表
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い、資料や文献を読み込んだ上で授業に臨むこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

レポート、その他随時課題を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。授業内で適時提示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で随時紹介する。

#### ◆留意事項◆

英語の文献も読むので、積極的に英語に親しむようにすること。

ナンバリング			
科目名	作品研究		
科目詳細	声楽		
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-25	開講学期	通年
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

声楽作品を研究する手立てを学ぶ

音楽修士を持つ演奏家たるにふさわしい知識を修得し、実演で得た経験や視点を織り交ぜながら、それを客観的な方法で発表できる手立てを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

声楽作品の研究の前段階として演奏家として論文を書くことについて考え、実際の資料調査やその分析などをおこないながら、専門家としての視点を養う。

研究テーマについては受講者のアンケートをもとに決定する。

##### 【前期】

第1回:オリエンテーション  
 第2回～第5回:「韻律法」  
 第6回～第9回:「詩文学」  
 第10回～第13回:「神話」「聖書」  
 第14・15回:「総括」

##### 【後期】

第1回:オリエンテーション  
 第2回～第5回:「作品分析」  
 第6回～第12回:「研究発表」  
 第13回～第15回:「総括」

※受講者の理解度や準備の状態によって内容や進度を変更することがある。また、講義を受講するにあたってあらかじめ目を通しておくべき図書を以下に挙げる。

村松真理子『謎と暗号で読み解くダンテ「新曲」』、角川書店。  
 嶺貞子監修『イタリアのオペラと歌曲をみる12章』、東京堂出版。  
 天野恵ほか『イタリアの詩歌』、三修社。  
 池上英洋『西洋美術史入門』、筑摩書房。  
 鷲田小彌太『論文の書き方入門』、PHP研究所。(類書でも可)

#### ◆準備学習の内容◆

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点を基本とする(50%)。研究発表の水準(30%)や討議への貢献度(20%)をベースにして、総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

演奏家として、音楽家として、芸術家として、教養人としての才覚を身に付けるためには、飽くなく探究心と弛まぬ努力が必要であろうから、自分に厳しくあって欲しい。  
 また、研究したことが演奏に何らかのかたちで生きてくるような説得力ある演奏を目指して欲しい。

ナンバリング			
科目名	作品研究		
科目詳細	声楽		
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-25	開講学期	通年
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

声楽作品を研究する手立てを学ぶ

音楽修士を持つ演奏家たるにふさわしい知識を修得し、実演で得た経験や視点を織り交ぜながら、それを客観的な方法で発表できる手立てを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

声楽作品の研究の前段階として演奏家として論文を書くことについて考え、実際の資料調査やその分析などをおこないながら、専門家としての視点を養う。

研究テーマについては受講者のアンケートをもとに決定する。

##### 【前期】

第1回:オリエンテーション  
 第2回～第5回:「韻律法」  
 第6回～第9回:「詩文学」  
 第10回～第13回:「神話」「聖書」  
 第14・15回:「総括」

##### 【後期】

第1回:オリエンテーション  
 第2回～第5回:「作品分析」  
 第6回～第12回:「研究発表」  
 第13回～第15回:「総括」

※受講者の理解度や準備の状態によって内容や進度を変更することがある。また、講義を受講するにあたってあらかじめ目を通しておくべき図書を以下に挙げる。

村松真理子『謎と暗号で読み解くダンテ「新曲」』、角川書店。  
 嶺貞子監修『イタリアのオペラと歌曲をみる12章』、東京堂出版。  
 天野恵ほか『イタリアの詩歌』、三修社。  
 池上英洋『西洋美術史入門』、筑摩書房。  
 鷲田小彌太『論文の書き方入門』、PHP研究所。(類書でも可)

#### ◆準備学習の内容◆

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点を基本とする(50%)。研究発表の水準(30%)や討議への貢献度(20%)をベースにして、総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

演奏家として、音楽家として、芸術家として、教養人としての才覚を身に付けるためには、飽くなく探究心と弛まぬ努力が必要であろうから、自分に厳しくあって欲しい。  
 また、研究したことが演奏に何らかのかたちで生きてくるような説得力ある演奏を目指して欲しい。

ナンバリング			
科目名	作品研究		
科目詳細	声楽		
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-25	開講学期	通年
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

声楽作品を研究する手立てを学ぶ

音楽修士を持つ演奏家たるにふさわしい知識を修得し、実演で得た経験や視点を織り交ぜながら、それを客観的な方法で発表できる手立てを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

声楽作品の研究の前段階として演奏家として論文を書くことについて考え、実際の資料調査やその分析などをおこないながら、専門家としての視点を養う。

研究テーマについては受講者のアンケートをもとに決定する。

##### 【前期】

第1回:オリエンテーション  
 第2回～第5回:「韻律法」  
 第6回～第9回:「詩文学」  
 第10回～第13回:「神話」「聖書」  
 第14・15回:「総括」

##### 【後期】

第1回:オリエンテーション  
 第2回～第5回:「作品分析」  
 第6回～第12回「研究発表」  
 第13回～第15回:「総括」

※受講者の理解度や準備の状態によって内容や進度を変更することがある。また、講義を受講するにあたってあらかじめ目を通しておくべき図書を以下に挙げる。

村松真理子『謎と暗号で読み解くダンテ「新曲」』、角川書店。  
 嶺貞子監修『イタリアのオペラと歌曲をみる12章』、東京堂出版。  
 天野恵ほか『イタリアの詩歌』、三修社。  
 池上英洋『西洋美術史入門』、筑摩書房。  
 鷲田小彌太『論文の書き方入門』、PHP研究所。(類書でも可)

#### ◆準備学習の内容◆

講義の中で学生に部分的にでも弾いてもらうこともある。そういうときには積極的に参加してもらいたい。学生が希望する曲を取り上げることもするので、準備をして授業に臨んでほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点を基本とする(50%)。研究発表の水準(30%)や討議への貢献度(20%)をベースにして、総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

演奏家として、音楽家として、芸術家として、教養人としての才覚を身に付けるためには、飽くなく探究心と弛まぬ努力が必要であろうから、自分に厳しくあって欲しい。

また、研究したことが演奏に何らかのかたちで生きてくるような説得力ある演奏を目指して欲しい。



ナンバリング			
科目名	作品研究		
科目詳細	声楽		
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-25	開講学期	通年
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

声楽作品を研究する手立てを学ぶ

音楽修士を持つ演奏家たるにふさわしい知識を修得し、実演で得た経験や視点を織り交ぜながら、それを客観的な方法で発表できる手立てを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

声楽作品の研究の前段階として演奏家として論文を書くことについて考え、実際の資料調査やその分析などをおこないながら、専門家としての視点を養う。

研究テーマについては受講者のアンケートをもとに決定する。

##### 【前期】

第1回:オリエンテーション  
 第2回～第5回:「韻律法」  
 第6回～第9回:「詩文学」  
 第10回～第13回:「神話」「聖書」  
 第14・15回:「総括」

##### 【後期】

第1回:オリエンテーション  
 第2回～第5回:「作品分析」  
 第6回～第12回「研究発表」  
 第13回～第15回:「総括」

※受講者の理解度や準備の状態によって内容や進度を変更することがある。また、講義を受講するにあたってあらかじめ目を通しておくべき図書を以下に挙げる。

村松真理子『謎と暗号で読み解くダンテ「新曲」』、角川書店。  
 嶺貞子監修『イタリアのオペラと歌曲をみる12章』、東京堂出版。  
 天野恵ほか『イタリアの詩歌』、三修社。  
 池上英洋『西洋美術史入門』、筑摩書房。  
 鷲田小彌太『論文の書き方入門』、PHP研究所。(類書でも可)

#### ◆準備学習の内容◆

講義の中で学生に部分的にでも弾いてもらうこともある。そういうときには積極的に参加してもらいたい。学生が希望する曲を取り上げることもあるので、準備をして授業に臨んでほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点を基本とする(50%)。研究発表の水準(30%)や討議への貢献度(20%)をベースにして、総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

演奏家として、音楽家として、芸術家として、教養人としての才覚を身に付けるためには、飽くなく探究心と弛まぬ努力が必要であろうから、自分に厳しくあって欲しい。

また、研究したことが演奏に何らかのかたちで生きてくるような説得力ある演奏を目指して欲しい。

ナンバリング			
科目名	作品研究		
科目詳細	器楽		
担当教員	安井 耕一		
学年	1年	クラス	O2
講義室	6-111	開講学期	通年
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽作品をいかに再現するかという本質的な問題を考え、正しい演奏解釈により質の高い演奏が出来る。

#### ◆授業内容・計画◆

楽譜を読む力をつける。演奏家として作品に対してどのような態度で臨むべきかという点を中心に作品研究を進める。

1回目 演奏解釈とは何か

2回目 旋律をどう捉えるか“フレーズ構成と言語(文章構造)との関係”

3回目 楽譜をどう読むか“音楽を全体として捉える感覚について。音組織を時間の中で持続として捉えるもの”

4回目 演奏家にとって技術というものの位置について“練習することと演奏することの精神の働きについて”

5回目～8回目 ベートーヴェンの作品研究“初期から後期までのピアノソナタについて”

9回目～12回目 芸術運動としてのロマン主義:シューベルト・シューマンの音楽

13回目、14回目 近現代の作品の研究

15回目、まとめ。

後期は学生全員に研究する曲を提出させて、その曲を演奏させて実際の演奏行為の中で、作品の生きた研究を行う。

#### ◆準備学習の内容◆

講義の中で学生に部分的にでも弾いてもらうこともある。そういうときには積極的に参加してもらいたい。学生が希望する曲を取り上げることもするので、準備をして授業に臨んでほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

演奏家として、音楽家として、芸術家として、教養人としての才覚を身に付けるためには、飽くなく探究心と弛まぬ努力が必要であろうから、自分に厳しくあって欲しい。

また、研究したことが演奏に何らかのかたちで生きてくるような説得力ある演奏を目指して欲しい。

ナンバリング			
科目名	作品研究		
科目詳細	器楽		
担当教員	安井 耕一		
学年	1年	クラス	O2
講義室	6-111	開講学期	通年
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽作品をいかに再現するかという本質的な問題を考え、正しい演奏解釈により質の高い演奏が出来る。

#### ◆授業内容・計画◆

楽譜を読む力をつける。演奏家として作品に対してどのような態度で臨むべきかという点を中心に作品研究を進める。

1回目 演奏解釈とは何か

2回目 旋律をどう捉えるか“フレーズ構成と言語(文章構造)との関係”

3回目 楽譜をどう読むか“音楽を全体として捉える感覚について。音組織を時間の中で持続として捉えるもの”

4回目 演奏家にとって技術というものの位置について“練習することと演奏することの精神の働きについて”

5回目～8回目 ベートーヴェンの作品研究“初期から後期までのピアノソナタについて”

9回目～12回目 芸術運動としてのロマン主義:シューベルト・シューマンの音楽

13回目、14回目 近現代の作品の研究

15回目、まとめ。

後期は学生全員に研究する曲を提出させて、その曲を演奏させて実際の演奏行為の中で、作品の生きた研究を行う。

#### ◆準備学習の内容◆

講義の中で学生に部分的にでも弾いてもらうこともある。そういうときには積極的に参加してもらいたい。学生が希望する曲を取り上げることもするので、準備をして授業に臨んでほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

演奏家として、音楽家として、芸術家として、教養人としての才覚を身に付けるためには、飽くなく探究心と弛まぬ努力が必要であろうから、自分に厳しくあって欲しい。

また、研究したことが演奏に何らかのかたちで生きてくるような説得力ある演奏を目指して欲しい。

ナンバリング			
科目名	作品研究		
科目詳細	器楽		
担当教員	安井 耕一		
学年	1年	クラス	O2
講義室	6-111	開講学期	通年
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽作品をいかに再現するかという本質的な問題を考え、正しい演奏解釈により質の高い演奏が出来る。

#### ◆授業内容・計画◆

楽譜を読む力をつける。演奏家として作品に対してどのような態度で臨むべきかという点を中心に作品研究を進める。

1回目 演奏解釈とは何か

2回目 旋律をどう捉えるか“フレーズ構成と言語(文章構造)との関係”

3回目 楽譜をどう読むか“音楽を全体として捉える感覚について。音組織を時間の中で持続として捉えるもの”

4回目 演奏家にとって技術というものの位置について“練習することと演奏することの精神の働きについて”

5回目～8回目 ベートーヴェンの作品研究“初期から後期までのピアノソナタについて”

9回目～12回目 芸術運動としてのロマン主義:シューベルト・シューマンの音楽

13回目、14回目近現代の作品の研究

15回目、まとめ。

後期は学生全員に研究する曲を提出させて、その曲を演奏させて実際の演奏行為の中で、作品の生きた研究を行う。

#### ◆準備学習の内容◆

講義の中で学生に部分的にでも弾いてもらうこともある。そういうときには積極的に参加してもらいたい。学生が希望する曲を取り上げることもするので、準備をして授業に臨んでほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	作品研究		
科目詳細	器楽		
担当教員	安井 耕一		
学年	1年	クラス	O2
講義室	6-111	開講学期	通年
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽作品をいかに再現するかという本質的な問題を考え、正しい演奏解釈により質の高い演奏が出来る。

#### ◆授業内容・計画◆

楽譜を読む力をつける。演奏家として作品に対してどのような態度で臨むべきかという点を中心に作品研究を進める。

1回目 演奏解釈とは何か

2回目 旋律をどう捉えるか“フレーズ構成と言語(文章構造)との関係”

3回目 楽譜をどう読むか“音楽を全体として捉える感覚について。音組織を時間の中で持続として捉えるもの”

4回目 演奏家にとって技術というものの位置について“練習することと演奏することの精神の働きについて”

5回目～8回目 ベートーヴェンの作品研究“初期から後期までのピアノソナタについて”

9回目～12回目 芸術運動としてのロマン主義:シューベルト・シューマンの音楽

13回目、14回目 近現代の作品の研究

15回目、まとめ。

後期は学生全員に研究する曲を提出させて、その曲を演奏させて実際の演奏行為の中で、作品の生きた研究を行う。

#### ◆準備学習の内容◆

講義の中で学生に部分的にでも弾いてもらうこともある。そういうときには積極的に参加してもらいたい。学生が希望する曲を取り上げることもするので、準備をして授業に臨んでほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	研究法 I		
科目詳細	オペラ		
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-22	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう。
- ③「研究報告」の概要(あるいは第1章分)を執筆する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1)
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2)
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3)
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4)
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5)
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6)
10. 「研究報告」の書き方
11. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(1)
12. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(2)
13. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(3)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	研究法 I		
科目詳細	歌曲		
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O2
講義室	2-25	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう。
- ③「研究報告」の概要(あるいは第1章分)を執筆する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1)
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2)
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3)
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4)
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5)
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6)
10. 「研究報告」の書き方
11. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(1)
12. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(2)
13. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(3)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	研究法 I		
科目詳細	鍵盤楽器		
担当教員	友利 修		
学年	1年	クラス	O3
講義室	2-22	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう。
- ③「研究報告」の概要(あるいは第1章分)を執筆する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1)
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2)
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3)
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4)
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5)
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6)
10. 「研究報告」の書き方
11. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(1)
12. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(2)
13. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(3)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし



ナンバリング			
科目名	研究法 I		
科目詳細	伴奏		
担当教員	友利 修		
学年	1年	クラス	O4
講義室	2-12	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう。
- ③「研究報告」の概要(あるいは第1章分)を執筆する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1)
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2)
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3)
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4)
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5)
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6)
10. 「研究報告」の書き方
11. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(1)
12. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(2)
13. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(3)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	研究法 I		
科目詳細	弦管打楽器		
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	O5
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう。
- ③「研究報告」の概要(あるいは第1章分)を執筆する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1)
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2)
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3)
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4)
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5)
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6)
10. 「研究報告」の書き方
11. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(1)
12. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(2)
13. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(3)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	研究法 I		
科目詳細	音楽理論・ソルフェージュ		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O6
講義室	2-22	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう。
- ③「研究報告」の概要(あるいは第1章分)を執筆する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1)
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2)
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3)
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4)
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5)
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6)
10. 「研究報告」の書き方
11. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(1)
12. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(2)
13. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(3)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	研究法 I		
科目詳細	作品創作・コンピュータ音楽		
担当教員	白石 美雪		
学年	1年	クラス	O7
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう。
- ③「研究報告」の概要(あるいは第1章分)を執筆する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1)
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2)
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3)
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4)
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5)
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6)
10. 「研究報告」の書き方
11. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(1)
12. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(2)
13. 「研究報告」の概要(あるいは第1章分)の発表(3)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	オペラ		
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-22	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(「研究報告」の書き方)
2. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(1)
3. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(2)
4. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(3)
5. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(4)
6. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(5)
7. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(6)
8. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(7)
9. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(8)
10. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(9)
11. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(10)
12. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(11)
13. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(12)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	歌曲		
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	O2
講義室	2-26	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(「研究報告」の書き方)
2. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(1)
3. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(2)
4. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(3)
5. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(4)
6. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(5)
7. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(6)
8. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(7)
9. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(8)
10. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(9)
11. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(10)
12. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(11)
13. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(12)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	鍵盤楽器		
担当教員	友利 修		
学年	1年	クラス	O3
講義室	2-22	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(「研究報告」の書き方)
2. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(1)
3. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(2)
4. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(3)
5. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(4)
6. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(5)
7. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(6)
8. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(7)
9. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(8)
10. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(9)
11. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(10)
12. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(11)
13. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(12)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	伴奏		
担当教員	友利 修		
学年	1年	クラス	O4
講義室	2-12	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(「研究報告」の書き方)
2. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(1)
3. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(2)
4. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(3)
5. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(4)
6. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(5)
7. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(6)
8. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(7)
9. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(8)
10. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(9)
11. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(10)
12. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(11)
13. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(12)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし



ナンバリング			
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	弦管打楽器		
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	05
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(「研究報告」の書き方)
2. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(1)
3. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(2)
4. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(3)
5. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(4)
6. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(5)
7. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(6)
8. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(7)
9. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(8)
10. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(9)
11. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(10)
12. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(11)
13. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(12)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	作曲		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O6
講義室	2-22	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる。
- ②2年次の9月に提出する「研究報告」を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(「研究報告」の書き方)
2. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(1)
3. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(2)
4. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(3)
5. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(4)
6. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(5)
7. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(6)
8. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(7)
9. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(8)
10. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(9)
11. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(10)
12. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(11)
13. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(12)
14. まとめ

上記の授業内容・計画が標準的なもので、担当教員によって異なる。

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要(あるいは第1章分)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	日本近現代音楽研究		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽分析の各種の方法論を知って、その特徴を理解する。
- ②音楽作品を適切な方法で分析できる。
- ③音楽分析の結果を適切な用語を用いて、叙述できる。

◆授業内容・計画◆

前期)

1. 音楽分析とは
2. 主題動機分析
3. バッハのインヴェンション(主題動機分析)
4. バッハのインヴェンション分析演習
5. 旋律様式分析
6. ヴィヴァルディの協奏曲(旋律様式分析)
7. 分析演習
8. 和声分析
9. ベートーヴェンのピアノソナタ(和声分析)
10. ベートーヴェンのピアノソナタの分析演習
11. リズム分析
12. バッハのゴルトベルク変奏曲(リズム分析)
13. バッハのゴルトベルク変奏曲の分析演習
14. まとめ

(後期)

- 1.
2. 歌詞内容と音楽の分析
3. バッハの教会カンタータ(歌詞と音楽の分析)
4. バッハの教会カンタータの分析演習
5. 歌詞の韻律と音楽の分析
6. シューベルトの歌曲(歌詞の韻律と音楽の分析)
7. シューベルトの歌曲の分析演習
8. シェンカー分析
9. ベートーヴェンの交響曲(シェンカー分析)
10. ベートーヴェンの交響曲の分析演習
11. 発展的変奏
12. シューンベルクの歌曲(発展的変奏)
13. シューンベルクの歌曲の分析演習
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

課題を出すので、発表できるように資料などをそろえる。  
2時間ほど要する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表の内容

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

適時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	日本近現代音楽研究		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽分析の各種の方法論を知って、その特徴を理解する。
- ②音楽作品を適切な方法で分析できる。
- ③音楽分析の結果を適切な用語を用いて、叙述できる。

◆授業内容・計画◆

前期)

1. 音楽分析とは
2. 主題動機分析
3. バッハのインヴェンション(主題動機分析)
4. バッハのインヴェンション分析演習
5. 旋律様式分析
6. ヴィヴァルディの協奏曲(旋律様式分析)
7. 分析演習
8. 和声分析
9. ベートーヴェンのピアノソナタ(和声分析)
10. ベートーヴェンのピアノソナタの分析演習
11. リズム分析
12. バッハのゴルトベルク変奏曲(リズム分析)
13. バッハのゴルトベルク変奏曲の分析演習
14. まとめ

(後期)

- 1.
2. 歌詞内容と音楽の分析
3. バッハの教会カンタータ(歌詞と音楽の分析)
4. バッハの教会カンタータの分析演習
5. 歌詞の韻律と音楽の分析
6. シューベルトの歌曲(歌詞の韻律と音楽の分析)
7. シューベルトの歌曲の分析演習
8. シェンカー分析
9. ベートーヴェンの交響曲(シェンカー分析)
10. ベートーヴェンの交響曲の分析演習
11. 発展的変奏
12. シューンベルクの歌曲(発展的変奏)
13. シューンベルクの歌曲の分析演習
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

課題を出すので、発表できるように資料などをそろえる。  
2時間ほど要する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表の内容

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

適時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	日本近現代音楽研究		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本の芸術音楽のありようについて探り、演奏の新しい可能性を広げることができる。採り上げる作曲家を前期(過去の作曲家)後期(現在の作曲家)と毎年設定し、それらの作曲家の作品、作曲技法、演奏法といったことを研究することができる。特に過去の世代に属する作曲家については、未だに研究の及んでいない部分もあるので、自筆楽譜と印刷楽譜の比較や、資料の整理といったことも視野に入れて研究と演習を進め、演奏家・研究者・教育者としての可能性を広げることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期:

- 1)日本洋楽受容史概説
  - 2)3)別宮貞雄の作品と生涯
  - 4)5)6)中田喜直の歌曲作品
  - 7)8)9)別宮・中田のピアノ作品
  - 10)11)12)の室内楽作品、管弦楽作品、オペラ
- 演習を中心に行う。  
14)新声会の同人について  
最終回には学内発表

後期:任意の作曲家の作品

- 1)日本洋楽受容史概説2
- 2)3)4)それぞれが選んだ作品についてのレポート発表
- 5)6)7)それぞれの作品の演習
- 8)9)10)それぞれの作曲家の他分野の作品について
- 11)12)13)再度演習を行う
- 14)邦人作品の現代について、まとめと発表

前期後期ともに小泉恵子先生、外部講師として瀬山詠子先生による特別レッスンも開催される

#### ◆準備学習の内容◆

山田耕柞の歌曲に取り組むということは、白秋や露風の詩作品に真っ向から対峙し、その内容を把握することが必要になる。あらかじめ白秋の資料などには当たっておくように。  
林光は政治的な発言もあるし、多くの言葉が文章に残っている。それについても取り組んでおいてほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業出席状況、演習や研究への関わり方に対する評価による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

特に指示はしないが、講義を受けるにあたって、採り上げる作曲家の資料に当たっておくこと。

#### ◆留意事項◆

近年の邦人作品全体への興味や、戦前の邦人作品の復権は嬉しい限りであるが、ややもすると同じ作品ばかりをなぞっている感も強い。この講義では、まだ研究の及んでいない領域も含め、実際に講義を通じて知った作品群を、演奏活動や研究活動に結びつけるように考え、演習・研究していく。  
受講者それぞれの興味が、ひとつの現実的な演奏や研究の形に結実することを、常に念頭に置いて進んでいってほしいと考えている。受け身でなく、自らも参加するという態度を忘れずに参加してほしい。

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	日本近現代音楽研究		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本の芸術音楽のありようについて探り、演奏の新しい可能性を広げることができる。採り上げる作曲家を前期(過去の作曲家)後期(現在の作曲家)と毎年設定し、それらの作曲家の作品、作曲技法、演奏法といったことを研究することができる。特に過去の世代に属する作曲家については、未だに研究の及んでいない部分もあるので、自筆楽譜と印刷楽譜の比較や、資料の整理といったことも視野に入れて研究と演習を進め、演奏家・研究者・教育者としての可能性を広げることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期:

- 1)日本洋楽受容史概説
  - 2)3)別宮貞雄の作品と生涯
  - 4)5)6)中田喜直の歌曲作品
  - 7)8)9)別宮・中田のピアノ作品
  - 10)11)12)の室内楽作品、管弦楽作品、オペラ
- 演習を中心に行う。
- 14)新声会の同人について
- 最終回には学内発表

後期:任意の作曲家の作品

- 1)日本洋楽受容史概説2
- 2)3)4)それぞれが選んだ作品についてのレポート発表
- 5)6)7)それぞれの作品の演習
- 8)9)10)それぞれの作曲家の他分野の作品について
- 11)12)13)再度演習を行う
- 14)邦人作品の現代について、まとめと発表

前期後期ともに小泉恵子先生、外部講師として瀬山詠子先生による特別レッスンも開催される

#### ◆準備学習の内容◆

山田耕柞の歌曲に取り組むということは、白秋や露風の詩作品に真っ向から対峙し、その内容を把握することが必要になる。あらかじめ白秋の資料などには当たっておくように。  
林光は政治的な発言もあるし、多くの言葉が文章に残っている。それについても取り組んでおいてほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業出席状況、演習や研究への関わり方に対する評価による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

特に指示はしないが、講義を受けるにあたって、採り上げる作曲家の資料に当たっておくこと。

#### ◆留意事項◆

近年の邦人作品全体への興味や、戦前の邦人作品の復権は嬉しい限りであるが、ややもすると同じ作品ばかりをなぞっている感も強い。この講義では、まだ研究の及んでいない領域も含め、実際に講義を通じて知った作品群を、演奏活動や研究活動に結びつけるように考え、演習・研究していく。  
受講者それぞれの興味が、ひとつの現実的な演奏や研究の形に結実することを、常に念頭に置いて進んでいってほしいと考えている。受け身でなく、自らも参加するという態度を忘れずに参加してほしい。

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	日本近現代音楽研究		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

楽器について様々な角度から探求する。自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得することを目標に、その基礎となる豊かな知的学識を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

4週で1つのテーマをとりあげ、様々な角度から楽器を探求する。自立した研究者や演奏家として必要な能力や技法を身につけるため、講義を受けた後、テーマにそった課題を自ら設定し研究を行う。

楽器学資料館や別科調律専修の資産を活かし、本学でしかできないテーマを設定する。

- 1 総論
  - 2 音楽図像学(1)導入
  - 3 音楽図像学(2)特別講義
  - 4 音楽図像学(3)討論と課題設定
  - 5 音楽図像学(4)発表
  - 6 日本の楽器(1)導入
  - 7 日本の楽器(2)特別講義
  - 8 日本の楽器(3)討論と課題設定
  - 9 日本の楽器(4)発表
  - 10 キリスト教と楽器
  - 11 ビオラ・ダ・ガンバ(1)導入
  - 12 ビオラ・ダ・ガンバ(2)特別講義
  - 13 ビオラ・ダ・ガンバ(3)討論と課題設定
  - 14 ビオラ・ダ・ガンバ(4)発表
  - 15 まとめ
  - 16 南アジアの楽器(1)導入
  - 17 南アジアの楽器(2)特別講義
  - 18 南アジアの楽器(3)討論と課題設定
  - 19 南アジアの楽器(4)発表
  - 20 歴史的鍵盤楽器の修復(1)導入
  - 21 歴史的鍵盤楽器の修復(2)特別講義
  - 22 歴史的鍵盤楽器の修復(3)討論と課題設定
  - 23 歴史的鍵盤楽器の修復(4)発表
  - 24 楽器の分類と分布
  - 25 バッグパイプ(1)導入
  - 26 バッグパイプ(2)特別講義
  - 27 バッグパイプ(3)討論と課題設定
  - 28 バッグパイプ(4)発表
  - 29 まとめと評価
- (順番、内容が変更になることがあります。)

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ配布する資料をよく読み、各回の特別講義を受講するための予習をしておくこと。また、発表担当分を特によく準備しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

研究成果の発表40%、期末レポート50%、積極性など授業への貢献度10%

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

#### ◆参考図書◆

講義の中で随時指示します。

#### ◆留意事項◆

グループワークを含むので、遅刻は厳禁です。

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	日本近現代音楽研究		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

楽器について様々な角度から探求する。自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得することを目標に、その基礎となる豊かな知的学識を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

4週で1つのテーマをとりあげ、様々な角度から楽器を探求する。自立した研究者や演奏家として必要な能力や技法を身につけるため、講義を受けた後、テーマにそった課題を自ら設定し研究を行う。

楽器学資料館や別科調律専修の資産を活かし、本学でしかできないテーマを設定する。

- 1 総論
  - 2 音楽図像学(1)導入
  - 3 音楽図像学(2)特別講義
  - 4 音楽図像学(3)討論と課題設定
  - 5 音楽図像学(4)発表
  - 6 日本の楽器(1)導入
  - 7 日本の楽器(2)特別講義
  - 8 日本の楽器(3)討論と課題設定
  - 9 日本の楽器(4)発表
  - 10 キリスト教と楽器
  - 11 ビオラ・ダ・ガンバ(1)導入
  - 12 ビオラ・ダ・ガンバ(2)特別講義
  - 13 ビオラ・ダ・ガンバ(3)討論と課題設定
  - 14 ビオラ・ダ・ガンバ(4)発表
  - 15 まとめ
  - 16 南アジアの楽器(1)導入
  - 17 南アジアの楽器(2)特別講義
  - 18 南アジアの楽器(3)討論と課題設定
  - 19 南アジアの楽器(4)発表
  - 20 歴史的鍵盤楽器の修復(1)導入
  - 21 歴史的鍵盤楽器の修復(2)特別講義
  - 22 歴史的鍵盤楽器の修復(3)討論と課題設定
  - 23 歴史的鍵盤楽器の修復(4)発表
  - 24 楽器の分類と分布
  - 25 バッグパイプ(1)導入
  - 26 バッグパイプ(2)特別講義
  - 27 バッグパイプ(3)討論と課題設定
  - 28 バッグパイプ(4)発表
  - 29 まとめと評価
- (順番、内容が変更になることがあります。)

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ配布する資料をよく読み、各回の特別講義を受講するための予習をしておくこと。また、発表担当分を特によく準備しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

研究成果の発表40%、期末レポート50%、積極性など授業への貢献度10%

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

#### ◆参考図書◆

講義の中で随時指示します。

#### ◆留意事項◆

グループワークを含むので、遅刻は厳禁です。



ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	音楽分析方法研究		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-302	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽分析の各種の方法論を知って、その特徴を理解する。
- ②音楽作品を適切な方法で分析できる。
- ③音楽分析の結果を適切な用語を用いて、叙述できる。

◆授業内容・計画◆

前期)

1. 音楽分析とは
2. 主題動機分析
3. バッハのインヴェンション(主題動機分析)
4. バッハのインヴェンション分析演習
5. 旋律様式分析
6. ヴィヴァルディの協奏曲(旋律様式分析)
7. 分析演習
8. 和声分析
9. ベートーヴェンのピアノソナタ(和声分析)
10. ベートーヴェンのピアノソナタの分析演習
11. リズム分析
12. バッハのゴルトベルク変奏曲(リズム分析)
13. バッハのゴルトベルク変奏曲の分析演習
14. まとめ

(後期)

- 1.
2. 歌詞内容と音楽の分析
3. バッハの教会カンタータ(歌詞と音楽の分析)
4. バッハの教会カンタータの分析演習
5. 歌詞の韻律と音楽の分析
6. シューベルトの歌曲(歌詞の韻律と音楽の分析)
7. シューベルトの歌曲の分析演習
8. シェンカー分析
9. ベートーヴェンの交響曲(シェンカー分析)
10. ベートーヴェンの交響曲の分析演習
11. 発展的変奏
12. シューンベルクの歌曲(発展的変奏)
13. シューンベルクの歌曲の分析演習
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

課題を出すので、発表できるように資料などをそろえる。  
2時間ほど要する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表の内容

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

適時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	音楽分析方法研究		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-302	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽分析の各種の方法論を知って、その特徴を理解する。
- ②音楽作品を適切な方法で分析できる。
- ③音楽分析の結果を適切な用語を用いて、叙述できる。

◆授業内容・計画◆

前期)

1. 音楽分析とは
2. 主題動機分析
3. バッハのインヴェンション(主題動機分析)
4. バッハのインヴェンション分析演習
5. 旋律様式分析
6. ヴィヴァルディの協奏曲(旋律様式分析)
7. 分析演習
8. 和声分析
9. ベートーヴェンのピアノソナタ(和声分析)
10. ベートーヴェンのピアノソナタの分析演習
11. リズム分析
12. バッハのゴルトベルク変奏曲(リズム分析)
13. バッハのゴルトベルク変奏曲の分析演習
14. まとめ

(後期)

- 1.
2. 歌詞内容と音楽の分析
3. バッハの教会カンタータ(歌詞と音楽の分析)
4. バッハの教会カンタータの分析演習
5. 歌詞の韻律と音楽の分析
6. シューベルトの歌曲(歌詞の韻律と音楽の分析)
7. シューベルトの歌曲の分析演習
8. シェンカー分析
9. ベートーヴェンの交響曲(シェンカー分析)
10. ベートーヴェンの交響曲の分析演習
11. 発展的変奏
12. シューンベルクの歌曲(発展的変奏)
13. シューンベルクの歌曲の分析演習
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

課題を出すので、発表できるように資料などをそろえる。  
2時間ほど要する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表の内容

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

適時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	音楽分析方法研究		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O2
講義室	5-302	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本の芸術音楽のありようについて探り、演奏の新しい可能性を広げることができる。採り上げる作曲家を前期(過去の作曲家)後期(現在の作曲家)と毎年設定し、それらの作曲家の作品、作曲技法、演奏法といったことを研究することができる。特に過去の世代に属する作曲家については、未だに研究の及んでいない部分もあるので、自筆楽譜と印刷楽譜の比較や、資料の整理といったことも視野に入れて研究と演習を進め、演奏家・研究者・教育者としての可能性を広げることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期:

- 1)日本洋楽受容史概説
  - 2)3)別宮貞雄の作品と生涯
  - 4)5)6)中田喜直の歌曲作品
  - 7)8)9)別宮・中田のピアノ作品
  - 10)11)12)の室内楽作品、管弦楽作品、オペラ
- 演習を中心に行う。  
14)新声会の同人について  
最終回には学内発表

後期:任意の作曲家の作品

- 1)日本洋楽受容史概説2
- 2)3)4)それぞれが選んだ作品についてのレポート発表
- 5)6)7)それぞれの作品の演習
- 8)9)10)それぞれの作曲家の他分野の作品について
- 11)12)13)再度演習を行う
- 14)邦人作品の現代について、まとめと発表

前期後期ともに小泉恵子先生、外部講師として瀬山詠子先生による特別レッスンも開催される

#### ◆準備学習の内容◆

山田耕柞の歌曲に取り組むということは、白秋や露風の詩作品に真っ向から対峙し、その内容を把握することが必要になる。あらかじめ白秋の資料などには当たっておくように。  
林光は政治的な発言もあるし、多くの言葉が文章に残っている。それについても取り組んでおいてほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業出席状況、演習や研究への関わり方に対する評価による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

特に指示はしないが、講義を受けるにあたって、採り上げる作曲家の資料に当たっておくこと。

#### ◆留意事項◆

近年の邦人作品全体への興味や、戦前の邦人作品の復権は嬉しい限りであるが、ややもすると同じ作品ばかりをなぞっている感も強い。この講義では、まだ研究の及んでいない領域も含め、実際に講義を通じて知った作品群を、演奏活動や研究活動に結びつけるように考え、演習・研究していく。  
受講者それぞれの興味が、ひとつの現実的な演奏や研究の形に結実することを、常に念頭に置いて進んでいってほしいと考えている。受け身でなく、自らも参加するという態度を忘れずに参加してほしい。

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	音楽分析方法研究		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O2
講義室	5-302	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本の芸術音楽のありようについて探り、演奏の新しい可能性を広げることができる。採り上げる作曲家を前期(過去の作曲家)後期(現在の作曲家)と毎年設定し、それらの作曲家の作品、作曲技法、演奏法といったことを研究することができる。特に過去の世代に属する作曲家については、未だに研究の及んでいない部分もあるので、自筆楽譜と印刷楽譜の比較や、資料の整理といったことも視野に入れて研究と演習を進め、演奏家・研究者・教育者としての可能性を広げることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期:

- 1)日本洋楽受容史概説
  - 2)3)別宮貞雄の作品と生涯
  - 4)5)6)中田喜直の歌曲作品
  - 7)8)9)別宮・中田のピアノ作品
  - 10)11)12)の室内楽作品、管弦楽作品、オペラ
- 演習を中心に行う。  
14)新声会の同人について  
最終回には学内発表

後期:任意の作曲家の作品

- 1)日本洋楽受容史概説2
- 2)3)4)それぞれが選んだ作品についてのレポート発表
- 5)6)7)それぞれの作品の演習
- 8)9)10)それぞれの作曲家の他分野の作品について
- 11)12)13)再度演習を行う
- 14)邦人作品の現代について、まとめと発表

前期後期ともに小泉恵子先生、外部講師として瀬山詠子先生による特別レッスンも開催される

#### ◆準備学習の内容◆

山田耕柞の歌曲に取り組むということは、白秋や露風の詩作品に真っ向から対峙し、その内容を把握することが必要になる。あらかじめ白秋の資料などには当たっておくように。  
林光は政治的な発言もあるし、多くの言葉が文章に残っている。それについても取り組んでおいてほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業出席状況、演習や研究への関わり方に対する評価による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

特に指示はしないが、講義を受けるにあたって、採り上げる作曲家の資料に当たっておくこと。

#### ◆留意事項◆

近年の邦人作品全体への興味や、戦前の邦人作品の復権は嬉しい限りであるが、ややもすると同じ作品ばかりをなぞっている感も強い。この講義では、まだ研究の及んでいない領域も含め、実際に講義を通じて知った作品群を、演奏活動や研究活動に結びつけるように考え、演習・研究していく。  
受講者それぞれの興味が、ひとつの現実的な演奏や研究の形に結実することを、常に念頭に置いて進んでいってほしいと考えている。受け身でなく、自らも参加するという態度を忘れずに参加してほしい。

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	音楽分析方法研究		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-302	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

楽器について様々な角度から探求する。自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得することを目標に、その基礎となる豊かな知的学識を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

4週で1つのテーマをとりあげ、様々な角度から楽器を探求する。自立した研究者や演奏家として必要な能力や技法を身につけるため、講義を受けた後、テーマにそった課題を自ら設定し研究を行う。

楽器学資料館や別科調律専修の資産を活かし、本学でしかできないテーマを設定する。

- 1 総論
  - 2 音楽図像学(1)導入
  - 3 音楽図像学(2)特別講義
  - 4 音楽図像学(3)討論と課題設定
  - 5 音楽図像学(4)発表
  - 6 日本の楽器(1)導入
  - 7 日本の楽器(2)特別講義
  - 8 日本の楽器(3)討論と課題設定
  - 9 日本の楽器(4)発表
  - 10 キリスト教と楽器
  - 11 ビオラ・ダ・ガンバ(1)導入
  - 12 ビオラ・ダ・ガンバ(2)特別講義
  - 13 ビオラ・ダ・ガンバ(3)討論と課題設定
  - 14 ビオラ・ダ・ガンバ(4)発表
  - 15 まとめ
  - 16 南アジアの楽器(1)導入
  - 17 南アジアの楽器(2)特別講義
  - 18 南アジアの楽器(3)討論と課題設定
  - 19 南アジアの楽器(4)発表
  - 20 歴史的鍵盤楽器の修復(1)導入
  - 21 歴史的鍵盤楽器の修復(2)特別講義
  - 22 歴史的鍵盤楽器の修復(3)討論と課題設定
  - 23 歴史的鍵盤楽器の修復(4)発表
  - 24 楽器の分類と分布
  - 25 バッグパイプ(1)導入
  - 26 バッグパイプ(2)特別講義
  - 27 バッグパイプ(3)討論と課題設定
  - 28 バッグパイプ(4)発表
  - 29 まとめと評価
- (順番、内容が変更になることがあります。)

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ配布する資料をよく読み、各回の特別講義を受講するための予習をしておくこと。  
また、発表担当分を特によく準備しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

研究成果の発表40%、期末レポート50%、積極性など授業への貢献度10%

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

#### ◆参考図書◆

講義の中で随時指示します。

#### ◆留意事項◆

グループワークを含むので、遅刻は厳禁です。

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	音楽分析方法研究		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-302	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

楽器について様々な角度から探求する。自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得することを目標に、その基礎となる豊かな知的学識を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

4週で1つのテーマをとりあげ、様々な角度から楽器を探求する。自立した研究者や演奏家として必要な能力や技法を身につけるため、講義を受けた後、テーマにそった課題を自ら設定し研究を行う。

楽器学資料館や別科調律専修の資産を活かし、本学でしかできないテーマを設定する。

- 1 総論
  - 2 音楽図像学(1)導入
  - 3 音楽図像学(2)特別講義
  - 4 音楽図像学(3)討論と課題設定
  - 5 音楽図像学(4)発表
  - 6 日本の楽器(1)導入
  - 7 日本の楽器(2)特別講義
  - 8 日本の楽器(3)討論と課題設定
  - 9 日本の楽器(4)発表
  - 10 キリスト教と楽器
  - 11 ビオラ・ダ・ガンバ(1)導入
  - 12 ビオラ・ダ・ガンバ(2)特別講義
  - 13 ビオラ・ダ・ガンバ(3)討論と課題設定
  - 14 ビオラ・ダ・ガンバ(4)発表
  - 15 まとめ
  - 16 南アジアの楽器(1)導入
  - 17 南アジアの楽器(2)特別講義
  - 18 南アジアの楽器(3)討論と課題設定
  - 19 南アジアの楽器(4)発表
  - 20 歴史的鍵盤楽器の修復(1)導入
  - 21 歴史的鍵盤楽器の修復(2)特別講義
  - 22 歴史的鍵盤楽器の修復(3)討論と課題設定
  - 23 歴史的鍵盤楽器の修復(4)発表
  - 24 楽器の分類と分布
  - 25 バッグパイプ(1)導入
  - 26 バッグパイプ(2)特別講義
  - 27 バッグパイプ(3)討論と課題設定
  - 28 バッグパイプ(4)発表
  - 29 まとめと評価
- (順番、内容が変更になることがあります。)

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ配布する資料をよく読み、各回の特別講義を受講するための予習をしておくこと。  
また、発表担当分を特によく準備しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

研究成果の発表40%、期末レポート50%、積極性など授業への貢献度10%

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

#### ◆参考図書◆

講義の中で随時指示します。

#### ◆留意事項◆

グループワークを含むので、遅刻は厳禁です。

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	楽器メディア研究		
担当教員	森 太郎		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-309	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽分析の各種の方法論を知って、その特徴を理解する。
- ②音楽作品を適切な方法で分析できる。
- ③音楽分析の結果を適切な用語を用いて、叙述できる。

◆授業内容・計画◆

前期)

1. 音楽分析とは
2. 主題動機分析
3. バッハのインヴェンション(主題動機分析)
4. バッハのインヴェンション分析演習
5. 旋律様式分析
6. ヴィヴァルディの協奏曲(旋律様式分析)
7. 分析演習
8. 和声分析
9. ベートーヴェンのピアノソナタ(和声分析)
10. ベートーヴェンのピアノソナタの分析演習
11. リズム分析
12. バッハのゴルトベルク変奏曲(リズム分析)
13. バッハのゴルトベルク変奏曲の分析演習
14. まとめ

(後期)

- 1.
2. 歌詞内容と音楽の分析
3. バッハの教会カンタータ(歌詞と音楽の分析)
4. バッハの教会カンタータの分析演習
5. 歌詞の韻律と音楽の分析
6. シューベルトの歌曲(歌詞の韻律と音楽の分析)
7. シューベルトの歌曲の分析演習
8. シェンカー分析
9. ベートーヴェンの交響曲(シェンカー分析)
10. ベートーヴェンの交響曲の分析演習
11. 発展的変奏
12. シューンベルクの歌曲(発展的変奏)
13. シューンベルクの歌曲の分析演習
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

課題を出すので、発表できるように資料などをそろえる。  
2時間ほど要する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表の内容

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

適時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	楽器メディア研究		
担当教員	森 太郎		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-309	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽分析の各種の方法論を知って、その特徴を理解する。
- ②音楽作品を適切な方法で分析できる。
- ③音楽分析の結果を適切な用語を用いて、叙述できる。

◆授業内容・計画◆

前期)

1. 音楽分析とは
2. 主題動機分析
3. バッハのインヴェンション(主題動機分析)
4. バッハのインヴェンション分析演習
5. 旋律様式分析
6. ヴィヴァルディの協奏曲(旋律様式分析)
7. 分析演習
8. 和声分析
9. ベートーヴェンのピアノソナタ(和声分析)
10. ベートーヴェンのピアノソナタの分析演習
11. リズム分析
12. バッハのゴルトベルク変奏曲(リズム分析)
13. バッハのゴルトベルク変奏曲の分析演習
14. まとめ

(後期)

- 1.
2. 歌詞内容と音楽の分析
3. バッハの教会カンタータ(歌詞と音楽の分析)
4. バッハの教会カンタータの分析演習
5. 歌詞の韻律と音楽の分析
6. シューベルトの歌曲(歌詞の韻律と音楽の分析)
7. シューベルトの歌曲の分析演習
8. シェンカー分析
9. ベートーヴェンの交響曲(シェンカー分析)
10. ベートーヴェンの交響曲の分析演習
11. 発展的変奏
12. シューンベルクの歌曲(発展的変奏)
13. シューンベルクの歌曲の分析演習
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

課題を出すので、発表できるように資料などをそろえる。  
2時間ほど要する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表の内容

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

適時指示する。

◆留意事項◆

特になし



ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	楽器メディア研究		
担当教員	森 太郎		
学年	1年	クラス	O3
講義室	5-309	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本の芸術音楽のありようについて探り、演奏の新しい可能性を広げることができる。採り上げる作曲家を前期(過去の作曲家)後期(現在の作曲家)と毎年設定し、それらの作曲家の作品、作曲技法、演奏法といったことを研究することができる。特に過去の世代に属する作曲家については、未だに研究の及んでいない部分もあるので、自筆楽譜と印刷楽譜の比較や、資料の整理といったことも視野に入れて研究と演習を進め、演奏家・研究者・教育者としての可能性を広げることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期:

- 1)日本洋楽受容史概説
  - 2)3)別宮貞雄の作品と生涯
  - 4)5)6)中田喜直の歌曲作品
  - 7)8)9)別宮・中田のピアノ作品
  - 10)11)12)の室内楽作品、管弦楽作品、オペラ
- 演習を中心に行う。
- 14)新声会の同人について
- 最終回には学内発表

後期:任意の作曲家の作品

- 1)日本洋楽受容史概説2
- 2)3)4)それぞれが選んだ作品についてのレポート発表
- 5)6)7)それぞれの作品の演習
- 8)9)10)それぞれの作曲家の他分野の作品について
- 11)12)13)再度演習を行う
- 14)邦人作品の現代について、まとめと発表

前期後期ともに小泉恵子先生、外部講師として瀬山詠子先生による特別レッスンも開催される

#### ◆準備学習の内容◆

山田耕柞の歌曲に取り組むということは、白秋や露風の詩作品に真っ向から対峙し、その内容を把握することが必要になる。あらかじめ白秋の資料などには当たっておくように。  
林光は政治的な発言もあるし、多くの言葉が文章に残っている。それについても取り組んでおいてほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業出席状況、演習や研究への関わり方に対する評価による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

特に指示はしないが、講義を受けるにあたって、採り上げる作曲家の資料に当たっておくこと。

#### ◆留意事項◆

近年の邦人作品全体への興味や、戦前の邦人作品の復権は嬉しい限りであるが、ややもすると同じ作品ばかりをなぞっている感も強い。この講義では、まだ研究の及んでいない領域も含め、実際に講義を通じて知った作品群を、演奏活動や研究活動に結びつけるように考え、演習・研究していく。  
受講者それぞれの興味が、ひとつの現実的な演奏や研究の形に結実することを、常に念頭に置いて進んでいってほしいと考えている。受け身でなく、自らも参加するという態度を忘れずに参加してほしい。

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	楽器メディア研究		
担当教員	森 太郎		
学年	1年	クラス	O3
講義室	5-309	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本の芸術音楽のありようについて探り、演奏の新しい可能性を広げることができる。採り上げる作曲家を前期(過去の作曲家)後期(現在の作曲家)と毎年設定し、それらの作曲家の作品、作曲技法、演奏法といったことを研究することができる。特に過去の世代に属する作曲家については、未だに研究の及んでいない部分もあるので、自筆楽譜と印刷楽譜の比較や、資料の整理といったことも視野に入れて研究と演習を進め、演奏家・研究者・教育者としての可能性を広げることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期:

- 1)日本洋楽受容史概説
  - 2)3)別宮貞雄の作品と生涯
  - 4)5)6)中田喜直の歌曲作品
  - 7)8)9)別宮・中田のピアノ作品
  - 10)11)12)の室内楽作品、管弦楽作品、オペラ
- 演習を中心に行う。  
14)新声会の同人について  
最終回には学内発表

後期:任意の作曲家の作品

- 1)日本洋楽受容史概説2
- 2)3)4)それぞれが選んだ作品についてのレポート発表
- 5)6)7)それぞれの作品の演習
- 8)9)10)それぞれの作曲家の他分野の作品について
- 11)12)13)再度演習を行う
- 14)邦人作品の現代について、まとめと発表

前期後期ともに小泉恵子先生、外部講師として瀬山詠子先生による特別レッスンも開催される

#### ◆準備学習の内容◆

山田耕柞の歌曲に取り組むということは、白秋や露風の詩作品に真っ向から対峙し、その内容を把握することが必要になる。あらかじめ白秋の資料などには当たっておくように。  
林光は政治的な発言もあるし、多くの言葉が文章に残っている。それについても取り組んでおいてほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業出席状況、演習や研究への関わり方に対する評価による。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

特に指示はしないが、講義を受けるにあたって、採り上げる作曲家の資料に当たっておくこと。

#### ◆留意事項◆

近年の邦人作品全体への興味や、戦前の邦人作品の復権は嬉しい限りであるが、ややもすると同じ作品ばかりをなぞっている感も強い。この講義では、まだ研究の及んでいない領域も含め、実際に講義を通じて知った作品群を、演奏活動や研究活動に結びつけるように考え、演習・研究していく。  
受講者それぞれの興味が、ひとつの現実的な演奏や研究の形に結実することを、常に念頭に置いて進んでいってほしいと考えている。受け身でなく、自らも参加するという態度を忘れずに参加してほしい。

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	楽器メディア研究		
担当教員	森 太郎		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-309	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

楽器について様々な角度から探求する。自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得することを目標に、その基礎となる豊かな知的学識を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

4週で1つのテーマをとりあげ、様々な角度から楽器を探求する。自立した研究者や演奏家として必要な能力や技法を身につけるため、講義を受けた後、テーマにそった課題を自ら設定し研究を行う。

楽器学資料館や別科調律専修の資産を活かし、本学でしかできないテーマを設定する。

- 1 総論
  - 2 音楽図像学(1)導入
  - 3 音楽図像学(2)特別講義
  - 4 音楽図像学(3)討論と課題設定
  - 5 音楽図像学(4)発表
  - 6 日本の楽器(1)導入
  - 7 日本の楽器(2)特別講義
  - 8 日本の楽器(3)討論と課題設定
  - 9 日本の楽器(4)発表
  - 10 キリスト教と楽器
  - 11 ビオラ・ダ・ガンバ(1)導入
  - 12 ビオラ・ダ・ガンバ(2)特別講義
  - 13 ビオラ・ダ・ガンバ(3)討論と課題設定
  - 14 ビオラ・ダ・ガンバ(4)発表
  - 15 まとめ
  - 16 南アジアの楽器(1)導入
  - 17 南アジアの楽器(2)特別講義
  - 18 南アジアの楽器(3)討論と課題設定
  - 19 南アジアの楽器(4)発表
  - 20 歴史的鍵盤楽器の修復(1)導入
  - 21 歴史的鍵盤楽器の修復(2)特別講義
  - 22 歴史的鍵盤楽器の修復(3)討論と課題設定
  - 23 歴史的鍵盤楽器の修復(4)発表
  - 24 楽器の分類と分布
  - 25 バッグパイプ(1)導入
  - 26 バッグパイプ(2)特別講義
  - 27 バッグパイプ(3)討論と課題設定
  - 28 バッグパイプ(4)発表
  - 29 まとめと評価
- (順番、内容が変更になることがあります。)

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ配布する資料をよく読み、各回の特別講義を受講するための予習をしておくこと。  
また、発表担当分を特によく準備しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

研究成果の発表40%、期末レポート50%、積極性など授業への貢献度10%

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

#### ◆参考図書◆

講義の中で随時指示します。

#### ◆留意事項◆

グループワークを含むので、遅刻は厳禁です。

ナンバリング			
科目名	テーマ別演習A		
科目詳細	楽器メディア研究		
担当教員	森 太郎		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-309	開講学期	通年
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

楽器について様々な角度から探求する。自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得することを目標に、その基礎となる豊かな知的学識を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

4週で1つのテーマをとりあげ、様々な角度から楽器を探求する。自立した研究者や演奏家として必要な能力や技法を身につけるため、講義を受けた後、テーマにそった課題を自ら設定し研究を行う。

楽器学資料館や別科調律専修の資産を活かし、本学でしかできないテーマを設定する。

- 1 総論
  - 2 音楽図像学(1)導入
  - 3 音楽図像学(2)特別講義
  - 4 音楽図像学(3)討論と課題設定
  - 5 音楽図像学(4)発表
  - 6 日本の楽器(1)導入
  - 7 日本の楽器(2)特別講義
  - 8 日本の楽器(3)討論と課題設定
  - 9 日本の楽器(4)発表
  - 10 キリスト教と楽器
  - 11 ビオラ・ダ・ガンバ(1)導入
  - 12 ビオラ・ダ・ガンバ(2)特別講義
  - 13 ビオラ・ダ・ガンバ(3)討論と課題設定
  - 14 ビオラ・ダ・ガンバ(4)発表
  - 15 まとめ
  - 16 南アジアの楽器(1)導入
  - 17 南アジアの楽器(2)特別講義
  - 18 南アジアの楽器(3)討論と課題設定
  - 19 南アジアの楽器(4)発表
  - 20 歴史的鍵盤楽器の修復(1)導入
  - 21 歴史的鍵盤楽器の修復(2)特別講義
  - 22 歴史的鍵盤楽器の修復(3)討論と課題設定
  - 23 歴史的鍵盤楽器の修復(4)発表
  - 24 楽器の分類と分布
  - 25 バッグパイプ(1)導入
  - 26 バッグパイプ(2)特別講義
  - 27 バッグパイプ(3)討論と課題設定
  - 28 バッグパイプ(4)発表
  - 29 まとめと評価
- (順番、内容が変更になることがあります。)

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ配布する資料をよく読み、各回の特別講義を受講するための予習をしておくこと。  
また、発表担当分を特によく準備しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

研究成果の発表40%、期末レポート50%、積極性など授業への貢献度10%

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

#### ◆参考図書◆

講義の中で随時指示します。

#### ◆留意事項◆

グループワークを含むので、遅刻は厳禁です。

ナンバリング	MGL705N		
科目名	指導法		
科目詳細			
担当教員	神原 雅之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽大学等、音楽の高等教育機関で教える、指導することはどういうことかを知り、TAとして教えるための前提を理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽大学で教えるために必要な、前提となる以下の様々な法律等の規程とその意味について学ぶ。  
主な内容は次の通り。

- 1)人はなぜ学ぶのか
- 2)大学とは何か
- 3)教育基本法
- 4)学校教育法
- 5)大学設置基準
- 6)大学認証評価(1)導入期
- 7)大学認証評価(2)現在
- 8)FDについて(1)背景
- 9)FDについて(2)事例
- 10)学則について(1)位置づけ
- 11)学則について(2)その実際
- 12)諸規定について
- 13)TAについて(1)心構え
- 14)TAについて(2)役割
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の授業内容について各自事前に準備を行い授業に臨むこと。  
プレゼンテーションも課す。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加、課題の提出、最終レポートなどを総合して評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配付する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

TAを申請するものは、この授業を取ることが必須条件となる。

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	独語		
担当教員	田中 淑恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-211	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席率、授業態度により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	独語		
担当教員	田中 淑恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-211	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席率、授業態度により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	独語		
担当教員	田中 淑恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-211	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

##### [前期]

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 発音練習(特に母音)。
- ・3回目 発音練習後、各自曲を取り上げ、実際に歌唱する。
- ・4～9回目 3回目の復習。各曲についての詩の解釈と和声について説明する。
- ・10回目 新たな曲を取り入れ、歌唱する。
- ・11～13回目 各自歌った後、ディスカッションを行う。その後、再度歌唱する。
- ・14回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4～12回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・13回目 授業内発表会。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・必ず発音記号を調べてくること。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べてくること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

たとえフランス語に不慣れでも安心していらして下さい。



ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	独語		
担当教員	田中 淑恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-211	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

##### [前期]

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 発音練習(特に母音)。
- ・3回目 発音練習後、各自曲を取り上げ、実際に歌唱する。
- ・4～9回目 3回目の復習。各曲についての詩の解釈と和声について説明する。
- ・10回目 新たな曲を取り入れ、歌唱する。
- ・11～13回目 各自歌った後、ディスカッションを行う。その後、再度歌唱する。
- ・14回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4～12回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・13回目 授業内発表会。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・必ず発音記号を調べてくること。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べてくること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

たとえフランス語に不慣れでも安心していらして下さい。

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	独語		
担当教員	田中 淑恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-211	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ドイツ歌曲における詩と音楽の一体化を目指し、美しく明確な発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

独語の歌曲とオラトリオの作品を適宜選択し、演習する。

歌曲においては、詩の解釈、楽曲分析を通して伴奏の意味するところを探り、伴奏との融合、美しい発音と発声で色彩豊かな音色での歌唱を目指す。

同様にオラトリオにおいてもキリスト教の精神、オラトリオの意義を踏まえ、教育目標に沿った演習を志す。

最後に授業内発表会の形式をとり、その成果を見る。

#### ◆準備学習の内容◆

この科目はドイツ歌曲専攻以外の声楽科の学生も履修できる。授業は履修学年の経験の程度に合わせて行うので、ドイツリート経験がまったくない学生も心配には及ばない。

準備学習としては当然の事ではあるが、譜読みをしっかりとってくる事。作品の単語を必ず調べて歌詞の内容を十分に理解し歌えるよう準備してくる事。

伴奏者は用意されているので伴奏合わせの必要はない。

初回の授業にさいしては歌曲を歌ってもらい各々のドイツリートに関する認識度、実力を知る為に1曲準備してきて欲しい。その後にそれぞれの一年間の授業の進行の方針を決めたい。

未経験者には時代を追って後期ロマン派位までの歌曲を一通り経験してもらるか、特定の歌曲集を用い一人の作曲家を深く掘り下げる等、またリートにかなり精通し、論文に関連する作品を研究したい者はその準備を、また既にテーマは決まっているので他の作品を研究したい者はその準備をしてくる事。

毎年受講生の数が変動するので時間内に一人何曲学習出来るかは分からないが無理のない範囲で課題を与えるので心配はいらない。

オラトリオについても同様である。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	独語		
担当教員	田中 淑恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-211	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ドイツ歌曲における詩と音楽の一体化を目指し、美しく明確な発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

独語の歌曲とオラトリオの作品を適宜選択し、演習する。

歌曲においては、詩の解釈、楽曲分析を通して伴奏の意味するところを探り、伴奏との融合、美しい発音と発声で色彩豊かな音色での歌唱を目指す。

同様にオラトリオにおいてもキリスト教の精神、オラトリオの意義を踏まえ、教育目標に沿った演習を志す。

最後に授業内発表会の形式をとり、その成果を見る。

#### ◆準備学習の内容◆

この科目はドイツ歌曲専攻以外の声楽科の学生も履修できる。授業は履修学年の経験の程度に合わせて行うので、ドイツリート経験がまったくない学生も心配には及ばない。

準備学習としては当然の事ではあるが、譜読みをしっかりとってくる事。作品の単語を必ず調べて歌詞の内容を十分に理解し歌えるよう準備してくる事。

伴奏者は用意されているので伴奏合わせの必要はない。

初回の授業にさいしては歌曲を歌ってもらい各々のドイツリートに関する認識度、実力を知る為に1曲準備してきて欲しい。その後にそれぞれの一年間の授業の進行の方針を決めたい。

未経験者には時代を追って後期ロマン派位までの歌曲を一通り経験してもらるか、特定の歌曲集を用い一人の作曲家を深く掘り下げる等、またリートにかなり精通し、論文に関連する作品を研究したい者はその準備を、また既にテーマは決まっているので他の作品を研究したい者はその準備をしてくる事。

毎年受講生の数が変動するので時間内に一人何曲学習出来るかは分からないが無理のない範囲で課題を与えるので心配はいらない。

オラトリオについても同様である。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	独語		
担当教員	田中 淑恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-211	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などの視座から考察し、自然で美しい日本語をいかにして表現できるかについて深耕する。また、詩の朗読や実践を通して、日本歌曲へのより深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

明治から現在に至る約120年間の日本歌曲の変遷に沿って、代表的な作曲家作品を三つの時期に分けて考察してゆく。

前期では、創成期の作曲家の代表である滝廉太郎、山田耕柝を中心にとりあげる。

山田耕柝と関わりの深かった詩人たち(三木露風、北原白秋、大木惇夫、など)にも着目したい。

また継承期の作曲家である、橋本国彦、平井康三郎もとりあげ、それぞれの新しい試みについて考察する。

後期では、展開期から現代までの作曲家、高田三郎、中田喜直、團伊玖磨、大中恩、別宮貞雄、三善晃、猪本隆、木下牧子、などの作品をとりにあげる。

各回、その作品にふさわしい歌唱法について、時代背景や作曲家の視点などから多角的にとらえ、より細やかな表現法を模索してゆく。

年度末には、演奏発表を予定している。

#### ◆準備学習の内容◆

各自担当された曲目について、作曲家、および詩人を独自の方法で調べ、詩の朗読、演奏とともに発表する形式をとる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

演奏発表での歌唱、授業への取り組み、などから評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	独語		
担当教員	田中 淑恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-211	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などの視座から考察し、自然で美しい日本語をいかにして表現できるかについて深耕する。また、詩の朗読や実践を通して、日本歌曲へのより深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

明治から現在に至る約120年間の日本歌曲の変遷に沿って、代表的な作曲家作品を三つの時期に分けて考察してゆく。

前期では、創成期の作曲家の代表である滝廉太郎、山田耕柝を中心にとりあげる。

山田耕柝と関わりの深かった詩人たち(三木露風、北原白秋、大木惇夫、など)にも着目したい。

また継承期の作曲家である、橋本国彦、平井康三郎もとりあげ、それぞれの新しい試みについて考察する。

後期では、展開期から現代までの作曲家、高田三郎、中田喜直、團伊玖磨、大中恩、別宮貞雄、三善晃、猪本隆、木下牧子、などの作品をとりにあげる。

各回、その作品にふさわしい歌唱法について、時代背景や作曲家の視点などから多角的にとらえ、より細やかな表現法を模索してゆく。

年度末には、演奏発表を予定している。

#### ◆準備学習の内容◆

各自担当された曲目について、作曲家、および詩人を独自の方法で調べ、詩の朗読、演奏とともに発表する形式をとる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

演奏発表での歌唱、授業への取り組み、などから評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	伊語		
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-217	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカント的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席率、授業態度により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	伊語		
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-217	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカント的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席率、授業態度により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	伊語		
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	O2
講義室	N-217	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

##### [前期]

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 発音練習(特に母音)。
- ・3回目 発音練習後、各自曲を取り上げ、実際に歌唱する。
- ・4～9回目 3回目の復習。各曲についての詩の解釈と和声について説明する。
- ・10回目 新たな曲を取り入れ、歌唱する。
- ・11～13回目 各自歌った後、ディスカッションを行う。その後、再度歌唱する。
- ・14回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4～12回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・13回目 授業内発表会。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・必ず発音記号を調べてくること。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べてくること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

たとえフランス語に不慣れでも安心していらして下さい。



ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	伊語		
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	O2
講義室	N-217	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

##### [前期]

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 発音練習(特に母音)。
- ・3回目 発音練習後、各自曲を取り上げ、実際に歌唱する。
- ・4～9回目 3回目の復習。各曲についての詩の解釈と和声について説明する。
- ・10回目 新たな曲を取り入れ、歌唱する。
- ・11～13回目 各自歌った後、ディスカッションを行う。その後、再度歌唱する。
- ・14回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4～12回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・13回目 授業内発表会。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・必ず発音記号を調べてくること。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べてくること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

たとえフランス語に不慣れでも安心していらして下さい。

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	伊語		
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	O2
講義室	N-217	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ドイツ歌曲における詩と音楽の一体化を目指し、美しく明確な発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

独語の歌曲とオラトリオの作品を適宜選択し、演習する。

歌曲においては、詩の解釈、楽曲分析を通して伴奏の意味するところを探り、伴奏との融合、美しい発音と発声で色彩豊かな音色での歌唱を目指す。

同様にオラトリオにおいてもキリスト教の精神、オラトリオの意義を踏まえ、教育目標に沿った演習を志す。

最後に授業内発表会の形式をとり、その成果を見る。

#### ◆準備学習の内容◆

この科目はドイツ歌曲専攻以外の声楽科の学生も履修できる。授業は履修学年の経験の程度に合わせて行うので、ドイツリートの経験がまったくない学生も心配には及ばない。

準備学習としては当然の事ではあるが、譜読みをしっかりとってくる事。作品の単語を必ず調べて歌詞の内容を十分に理解し歌えるよう準備してくる事。

伴奏者は用意されているので伴奏合わせの必要はない。

初回の授業にさいしては歌曲を歌ってもらい各々のドイツリートに関する認識度、実力を知る為に1曲準備してきて欲しい。その後にそれぞれの一年間の授業の進行の方針を決めたい。

未経験者には時代を追って後期ロマン派位までの歌曲を一通り経験してもらるか、特定の歌曲集を用い一人の作曲家を深く掘り下げる等、またリートにかなり精通し、論文に関連する作品を研究したい者はその準備を、また既にテーマは決まっているので他の作品を研究したい者はその準備をしてくる事。

毎年受講生の数が変動するので時間内に一人何曲学習出来るかは分からないが無理のない範囲で課題を与えるので心配はいらない。

オラトリオについても同様である。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	伊語		
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	O2
講義室	N-217	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ドイツ歌曲における詩と音楽の一体化を目指し、美しく明確な発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

独語の歌曲とオラトリオの作品を適宜選択し、演習する。

歌曲においては、詩の解釈、楽曲分析を通して伴奏の意味するところを探り、伴奏との融合、美しい発音と発声で色彩豊かな音色での歌唱を目指す。

同様にオラトリオにおいてもキリスト教の精神、オラトリオの意義を踏まえ、教育目標に沿った演習を志す。

最後に授業内発表会の形式をとり、その成果を見る。

#### ◆準備学習の内容◆

この科目はドイツ歌曲専攻以外の声楽科の学生も履修できる。授業は履修学年の経験の程度に合わせて行うので、ドイツリートの経験がまったくない学生も心配には及ばない。

準備学習としては当然の事ではあるが、譜読みをしっかりとってくる事。作品の単語を必ず調べて歌詞の内容を十分に理解し歌えるよう準備してくる事。

伴奏者は用意されているので伴奏合わせの必要はない。

初回の授業にさいしては歌曲を歌ってもらい各々のドイツリートに関する認識度、実力を知る為に1曲準備してきて欲しい。その後にそれぞれの一年間の授業の進行の方針を決めたい。

未経験者には時代を追って後期ロマン派位までの歌曲を一通り経験してもらるか、特定の歌曲集を用い一人の作曲家を深く掘り下げる等、またリートにかなり精通し、論文に関連する作品を研究したい者はその準備を、また既にテーマは決まっているので他の作品を研究したい者はその準備をしてくる事。

毎年受講生の数が変動するので時間内に一人何曲学習出来るかは分からないが無理のない範囲で課題を与えるので心配はいらない。

オラトリオについても同様である。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	伊語		
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	O2
講義室	N-217	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などの視座から考察し、自然で美しい日本語をいかにして表現できるかについて深耕する。また、詩の朗読や実践を通して、日本歌曲へのより深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

明治から現在に至る約120年間の日本歌曲の変遷に沿って、代表的な作曲家作品を三つの時期に分けて考察してゆく。

前期では、創成期の作曲家の代表である滝廉太郎、山田耕柝を中心にとりあげる。

山田耕柝と関わりの深かった詩人たち(三木露風、北原白秋、大木惇夫、など)にも着目したい。

また継承期の作曲家である、橋本国彦、平井康三郎もとりあげ、それぞれの新しい試みについて考察する。

後期では、展開期から現代までの作曲家、高田三郎、中田喜直、團伊玖磨、大中恩、別宮貞雄、三善晃、猪本隆、木下牧子、などの作品をとる。

各回、その作品にふさわしい歌唱法について、時代背景や作曲家の視点などから多角的にとらえ、より細やかな表現法を模索してゆく。

年度末には、演奏発表を予定している。

#### ◆準備学習の内容◆

各自担当された曲目について、作曲家、および詩人を独自の方法で調べ、詩の朗読、演奏とともに発表する形式をとる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

演奏発表での歌唱、授業への取り組み、などから評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	伊語		
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	O2
講義室	N-217	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などの視座から考察し、自然で美しい日本語をいかにして表現できるかについて深耕する。また、詩の朗読や実践を通して、日本歌曲へのより深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

明治から現在に至る約120年間の日本歌曲の変遷に沿って、代表的な作曲家作品を三つの時期に分けて考察してゆく。

前期では、創成期の作曲家の代表である滝廉太郎、山田耕柝を中心にとりあげる。

山田耕柝と関わりの深かった詩人たち(三木露風、北原白秋、大木惇夫、など)にも着目したい。

また継承期の作曲家である、橋本国彦、平井康三郎もとりあげ、それぞれの新しい試みについて考察する。

後期では、展開期から現代までの作曲家、高田三郎、中田喜直、團伊玖磨、大中恩、別宮貞雄、三善晃、猪本隆、木下牧子、などの作品をとる。

各回、その作品にふさわしい歌唱法について、時代背景や作曲家の視点などから多角的にとらえ、より細やかな表現法を模索してゆく。

年度末には、演奏発表を予定している。

#### ◆準備学習の内容◆

各自担当された曲目について、作曲家、および詩人を独自の方法で調べ、詩の朗読、演奏とともに発表する形式をとる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

演奏発表での歌唱、授業への取り組み、などから評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	仏語		
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-210	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカント的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席率、授業態度により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	仏語		
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-210	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカント的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席率、授業態度により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	仏語		
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-210	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

##### [前期]

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 発音練習(特に母音)。
- ・3回目 発音練習後、各自曲を取り上げ、実際に歌唱する。
- ・4～9回目 3回目の復習。各曲についての詩の解釈と和声について説明する。
- ・10回目 新たな曲を取り入れ、歌唱する。
- ・11～13回目 各自歌った後、ディスカッションを行う。その後、再度歌唱する。
- ・14回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4～12回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・13回目 授業内発表会。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・必ず発音記号を調べてくること。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べてくること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

たとえフランス語に不慣れでも安心していらして下さい。



ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	仏語		
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-210	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

##### [前期]

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 発音練習(特に母音)。
- ・3回目 発音練習後、各自曲を取り上げ、実際に歌唱する。
- ・4～9回目 3回目の復習。各曲についての詩の解釈と和声について説明する。
- ・10回目 新たな曲を取り入れ、歌唱する。
- ・11～13回目 各自歌った後、ディスカッションを行う。その後、再度歌唱する。
- ・14回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4～12回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・13回目 授業内発表会。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・必ず発音記号を調べてくること。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べてくること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

たとえフランス語に不慣れでも安心していらして下さい。

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	仏語		
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-210	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ドイツ歌曲における詩と音楽の一体化を目指し、美しく明確な発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

独語の歌曲とオラトリオの作品を適宜選択し、演習する。

歌曲においては、詩の解釈、楽曲分析を通して伴奏の意味するところを探り、伴奏との融合、美しい発音と発声で色彩豊かな音色での歌唱を目指す。

同様にオラトリオにおいてもキリスト教の精神、オラトリオの意義を踏まえ、教育目標に沿った演習を志す。

最後に授業内発表会の形式をとり、その成果を見る。

#### ◆準備学習の内容◆

この科目はドイツ歌曲専攻以外の声楽科の学生も履修できる。授業は履修学年の経験の程度に合わせて行うので、ドイツリート経験がまったくない学生も心配には及ばない。

準備学習としては当然の事ではあるが、譜読みをしっかりとってくる事。作品の単語を必ず調べて歌詞の内容を十分に理解し歌えるよう準備してくる事。

伴奏者は用意されているので伴奏合わせの必要はない。

初回の授業にさいしては歌曲を歌ってもらい各々のドイツリートに関する認識度、実力を知る為に1曲準備してきて欲しい。その後にそれぞれの一年間の授業の進行の方針を決めたい。

未経験者には時代を追って後期ロマン派位までの歌曲を一通り経験してもらるか、特定の歌曲集を用い一人の作曲家を深く掘り下げる等、またリートにかなり精通し、論文に関連する作品を研究したい者はその準備を、また既にテーマは決まっているので他の作品を研究したい者はその準備をしてくる事。

毎年受講生の数が変動するので時間内に一人何曲学習出来るかは分からないが無理のない範囲で課題を与えるので心配はいらない。

オラトリオについても同様である。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	仏語		
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-210	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ドイツ歌曲における詩と音楽の一体化を目指し、美しく明確な発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

独語の歌曲とオラトリオの作品を適宜選択し、演習する。

歌曲においては、詩の解釈、楽曲分析を通して伴奏の意味するところを探り、伴奏との融合、美しい発音と発声で色彩豊かな音色での歌唱を目指す。

同様にオラトリオにおいてもキリスト教の精神、オラトリオの意義を踏まえ、教育目標に沿った演習を志す。

最後に授業内発表会の形式をとり、その成果を見る。

#### ◆準備学習の内容◆

この科目はドイツ歌曲専攻以外の声楽科の学生も履修できる。授業は履修学年の経験の程度に合わせて行うので、ドイツ語の経験がまったくない学生も心配には及ばない。

準備学習としては当然の事ではあるが、譜読みをしっかりとってくる事。作品の単語を必ず調べて歌詞の内容を十分に理解し歌えるよう準備してくる事。

伴奏者は用意されているので伴奏合わせの必要はない。

初回の授業にさいしては歌曲を歌ってもらい各々のドイツ語に関する認識度、実力を知る為に1曲準備してきて欲しい。その後にそれぞれの一年間の授業の進行の方針を決めたい。

未経験者には時代を追って後期ロマン派位までの歌曲を一通り経験してもらるか、特定の歌曲集を用い一人の作曲家を深く掘り下げる等、またリートにかなり精通し、論文に関連する作品を研究したい者はその準備を、また既にテーマは決まっているので他の作品を研究したい者はその準備をしてくる事。

毎年受講生の数が変動するので時間内に一人何曲学習出来るかは分からないが無理のない範囲で課題を与えるので心配はいらない。

オラトリオについても同様である。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	仏語		
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-210	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などの視座から考察し、自然で美しい日本語をいかにして表現できるかについて深耕する。また、詩の朗読や実践を通して、日本歌曲へのより深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

明治から現在に至る約120年間の日本歌曲の変遷に沿って、代表的な作曲家作品を三つの時期に分けて考察してゆく。

前期では、創成期の作曲家の代表である滝廉太郎、山田耕柝を中心にとりあげる。

山田耕柝と関わりの深かった詩人たち(三木露風、北原白秋、大木惇夫、など)にも着目したい。

また継承期の作曲家である、橋本国彦、平井康三郎もとりあげ、それぞれの新しい試みについて考察する。

後期では、展開期から現代までの作曲家、高田三郎、中田喜直、團伊玖磨、大中恩、別宮貞雄、三善晃、猪本隆、木下牧子、などの作品をとりにあげる。

各回、その作品にふさわしい歌唱法について、時代背景や作曲家の視点などから多角的にとらえ、より細やかな表現法を模索してゆく。

年度末には、演奏発表を予定している。

#### ◆準備学習の内容◆

各自担当された曲目について、作曲家、および詩人を独自の方法で調べ、詩の朗読、演奏とともに発表する形式をとる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

演奏発表での歌唱、授業への取り組み、などから評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	仏語		
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-210	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などの視座から考察し、自然で美しい日本語をいかにして表現できるかについて深耕する。また、詩の朗読や実践を通して、日本歌曲へのより深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

明治から現在に至る約120年間の日本歌曲の変遷に沿って、代表的な作曲家作品を三つの時期に分けて考察してゆく。

前期では、創成期の作曲家の代表である滝廉太郎、山田耕柝を中心にとりあげる。

山田耕柝と関わりの深かった詩人たち(三木露風、北原白秋、大木惇夫、など)にも着目したい。

また継承期の作曲家である、橋本国彦、平井康三郎もとりあげ、それぞれの新しい試みについて考察する。

後期では、展開期から現代までの作曲家、高田三郎、中田喜直、團伊玖磨、大中恩、別宮貞雄、三善晃、猪本隆、木下牧子、などの作品をとりにあげる。

各回、その作品にふさわしい歌唱法について、時代背景や作曲家の視点などから多角的にとらえ、より細やかな表現法を模索してゆく。

年度末には、演奏発表を予定している。

#### ◆準備学習の内容◆

各自担当された曲目について、作曲家、および詩人を独自の方法で調べ、詩の朗読、演奏とともに発表する形式をとる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

演奏発表での歌唱、授業への取り組み、などから評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	日本語		
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O4
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席率、授業態度により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	日本語		
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O4
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席率、授業態度により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	日本語		
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O4
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

##### [前期]

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 発音練習(特に母音)。
- ・3回目 発音練習後、各自曲を取り上げ、実際に歌唱する。
- ・4～9回目 3回目の復習。各曲についての詩の解釈と和声について説明する。
- ・10回目 新たな曲を取り入れ、歌唱する。
- ・11～13回目 各自歌った後、ディスカッションを行う。その後、再度歌唱する。
- ・14回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4～12回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・13回目 授業内発表会。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・必ず発音記号を調べてくること。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べてくること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

たとえフランス語に不慣れでも安心していらして下さい。



ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	日本語		
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O4
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

##### [前期]

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 発音練習(特に母音)。
- ・3回目 発音練習後、各自曲を取り上げ、実際に歌唱する。
- ・4～9回目 3回目の復習。各曲についての詩の解釈と和声について説明する。
- ・10回目 新たな曲を取り入れ、歌唱する。
- ・11～13回目 各自歌った後、ディスカッションを行う。その後、再度歌唱する。
- ・14回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

##### [後期]

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4～12回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・13回目 授業内発表会。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・必ず発音記号を調べてくること。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べてくること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

たとえフランス語に不慣れでも安心していらして下さい。

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	日本語		
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O4
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ドイツ歌曲における詩と音楽の一体化を目指し、美しく明確な発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

独語の歌曲とオラトリオの作品を適宜選択し、演習する。

歌曲においては、詩の解釈、楽曲分析を通して伴奏の意味するところを探り、伴奏との融合、美しい発音と発声で色彩豊かな音色での歌唱を目指す。

同様にオラトリオにおいてもキリスト教の精神、オラトリオの意義を踏まえ、教育目標に沿った演習を志す。

最後に授業内発表会の形式をとり、その成果を見る。

#### ◆準備学習の内容◆

この科目はドイツ歌曲専攻以外の声楽科の学生も履修できる。授業は履修学年の経験の程度に合わせて行うので、ドイツリート経験がまったくない学生も心配には及ばない。

準備学習としては当然の事ではあるが、譜読みをしっかりとってくる事。作品の単語を必ず調べて歌詞の内容を十分に理解し歌えるよう準備してくる事。

伴奏者は用意されているので伴奏合わせの必要はない。

初回の授業にさいしては歌曲を歌ってもらい各々のドイツリートに関する認識度、実力を知る為に1曲準備してきて欲しい。その後にそれぞれの一年間の授業の進行の方針を決めたい。

未経験者には時代を追って後期ロマン派位までの歌曲を一通り経験してもらるか、特定の歌曲集を用い一人の作曲家を深く掘り下げる等、またリートにかなり精通し、論文に関連する作品を研究したい者はその準備を、また既にテーマは決まっているので他の作品を研究したい者はその準備をしてくる事。

毎年受講生の数が変動するので時間内に一人何曲学習出来るかは分からないが無理のない範囲で課題を与えるので心配はいらない。

オラトリオについても同様である。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	日本語		
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O4
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ドイツ歌曲における詩と音楽の一体化を目指し、美しく明確な発音と発声の結びつきを研究し、演奏する。

#### ◆授業内容・計画◆

独語の歌曲とオラトリオの作品を適宜選択し、演習する。

歌曲においては、詩の解釈、楽曲分析を通して伴奏の意味するところを探り、伴奏との融合、美しい発音と発声で色彩豊かな音色での歌唱を目指す。

同様にオラトリオにおいてもキリスト教の精神、オラトリオの意義を踏まえ、教育目標に沿った演習を志す。

最後に授業内発表会の形式をとり、その成果を見る。

#### ◆準備学習の内容◆

この科目はドイツ歌曲専攻以外の声楽科の学生も履修できる。授業は履修学年の経験の程度に合わせて行うので、ドイツリートの経験がまったくない学生も心配には及ばない。

準備学習としては当然の事ではあるが、譜読みをしっかりとってくる事。作品の単語を必ず調べて歌詞の内容を十分に理解し歌えるよう準備してくる事。

伴奏者は用意されているので伴奏合わせの必要はない。

初回の授業にさいしては歌曲を歌ってもらい各々のドイツリートに関する認識度、実力を知る為に1曲準備してきて欲しい。その後にそれぞれの一年間の授業の進行の方針を決めたい。

未経験者には時代を追って後期ロマン派位までの歌曲を一通り経験してもらるか、特定の歌曲集を用い一人の作曲家を深く掘り下げる等、またリートにかなり精通し、論文に関連する作品を研究したい者はその準備を、また既にテーマは決まっているので他の作品を研究したい者はその準備をしてくる事。

毎年受講生の数が変動するので時間内に一人何曲学習出来るかは分からないが無理のない範囲で課題を与えるので心配はいらない。

オラトリオについても同様である。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	日本語		
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O4
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などの視座から考察し、自然で美しい日本語をいかにして表現できるかについて深耕する。また、詩の朗読や実践を通して、日本歌曲へのより深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

明治から現在に至る約120年間の日本歌曲の変遷に沿って、代表的な作曲家作品を三つの時期に分けて考察してゆく。

前期では、創成期の作曲家の代表である滝廉太郎、山田耕柝を中心にとりあげる。

山田耕柝と関わりの深かった詩人たち(三木露風、北原白秋、大木惇夫、など)にも着目したい。

また継承期の作曲家である、橋本国彦、平井康三郎もとりあげ、それぞれの新しい試みについて考察する。

後期では、展開期から現代までの作曲家、高田三郎、中田喜直、團伊玖磨、大中恩、別宮貞雄、三善晃、猪本隆、木下牧子、などの作品をとる。

各回、その作品にふさわしい歌唱法について、時代背景や作曲家の視点などから多角的にとらえ、より細やかな表現法を模索してゆく。

年度末には、演奏発表を予定している。

#### ◆準備学習の内容◆

各自担当された曲目について、作曲家、および詩人を独自の方法で調べ、詩の朗読、演奏とともに発表する形式をとる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

演奏発表での歌唱、授業への取り組み、などから評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	歌曲・オラトリオ演習A		
科目詳細	日本語		
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O4
講義室	N-135	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などの視座から考察し、自然で美しい日本語をいかにして表現できるかについて深耕する。また、詩の朗読や実践を通して、日本歌曲へのより深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

明治から現在に至る約120年間の日本歌曲の変遷に沿って、代表的な作曲家作品を三つの時期に分けて考察してゆく。

前期では、創成期の作曲家の代表である滝廉太郎、山田耕柝を中心にとりあげる。

山田耕柝と関わりの深かった詩人たち(三木露風、北原白秋、大木惇夫、など)にも着目したい。

また継承期の作曲家である、橋本国彦、平井康三郎もとりあげ、それぞれの新しい試みについて考察する。

後期では、展開期から現代までの作曲家、高田三郎、中田喜直、團伊玖磨、大中恩、別宮貞雄、三善晃、猪本隆、木下牧子、などの作品をとる。

各回、その作品にふさわしい歌唱法について、時代背景や作曲家の視点などから多角的にとらえ、より細やかな表現法を模索してゆく。

年度末には、演奏発表を予定している。

#### ◆準備学習の内容◆

各自担当された曲目について、作曲家、および詩人を独自の方法で調べ、詩の朗読、演奏とともに発表する形式をとる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

演奏発表での歌唱、授業への取り組み、などから評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	舞台発音発声法		
科目詳細			
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	O1
講義室	SPC-B	開講学期	通年
曜日・時限	木5	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

テキストを持つ音楽作品を音楽家、もしくは舞台人として扱う際に必要となる基礎知識を学び、実践する。また、それらがどのような手段となり得るのかについても考えたい。

#### ◆授業内容・計画◆

主にイタリア語の歴史的文法と音声学・音韻論の観点から考察する(言語としてのイタリア語、イタリア語の韻文、芸術的な言語としてのイタリア語など)。

異なる機能を持った言語の特徴について学ぶ。基礎知識が共有できるようになった後に、言葉と音楽の関係を考察する。理論を把握するのと同時進行で、受講者の関心のある領域から課題を持ち寄り、実践を通して舞台発音発声の基礎固めをおこなう。

- 1)オリエンテーション
- 2)言語としての発音
- 3)芸術作品の朗読
- 4)歌唱のための発音
- 5～14)課題の考察と実践(1):主にダ・ポンテのオペラ台本
- 15)前期のまとめ

16～19)課題の考察と実践(2):主に『魔笛』および『ウインザーの陽気な女房たち』

20～28)課題の考察と実践(3):主に19世紀イタリア・オペラ台本

29)後期のまとめ

30)総論

※受講生の理解度や準備の状態によっては、内容や進度を変更することもある。

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で扱う作品のテキストについての事前学習が求められる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席率および授業への積極的な参加による評価50%、研究発表30%、実技習熟度20%をベースとして、総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

イタリア語やドイツ語の基礎知識があるものとして授業を進める。ことばへの興味や探究心が強いほど語学の力はつき、授業の内容理解も深まるので、声楽作品の魅力(技術に支えられた声とその音声がことば表現と有機的に結び付いている)を最大限に発揮させることができるよう、本講義を機にイタリア語やドイツ語の力をさらにアップさせて欲しい。

ナンバリング			
科目名	舞台発音発声法		
科目詳細			
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	O1
講義室	SPC-B	開講学期	通年
曜日・時限	木5	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

テキストを持つ音楽作品を音楽家、もしくは舞台人として扱う際に必要となる基礎知識を学び、実践する。また、それらがどのような手段となり得るのかについても考えたい。

#### ◆授業内容・計画◆

主にイタリア語の歴史的文法と音声学・音韻論の観点から考察する(言語としてのイタリア語、イタリア語の韻文、芸術的な言語としてのイタリア語など)。

異なる機能を持った言語の特徴について学ぶ。基礎知識が共有できるようになった後に、言葉と音楽の関係を考察する。理論を把握するのと同時進行で、受講者の関心のある領域から課題を持ち寄り、実践を通して舞台発音発声の基礎固めをおこなう。

- 1)オリエンテーション
- 2)言語としての発音
- 3)芸術作品の朗読
- 4)歌唱のための発音
- 5～14)課題の考察と実践(1):主にダ・ポンテのオペラ台本
- 15)前期のまとめ

16～19)課題の考察と実践(2):主に『魔笛』および『ウインザーの陽気な女房たち』

20～28)課題の考察と実践(3):主に19世紀イタリア・オペラ台本

29)後期のまとめ

30)総論

※受講生の理解度や準備の状態によっては、内容や進度を変更することもある。

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で扱う作品のテキストについての事前学習が求められる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席率および授業への積極的な参加による評価50%、研究発表30%、実技習熟度20%をベースとして、総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

イタリア語やドイツ語の基礎知識があるものとして授業を進める。ことばへの興味や探究心が強いほど語学の力はつき、授業の内容理解も深まるので、声楽作品の魅力(技術に支えられた声とその音声がことば表現と有機的に結び付いている)を最大限に発揮させることができるよう、本講義を機にイタリア語やドイツ語の力をさらにアップさせて欲しい。

ナンバリング			
科目名	舞台表現技術演習(ボディーテクニック)		
科目詳細			
担当教員	中島 伸欣		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	通年
曜日・時限	木4	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

舞台表現においてオペラ歌手に必要な身体と身体に対する意識を、完成されたクラシックバレエの肉体訓練法をもとに獲得していく。

◆授業内容・計画◆

この授業はオペラ歌手において演説論に総括されるべきものと考えています。歌えるだけのオペラ歌手など存在しないと肝に命じていただきたい。さて授業内容ですが、フローレッスンから始め、段階を経て、バーレッスン、センターレッスンに発展していきます。センターレッスンでは音楽に合わせてクラシックバレエの基礎的な動きを習得します。かなりダンスに近くなりますが、あくまで基礎的な動きと理解していただきたい。後期ではロマンチックバレエから民族的なダンスを一曲、現代的なダンスを一曲練習します。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示します。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

肉体訓練ですのであくまで授業への取組態度を重視します。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	舞台表現技術演習(ボディーテクニク)		
科目詳細			
担当教員	中島 伸欣		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	通年
曜日・時限	木4	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

舞台表現においてオペラ歌手に必要な身体と身体に対する意識を、完成されたクラシックバレエの肉体訓練法をもとに獲得していく。

◆授業内容・計画◆

この授業はオペラ歌手において演説論に総括されるべきものと考えています。歌えるだけのオペラ歌手など存在しないと肝に命じていただきたい。さて授業内容ですが、フローレッスンから始め、段階を経て、バーレッスン、センターレッスンに発展していきます。センターレッスンでは音楽に合わせてクラシックバレエの基礎的な動きを習得します。かなりダンスに近くなりますが、あくまで基礎的な動きと理解していただきたい。後期ではロマンチックバレエから民族的なダンスを一曲、現代的なダンスを一曲練習します。

◆準備学習の内容◆

授業内で指示します。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

肉体訓練ですのであくまで授業への取組態度を重視します。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	MVS731N		
科目名	舞台表現技術演習(日舞)		
科目詳細			
担当教員	花柳 妙千鶴		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- 1、着物の着付け、礼儀作法、基本的所作を学ぶ。
- 2、日本舞踊の基本的な動作を習得することにより、舞台上での身体表現を、より自由に、より豊かにすることを目標とする。
- 3、日本舞踊の実習を通して、的確に役柄を表現する技術を学ぶ。
- 4、舞台の基礎知識と日本の伝統文化の基礎知識を学ぶ。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) 着物着付け。畳み方。挨拶の基本手順の説明と実習。
- 2) 着物着付け。挨拶の実習。扇使用方法の説明と実習。  
基本動作(立つ、座る、歩く)の実習。
- 3) 着物着付け(15分)、扇を使っの挨拶(15分)と基本動作の実習(30分)、作品習得(30分)。
- 4) 着物着付け(10分)、挨拶と基本動作(30分)、扇の練習(10分)、作品習得(40分)。
- 5) 6) 7) 8) 同上。
- 9) 同上、作品振り移し終了。
- 10) (着付け、挨拶基本動作、扇の練習) 同上。作品の完成度を高める。個人教授を含む。
- 11) 12) 13) 同上。
- 14) 作品発表。

#### ◆準備学習の内容◆

各自、初回授業までに、浴衣、帯(飾り帯でないもの)、足袋、腰ひも2本、腰に巻くタオル、風呂敷、ノート、筆記用具を準備して持参。用意できないものは、初回授業時に相談。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

提出物、実技発表により評価。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	エディション研究		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-23	開講学期	通年
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- ・出版楽譜をめぐる諸問題についてその実態が理解できる。
- ・作曲から楽譜出版までのプロセスについて理解できる。
- ・自分の専門領域の楽曲についてエディションの状況やその問題を把握し、自分で調査して適切に対処することができる。
- ・エディションと不可分の関係にある演奏習慣の問題について理解し、自分の解釈を組み立てることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

西洋伝統音楽を演奏したり研究したりする上で基本的な手がかりとなるエディション(出版楽譜)の諸問題について学び、さまざまな作曲家や作品の事例を通して、受講生が自分で個別の問題に対応できるようなスキルと判断力を養います。

参加者の専攻や人数によって実際の進行は変わりますが、おおむね最初は共通の素材を用いてエディション問題の一般的理解を深め、その後は各人が個別の作品を選んで研究発表を行います。

授業は前期後期を通してほぼ以下のように進められます。

(前期)

第1回～第5回 エディション問題概説

第6回～第10回 作曲家たちの自筆譜を読む

第11回～第15回 学生の個別研究発表

(後期)

第1回～第2回 後期の授業進行の説明と分担

第3回～第12回 学生の個別研究発表

第13回～第15回 演奏習慣の問題と演奏解釈

#### ◆準備学習の内容◆

- ・毎回の授業で扱う内容や楽曲について事前に理解を深めておいてください。
- ・個別研究発表の担当者は当日までに発表に必要な配布資料やプレゼンテーションを作成しておいてください。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

各自の研究発表の成果と授業への貢献度をもとに評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

吉成順『知って得するエディション講座』(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	エディション研究		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-23	開講学期	通年
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- ・出版楽譜をめぐる諸問題についてその実態が理解できる。
- ・作曲から楽譜出版までのプロセスについて理解できる。
- ・自分の専門領域の楽曲についてエディションの状況やその問題を把握し、自分で調査して適切に対処することができる。
- ・エディションと不可分の関係にある演奏習慣の問題について理解し、自分の解釈を組み立てることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

西洋伝統音楽を演奏したり研究したりする上で基本的な手がかりとなるエディション(出版楽譜)の諸問題について学び、さまざまな作曲家や作品の事例を通して、受講生が自分で個別の問題に対応できるようなスキルと判断力を養います。

参加者の専攻や人数によって実際の進行は変わりますが、おおむね最初は共通の素材を用いてエディション問題の一般的理解を深め、その後は各人が個別の作品を選んで研究発表を行います。

授業は前期後期を通してほぼ以下のように進められます。

(前期)

第1回～第5回 エディション問題概説

第6回～第10回 作曲家たちの自筆譜を読む

第11回～第15回 学生の個別研究発表

(後期)

第1回～第2回 後期の授業進行の説明と分担

第3回～第12回 学生の個別研究発表

第13回～第15回 演奏習慣の問題と演奏解釈

#### ◆準備学習の内容◆

- ・毎回の授業で扱う内容や楽曲について事前に理解を深めておいてください。
- ・個別研究発表の担当者は当日までに発表に必要な配布資料やプレゼンテーションを作成しておいてください。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

各自の研究発表の成果と授業への貢献度をもとに評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

吉成順『知って得するエディション講座』(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	声楽特殊講義		
科目詳細			
担当教員	高岸 未朝		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-201, SPC-C	開講学期	通年
曜日・時限	月4	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

<オペラにおいて必要な、歌手の表現方法(演技)を学ぶ>

- ・歌唱テクニック以外の側面からオペラを捉え、豊かに表現する為の身体を造りテクニックを修得する。
- ・感情表出および表現、感情に直結する動作の方法を学び修得する。

#### ◆授業内容・計画◆

【授業内容】

<前期>

1. 舞台表現の基本的な考え方を知る Vol.1
2. 動けるからだを造る Vol.1
3. 舞台表現の基本的な考え方を知る Vol.2
4. 動けるからだを造る Vol.2
5. シアターゲーム Vol.1
6. シアターゲーム Vol.2
7. シアターゲーム Vol.3
8. 感じる心を造る Vol.1
9. 感じる心を造る Vol.2
10. エチュード Vol.1
11. エチュード Vol.2
12. 感じた事を表現する(伝える)メカニズムを作る Vol.1
13. 感じた事を表現する(伝える)メカニズムを作る Vol.2
14. 復習

<後期>

1. 楽譜から演技のヒントを得る方法を知る Vol.1
2. 楽譜から演技のヒントを得る方法を知る Vol.2
3. 歌唱と演技を共存させる、両者の繋がりを知る Vol.1
4. 歌唱と演技を共存させる、両者の繋がりを知る Vol.2
5. 主観的表現を客観的に観察する力をつける Vol.1
6. 主観的表現を客観的に観察する力をつける Vol.2
7. エアオペラで既習事項を実践する Vol.1
8. エアオペラで既習事項を実践する Vol.2
9. エアオペラで既習事項を実践する Vol.3
10. エアオペラで既習事項を実践する Vol.4
11. エアオペラで既習事項を実践する Vol.5
12. エアオペラで既習事項を実践する Vol.6
13. 課題曲実演による試演会＝テスト

\*それぞれ修得状況に応じて復習を織り交ぜつつ進めていく。

#### ◆準備学習の内容◆

前回授業の復習、トレーニングを自宅学習のこと。  
エアオペラの課題スコアを事前学習のこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常授業における取り組み状態を重視。  
遅刻厳禁。  
100%の出席が望ましい。  
授業への取り組み方、課題の修得度合いを加味し評価する。  
実技試験を実施する場合がある。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で都度、指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

筆記用具必携、トレーニングウェア(Tシャツなども可)、トレーニングシューズ(ソールの薄いもの)着用のこと。

ナンバリング			
科目名	声楽特殊講義		
科目詳細			
担当教員	高岸 未朝		
学年	1年	クラス	01
講義室	SPC-C. 6-201	開講学期	通年
曜日・時限	月4	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

<オペラにおいて必要な、歌手の表現方法(演技)を学ぶ>

- ・歌唱テクニック以外の側面からオペラを捉え、豊かに表現する為の身体を造りテクニックを修得する。
- ・感情表出および表現、感情に直結する動作の方法を学び修得する。

#### ◆授業内容・計画◆

【授業内容】

<前期>

1. 舞台表現の基本的な考え方を知る Vol.1
2. 動けるからだを造る Vol.1
3. 舞台表現の基本的な考え方を知る Vol.2
4. 動けるからだを造る Vol.2
5. シアターゲーム Vol.1
6. シアターゲーム Vol.2
7. シアターゲーム Vol.3
8. 感じる心を作る Vol.1
9. 感じる心を作る Vol.2
10. エチュード Vol.1
11. エチュード Vol.2
12. 感じた事を表現する(伝える)メカニズムを作る Vol.1
13. 感じた事を表現する(伝える)メカニズムを作る Vol.2
14. 復習

<後期>

1. 楽譜から演技のヒントを得る方法を知る Vol.1
2. 楽譜から演技のヒントを得る方法を知る Vol.2
3. 歌唱と演技を共存させる、両者の繋がりを知る Vol.1
4. 歌唱と演技を共存させる、両者の繋がりを知る Vol.2
5. 主観的表現を客観的に観察する力をつける Vol.1
6. 主観的表現を客観的に観察する力をつける Vol.2
7. エアオペラで既習事項を実践する Vol.1
8. エアオペラで既習事項を実践する Vol.2
9. エアオペラで既習事項を実践する Vol.3
10. エアオペラで既習事項を実践する Vol.4
11. エアオペラで既習事項を実践する Vol.5
12. エアオペラで既習事項を実践する Vol.6
13. 課題曲実演による試演会＝テスト

\*それぞれ修得状況に応じて復習を織り交ぜつつ進めていく。

#### ◆準備学習の内容◆

前回授業の復習、トレーニングを自宅学習のこと。  
エアオペラの課題スコアを事前学習のこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常授業における取り組み状態を重視。  
遅刻厳禁。  
100%の出席が望ましい。  
授業への取り組み方、課題の修得度合いを加味し評価する。  
実技試験を実施する場合がある。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で都度、指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

筆記用具必携、トレーニングウェア(Tシャツなども可)、トレーニングシューズ(ソールの薄いもの)着用のこと。

ナンバリング			
科目名	室内楽演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	三木 香代		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	通年
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ピアノを含む室内楽曲について、時代様式や編成されている各楽器の特徴をとらえ、アンサンブルに不可欠な音楽表現要素を考慮して演奏することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は、毎回学生が実際に演奏する公開レッスン形式で進め、問題点やその解決法について、様々な角度から考察することで、アンサンブル能力とともにバランスの取れた音楽的感覚を磨く。ヴァイオリン、チェロ、ピアノによるピアノ三重奏曲を中心に演習するが、履修学生の専攻楽器によっては、ピアノと他の楽器による二重奏も含めるなど柔軟に対応する。後期に授業内発表会を行う予定。

#### <u>曲目</u>

ハイドン ピアノ三重奏曲 第25番 Hob.XV-25  
 モーツァルト ピアノ三重奏曲 KV564  
 シューベルト ピアノ三重奏曲 第1番 作品99  
 メンデルスゾーン ピアノ三重奏曲 第1番 作品49  
 ブラームス ピアノ三重奏曲 第1番 作品8  
 ドヴォルザーク ピアノ三重奏曲 作品90「ドゥムキー」

ピアノ三重奏曲については、上記の曲目を参考に各自選択する。楽章の抜粋も認める。上記以外の曲目については履修学生の専攻楽器により決定する。

#### ◆準備学習の内容◆

初回までに、各自選択する曲について検討しておくこと。演奏する曲については、十分な準備をし、自分のパートだけでなく他のパートも把握しておくことが重要である。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

受講態度と演奏の成果による授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

チェロについては、授業補助の演奏者が共演する。ソロでは体験できない、他者と音楽を作り上げる喜びを感じてほしい。

ナンバリング			
科目名	室内楽演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	三木 香代		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	通年
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ピアノを含む室内楽曲について、時代様式や編成されている各楽器の特徴をとらえ、アンサンブルに不可欠な音楽表現要素を考慮して演奏することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は、毎回学生が実際に演奏する公開レッスン形式で進め、問題点やその解決法について、様々な角度から考察することで、アンサンブル能力とともにバランスの取れた音楽的感覚を磨く。ヴァイオリン、チェロ、ピアノによるピアノ三重奏曲を中心に演習するが、履修学生の専攻楽器によっては、ピアノと他の楽器による二重奏も含めるなど柔軟に対応する。後期に授業内発表会を行う予定。

#### <u>曲目</u>

ハイドン ピアノ三重奏曲 第25番 Hob.XV-25  
 モーツァルト ピアノ三重奏曲 KV564  
 シューベルト ピアノ三重奏曲 第1番 作品99  
 メンデルスゾーン ピアノ三重奏曲 第1番 作品49  
 ブラームス ピアノ三重奏曲 第1番 作品8  
 ドヴォルザーク ピアノ三重奏曲 作品90「ドゥムキー」

ピアノ三重奏曲については、上記の曲目を参考に各自選択する。楽章の抜粋も認める。上記以外の曲目については履修学生の専攻楽器により決定する。

#### ◆準備学習の内容◆

初回までに、各自選択する曲について検討しておくこと。演奏する曲については、十分な準備をし、自分のパートだけでなく他のパートも把握しておくことが重要である。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

受講態度と演奏の成果による授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

チェロについては、授業補助の演奏者が共演する。ソロでは体験できない、他者と音楽を作り上げる喜びを感じてほしい。



ナンバリング	MSS717U		
科目名	チェンバロ演習		
科目詳細			
担当教員	有田 千代子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-004	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現在ピアノで演奏されているハイドン、モーツァルトetc.のクラシック音楽ではバロック音楽の影響が大きかった歴史的事実を見逃すことは出来ない。その意味において、チェンバロ音楽を探求し、バロックからクラシックへの道を再確認する事。先ずチェンバロ奏法の基礎であるタッチ(レガート奏法、跳躍奏法etc.)、アーティキュレーションとフィンガリング、イネガル奏法、装飾音などを実習していく。そして、どのようなタッチやアーティキュレーションが望ましいかを考え、音楽が求めている表現が出来ること。

#### ◆授業内容・計画◆

- (1)  
イ、楽器の構造とアクション  
ロ、レガート奏法  
\* バッハ・プレリュード ハ長調 BWV846/1
- (2)(3)  
\* 「ハーブシコード・メソッド」より  
30番ダンドリユー・ロンド  
33番クーブランー気の良いカッコー
- (4)(5)  
イ、跳躍奏法  
\* 「ハーブシコード・メソッド」より  
11番ヘンデル ーガヴォット  
42番作者不詳 ー白いリボン  
\* 「CLAVIS」より  
25番 バッハ・小プレリュードBWV927
- (6)(7)  
イ、アーティキュレーションとフィンガリング  
「ハーブシコード・メソッド」より  
46番バッハ ーアプリカティオ  
「CLAVIS」より  
24番バッハ ーインヴェンション1
- (8)(9)  
イ、イネガル奏法  
「ハーブシコード・メソッド」より  
18番ラモ ーロンドによるメヌエット  
23番ド・ラ・ゲール ーメヌエット  
ロ、装飾音  
「CLAVIS」より  
バッハーただ愛する神の力に委ねる者はBWV691
- (10)(11)  
イ、プレリュード奏法  
「ハーブシコード・メソッド」より  
51番作者不詳 ー小プレリュード  
「CLAVIS」より

#### ◆準備学習の内容◆

授業内容・計画に記載されている課題や進度具合を考慮して十分練習してくる事。  
練習はチェンバロを弾くことでしか学べないないので必ずピアノではなくチェンバロで練習すること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、実技試験を総合的に評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「ハーブシコード・メソッド」M.ボクソール著(日本ショット社)  
Early Keyboard Method「CLAVIS」大塚直哉編  
その他適宜プリントを配布する

#### ◆参考図書◆

「バロックから初期古典派までの音楽の奏法」橋本英二著(音楽の友社)

#### ◆留意事項◆

練習は必ず毎回チェンバロですること。決してピアノで練習してこない事。  
履修者の人数やレベルや進度具合で課題を変更することもある。

ナンバリング			
科目名	原典講読(鍵盤楽器)		
科目詳細			
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	通年
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

この授業は歌曲作品に使われている詩人の作品について、音楽作品の解釈やディクシオンから離れ、純粋に文学的な側面からアプローチすることができる。オムニバス形式で展開されるこの講義は、ヨーロッパ各言語系の専門教員と各言語系の演奏スペシャリストにより、原典を訳しながら文学的解釈を試みることを目的とする。併せて、詩人についての知識、その時代の文芸思潮や社会的な知識を深めることができる。採り上げる文学作品の詳細リストは初回に配付する。

#### ◆授業内容・計画◆

全28回の講義は以下のように構成される。

《前期》第1回オリエンテーション(花岡千春)、第2回ドイツ社会史と文芸思潮～ゲーテ周辺の時代に於ける(小川哲生)、第3回ゲーテ(末松淑美)、第4回ブレンターノ(末松淑美)、第5回シューベルトの詩人たち(末松淑美)、第6回イタリア文芸思潮～清新体派詩人の活躍、恋愛詩の起源や発達について(河原忠之)、第7回ダンテ『神曲』(河原忠之)、第8回ペトラルカ『カンツォニエーレ』(河原忠之)、第9回フランスルネッサンスの文芸思潮～P・ド・ロンサールを中心に(武内朋子)、第10回フランスロマン派の文芸思潮～ヴィクトル・ユーゴーを中心に(武内朋子)、第11回ユーゴー2(武内朋子)、第12回日本の文芸思潮～島崎藤村以降(花岡千春)、第13回北原白秋(花岡千春)、第14回萩原朔太郎(花岡千春)

《後期》第1回ドイツ社会史と文芸思潮～ハイネ、アイヒェンドルフらの周辺(小川哲生)、第2回ハイネの詩(末松)、第3回アイヒェンドルフの詩(末松)、第4回20世紀のドイツ詩(末松)、第5回イタリア文芸思潮～イタリア統一運動をはさんだ19～20世紀にかけての～代表的な韻文学作品を読む(河原)、第6回ダヌツィオ(河原)、第7回パスコリ、レオバルディ(河原)、第8回フランス象徴派の文芸思潮～ヴェルレーヌを中心に(武内)、第9回20世紀フランスの文芸思潮～アポリネールを中心に(武内)、第10回20世紀の詩人たち～コクトー、プレヴェール(武内)、第11回日本の文芸思潮～三好達治以降(花岡)、第12回西条八十、丸山薫、大手拓二、第13回大木惇夫、堀口大学など(花岡)第14回まとめと原典に当たる意味を考える

#### ◆準備学習の内容◆

それぞれの言語に習熟しているわけではない学生諸君が、面喰らうような難解なこともあるでしょうが、講師学生諸君の知識や言語能力を高めることを強く願っています。

各回ごとに、出来るだけ自分で予習し、臨んで下さい。

そして文学的な力をつけていけるように務めて下さい。

#### ◆課題◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席、授業態度を中心に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

その都度指示する。

#### ◆留意事項◆

歌曲作品を解釈するとき、その詩については、音楽作品との関わりの上で付随的に考察するに留まることが多い。この講義での文学的な側面からの解釈は、作曲家の個人的な解釈との微妙なずれを浮かび上がらせることもあり、むしろ音楽の中に埋もれがちな詩の内容についての考察を深めてくれるはずである。その作業の為の、文学的側面からの基本的な方法論を学ぼうという授業。自分の不得手な言語の領域についても、辞書を片手に挑戦してみることを。

※声楽専攻の学生の履修も特に推奨する。

ナンバリング			
科目名	原典講読(鍵盤楽器)		
科目詳細			
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	通年
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

この授業は歌曲作品に使われている詩人の作品について、音楽作品の解釈やディクシオンから離れ、純粋に文学的な側面からアプローチすることができる。オムニバス形式で展開されるこの講義は、ヨーロッパ各言語系の専門教員と各言語系の演奏スペシャリストにより、原典を訳しながら文学的解釈を試みることを目的とする。併せて、詩人についての知識、その時代の文芸思潮や社会的な知識を深めることができる。採り上げる文学作品の詳細リストは初回に配付する。

#### ◆授業内容・計画◆

全28回の講義は以下のように構成される。

《前期》第1回オリエンテーション(花岡千春)、第2回ドイツ社会史と文芸思潮～ゲーテ周辺の時代に於ける(小川哲生)、第3回ゲーテ(末松淑美)、第4回ブレンターノ(末松淑美)、第5回シューベルトの詩人たち(末松淑美)、第6回イタリア文芸思潮～清新体派詩人の活躍、恋愛詩の起源や発達について(河原忠之)、第7回ダンテ『神曲』(河原忠之)、第8回ペトラルカ『カンツォニエーレ』(河原忠之)、第9回フランスルネッサンスの文芸思潮～P・ド・ロンサールを中心に(武内朋子)、第10回フランスロマン派の文芸思潮～ヴィクトル・ユーゴーを中心に(武内朋子)、第11回ユーゴー2(武内朋子)、第12回日本の文芸思潮～島崎藤村以降(花岡千春)、第13回北原白秋(花岡千春)、第14回萩原朔太郎(花岡千春)

《後期》第1回ドイツ社会史と文芸思潮～ハイネ、アイヒェンドルフらの周辺(小川哲生)、第2回ハイネの詩(末松)、第3回アイヒェンドルフの詩(末松)、第4回20世紀のドイツ詩(末松)、第5回イタリア文芸思潮～イタリア統一運動をはさんだ19～20世紀にかけての～代表的な韻文学作品を読む(河原)、第6回ダヌツィオ(河原)、第7回パスコリ、レオバルディ(河原)、第8回フランス象徴派の文芸思潮～ヴェルレーヌを中心に(武内)、第9回20世紀フランスの文芸思潮～アポリネールを中心に(武内)、第10回20世紀の詩人たち～コクトー、プレヴェール(武内)、第11回日本の文芸思潮～三好達治以降(花岡)、第12回西条八十、丸山薫、大手拓二、第13回大木惇夫、堀口大学など(花岡)第14回まとめと原典に当たる意味を考える

#### ◆準備学習の内容◆

それぞれの言語に習熟しているわけではない学生諸君が、面喰らうような難解なこともあるでしょうが、講師学生諸君の知識や言語能力を高めることを強く願っています。

各回ごとに、出来るだけ自分で予習し、臨んで下さい。

そして文学的な力をつけていけるように務めて下さい。

#### ◆課題◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席、授業態度を中心に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

その都度指示する。

#### ◆留意事項◆

歌曲作品を解釈するとき、その詩については、音楽作品との関わりの上で付随的に考察するに留まることが多い。この講義での文学的な側面からの解釈は、作曲家の個人的な解釈との微妙なずれを浮かび上がらせることもあり、むしろ音楽の中に埋もれがちな詩の内容についての考察を深めてくれるはずである。その作業の為の、文学的側面からの基本的な方法論を学ぼうという授業。自分の不得手な言語の領域についても、辞書を片手に挑戦してみることを。

※声楽専攻の学生の履修も特に推奨する。

ナンバリング			
科目名	ピアノ教育研究		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-27	開講学期	通年
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

器楽演奏(とりわけピアノ)の指導をする際に必要な知識を深め、より効果的な指導を行うためのノウハウを身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

前期はメンタルトレーニングおよびコーチングに関する内容に重点をおいた授業を展開する。得た知識を実践して自身の演奏にも役立てるとともに、指導者としての能力を高める助けとする。

後期の授業は「言葉で説明する」ことに重点をおいて展開する。イタリア語の楽語の用法を再確認し、それをより緻密な音楽表現のイメージ作りへつなげる作業や、「特定のイメージを相手にわかる言葉で表現する」練習を行う。

さらには前期、後期にわたって原典版と楽譜編集に関する情報を充実させ、教材として使用する楽譜の選定に役立つ知識を習得する。また、ピアノの構造に関する理解を深め、より効率のよい奏法や練習方法の開発に役立つポイントを研究する。授業内でフォルテピアノの試弾も行う。

#### ◆準備学習の内容◆

必要に応じて授業内で指示する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価およびレポート。出席状況も加味される。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で紹介する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ピアノ専攻、あるいは器楽専攻ではない者にとっても役立つ内容となっている。

ナンバリング			
科目名	ピアノ教育研究		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-27	開講学期	通年
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

器楽演奏(とりわけピアノ)の指導をする際に必要な知識を深め、より効果的な指導を行うためのノウハウを身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

前期はメンタルトレーニングおよびコーチングに関する内容に重点をおいた授業を展開する。得た知識を実践して自身の演奏にも役立てるとともに、指導者としての能力を高める助けとする。

後期の授業は「言葉で説明する」ことに重点をおいて展開する。イタリア語の楽語の用法を再確認し、それをより緻密な音楽表現のイメージ作りへつなげる作業や、「特定のイメージを相手にわかる言葉で表現する」練習を行う。

さらには前期、後期にわたって原典版と楽譜編集に関する情報を充実させ、教材として使用する楽譜の選定に役立つ知識を習得する。また、ピアノの構造に関する理解を深め、より効率のよい奏法や練習方法の開発に役立つポイントを研究する。授業内でフォルテピアノの試弾も行う。

#### ◆準備学習の内容◆

必要に応じて授業内で指示する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価およびレポート。出席状況も加味される。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で紹介する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ピアノ専攻、あるいは器楽専攻ではない者にとっても役立つ内容となっている。

ナンバリング			
科目名	音楽テクノロジー		
科目詳細			
担当教員	C. コックス		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-05	開講学期	通年
曜日・時限	金4	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- 電子音楽及びサウンド・アートに関する芸術的方法を考察する(To discuss different approaches to the composition of electroacoustic music and sound art).
- 電子音楽の分析方法を発展させる(To develop strategies for analyzing electroacoustic music.).
- サウンドアーティストや作曲家又は研究者として国際生活するために英語能力を養う(To furth

#### ◆授業内容・計画◆

##### 前期

- ① General Introduction and Overview
- ② Critical Engagement (Hugill)
- ③ The Art of Noises (Russolo)
- ④ The Liberation of Sound (Varese)
- ⑤ The Future of Music: Credo (Cage)
- ⑥ Three Listening Modes (Chion)
- ⑦ Acousmatics (Schaeffer)
- ⑧ Spectromorphology (Smalley)
- ⑨ Visual Sound-Shapes (Blackburn)
- ⑩ The Music of the Environment (Schafer)
- ⑪ Soundscape: Genres and Techniques (Truax)
- ⑫ Spatial Strategies (Harrison)
- ⑬ BEAST (Harrison)
- ⑭ Review

##### 後期

- ① Presentation of summer assignments
- ② Sculpting Sounds (Risset)
- ③ Digital Audio Effects (Risset)
- ④ OpenMusic (Hirs/Murail)
- ⑤ Determinacy and Indeterminacy (Xenakis)
- ⑥ Composing Intensities (LaBelle/Xenakis)
- ⑦ Minimalism (Gann)
- ⑧ Minimalist Treatments (LaBelle/Young)
- ⑨ Sonorous Bodies (Leblanc/Sachiko M)
- ⑩ Laptop Composition (Latartara/Merzbow)
- ⑪ Drone Music (Straebel/Niblock)
- ⑫ Language Games (LaBelle/Tone)
- ⑬ Presentations and Review

#### ◆準備学習の内容◆

毎週の課題としては、議題に関する英文を読み、又は当たってる作品を聞き、これに対して質問を考察することです。

Weekly assignments consist of reading a given text or listening to a given work and answering follow-up questions.

期末レポートとしては、学会論文のような短い発表と文書が含まれる。論文の話題として例は、作品の分析や制作に関する議論等の通りです。

Term papers will comprise of both a short oral presentation as well as a written paper, similar in structure to a conference paper. Examples of possible paper topics include an in-depth analysis of a single work, a comparative analysis of a group of works that share a common aesthetic, or a discussion of compositional techniques from an aesthetic standpoint.

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

50% 出席・参加(attendance and class participation);

20% 前期課題提出(spring semester assignments);

30% 後期末レポート(fall semester term paper)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『The Digital Musician』Hugill, Andrew (2008, Routledge)

『Audio Culture: Readings in Modern Music』Cox, Christoph and Daniel Warner (2005, Continuum)

#### ◆参考図書◆

雑誌: 『Organised Sound』

雑誌: 『Computer Music Journal』

雑誌: 『Leonardo Music Journal』

『The Tuning of the World/世界の調律 : サウンドスケープとはなにか』Schafer, R. Murray (1977, Knopf/2006, 平凡社)

『Background Noise: Perspectives on Sound Art』Labelle, Brandon (2007, Continuum)

『Understanding the Art of Sound Organization』Landy, Leigh (2007, MIT Press)

#### ◆留意事項◆

Primary language of instruction will be in English; required proficiency level will be adjusted to students' abilities.

ナンバリング			
科目名	音楽テクノロジー		
科目詳細			
担当教員	C. コックス		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-05	開講学期	通年
曜日・時限	金4	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- 電子音楽及びサウンド・アートに関する芸術的方法を考察する(To discuss different approaches to the composition of electroacoustic music and sound art).
- 電子音楽の分析方法を発展させる(To develop strategies for analyzing electroacoustic music.).
- サウンドアーティストや作曲家又は研究者として国際生活するために英語能力を養う(To furth

#### ◆授業内容・計画◆

##### 前期

- ① General Introduction and Overview
- ② Critical Engagement (Hugill)
- ③ The Art of Noises (Russolo)
- ④ The Liberation of Sound (Varese)
- ⑤ The Future of Music: Credo (Cage)
- ⑥ Three Listening Modes (Chion)
- ⑦ Acousmatics (Schaeffer)
- ⑧ Spectromorphology (Smalley)
- ⑨ Visual Sound-Shapes (Blackburn)
- ⑩ The Music of the Environment (Schafer)
- ⑪ Soundscape: Genres and Techniques (Truax)
- ⑫ Spatial Strategies (Harrison)
- ⑬ BEAST (Harrison)
- ⑭ Review

##### 後期

- ① Presentation of summer assignments
- ② Sculpting Sounds (Risset)
- ③ Digital Audio Effects (Risset)
- ④ OpenMusic (Hirs/Murail)
- ⑤ Determinacy and Indeterminacy (Xenakis)
- ⑥ Composing Intensities (LaBelle/Xenakis)
- ⑦ Minimalism (Gann)
- ⑧ Minimalist Treatments (LaBelle/Young)
- ⑨ Sonorous Bodies (Leblanc/Sachiko M)
- ⑩ Laptop Composition (Latartara/Merzbow)
- ⑪ Drone Music (Straebel/Niblock)
- ⑫ Language Games (LaBelle/Tone)
- ⑬ Presentations and Review

#### ◆準備学習の内容◆

毎週の課題としては、議題に関する英文を読み、又は当たってる作品を聞き、これに対して質問を考察することです。

Weekly assignments consist of reading a given text or listening to a given work and answering follow-up questions.

期末レポートとしては、学会論文のような短い発表と文書が含まれる。論文の話題として例は、作品の分析や制作に関する議論等の通りです。

Term papers will comprise of both a short oral presentation as well as a written paper, similar in structure to a conference paper. Examples of possible paper topics include an in-depth analysis of a single work, a comparative analysis of a group of works that share a common aesthetic, or a discussion of compositional techniques from an aesthetic standpoint.

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

50% 出席・参加(attendance and class participation);

20% 前期課題提出(spring semester assignments);

30% 後期末レポート(fall semester term paper)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『The Digital Musician』Hugill, Andrew (2008, Routledge)

『Audio Culture: Readings in Modern Music』Cox, Christoph and Daniel Warner (2005, Continuum)

#### ◆参考図書◆

雑誌: 『Organised Sound』

雑誌: 『Computer Music Journal』

雑誌: 『Leonardo Music Journal』

『The Tuning of the World/世界の調律 : サウンドスケープとはなにか』Schafer, R. Murray (1977, Knopf/2006, 平凡社)

『Background Noise: Perspectives on Sound Art』Labelle, Brandon (2007, Continuum)

『Understanding the Art of Sound Organization』Landy, Leigh (2007, MIT Press)

#### ◆留意事項◆

Primary language of instruction will be in English; required proficiency level will be adjusted to students' abilities.

ナンバリング			
科目名	スコア・リーディング		
科目詳細			
担当教員	T. マイヤー⇒F		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-32	開講学期	通年
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

今までに学部にて当科目を修めた学生はこれまでの学習内容を引き続き学習する。

今期総譜奏法を初めて履修する学生は、二声部の練習曲を基本として、多声部スコアの演奏を本格的に練習し、最終的にはオーケストラのスコアの読み・演奏が可能になることを目指す。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 2.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 3.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 4.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 5.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 6.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 7.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 8.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 9.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 10.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 11.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 12.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 13.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 14.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 15.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 16.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 17.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 18.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 19.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 20.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 21.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 22.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 23.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 24.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 25.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 26.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 27.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より

各時間ごとに学生の進捗に対応した教材を選択する。学部で当教科書を完全に終了している学生には、その都度プリントを配付する。

#### ◆準備学習の内容◆

各自、自分の進捗にあわせた課題を履修しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他随時課題を出す。

授業内で提供される課題の遂行状況および授業に対する意欲も参考とする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

Partiturspiel I / Heinrich Creuzburg著 Schott社

学部で当教科書を完全に終了している学生には、その都度プリントを配付する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	スコア・リーディング		
科目詳細			
担当教員	T. マイヤー⇒F		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-32	開講学期	通年
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

今までに学部にて当科目を修めた学生はこれまでの学習内容を引き続き学習する。

今期総譜奏法を初めて履修する学生は、二声部の練習曲を基本として、多声部スコアの演奏を本格的に練習し、最終的にはオーケストラのスコアの読み・演奏が可能になることを目指す。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 2.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 3.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 4.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 5.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 6.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 7.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 8.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 9.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 10.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 11.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 12.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 13.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 14.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 15.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 16.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 17.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 18.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 19.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 20.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 21.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 22.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 23.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 24.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 25.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 26.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より
- 27.Heinrich Creuzburg著Partiturspiel I より

各時間ごとに学生の進度に対応した教材を選択する。学部で当教科書を完全に終了している学生には、その都度プリントを配付する。

#### ◆準備学習の内容◆

各自、自分の進度にあわせた課題を履修しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他随時課題を出す。

授業内で提供される課題の遂行状況および授業に対する意欲も参考とする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

Partiturspiel I / Heinrich Creuzburg著 Schott社

学部で当教科書を完全に終了している学生には、その都度プリントを配付する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	フーガ実習		
科目詳細			
担当教員	市川 景之		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-302	開講学期	通年
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

4声体による「学習フーガ」を中心に対位法技法の粋であるフーガに書式に習熟する。

フーガ作品の分析(BACH, MOZART, BEETHOVEN 等)のほか、晩秋に行われる第30回フーガ演奏会での作品演奏をめざす。

履修する学生諸君のフーガ作曲の経験は様々であろうと推測します。以下の授業計画はフーガを初めて作曲してみようと志す学生向けのもです。学部までにフーガ作曲経験のある諸君はオルガンやクラヴサンのためのフーガを試作することも可。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) フーガの概要
- 2) 展開可能对位法①
- 3) 展開可能对位法②
- 4) 学習フーガの作成①
- 5) 学習フーガの作成②
- 6) 学習フーガの作成③
- 7) 学習フーガの作成④
- 8) 学習フーガの作成・半音階的①
- 9) 学習フーガの作成・半音階的②
- 10) 学習フーガの作成・半音階的③
- 11) 学習フーガの作成・半音階的④
- 12) 自作主題の作成の試み①
- 13) 自作主題の作成の試み②
- 14) 自作主題の作成の試み③
- 15) フーガ演奏会に向けた創作①(器楽演奏を想定)
- 16) フーガ演奏会に向けた創作②
- 17) フーガ演奏会に向けた創作③
- 18) フーガ演奏会に向けた創作④
- 19) 2重フーガの作成①
- 20) 2重フーガの作成②
- 21) 2重フーガの作成③
- 22) 2重フーガの作成④
- 23) 学習フーガの作成⑤
- 24) 学習フーガの作成⑥
- 25) 学習フーガの作成⑦
- 26) 学習フーガの作成⑧
- 27) まとめ
- 28) 試演会

#### ◆準備学習の内容◆

厳格対位法を各自復習しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点、提出作品および筆記試験

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

フーガの実習(島岡譲)国立音楽大学刊

#### ◆参考図書◆

BACHのフーガ諸作品。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	フーガ実習		
科目詳細			
担当教員	市川 景之		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-302	開講学期	通年
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

4声体による「学習フーガ」を中心に対位法技法の粋であるフーガに書式に習熟する。

フーガ作品の分析(BACH, MOZART, BEETHOVEN 等)のほか、  
晩秋に行われる第30回フーガ演奏会での作品演奏をめざす。

履修する学生諸君のフーガ作曲の経験は様々であろうと推測します。以下の授業計画はフーガを初めて作曲してみようと志す学生向けのも  
です。学部までにフーガ作曲経験のある諸君は  
オルガンやクラヴサンのためのフーガを試作することも可。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) フーガの概要
- 2) 展開可能对位法①
- 3) 展開可能对位法②
- 4) 学習フーガの作成①
- 5) 学習フーガの作成②
- 6) 学習フーガの作成③
- 7) 学習フーガの作成④
- 8) 学習フーガの作成・半音階的①
- 9) 学習フーガの作成・半音階的②
- 10) 学習フーガの作成・半音階的③
- 11) 学習フーガの作成・半音階的④
- 12) 自作主題の作成の試み①
- 13) 自作主題の作成の試み②
- 14) 自作主題の作成の試み③
- 15) フーガ演奏会に向けた創作①(器楽演奏を想定)
- 16) フーガ演奏会に向けた創作②
- 17) フーガ演奏会に向けた創作③
- 18) フーガ演奏会に向けた創作④
- 19) 2重フーガの作成①
- 20) 2重フーガの作成②
- 21) 2重フーガの作成③
- 22) 2重フーガの作成④
- 23) 学習フーガの作成⑤
- 24) 学習フーガの作成⑥
- 25) 学習フーガの作成⑦
- 26) 学習フーガの作成⑧
- 27) まとめ
- 28) 試演会

#### ◆準備学習の内容◆

厳格対位法を各自復習しておくこと。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点、提出作品および筆記試験

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

フーガの実習(島岡譲)国立音楽大学刊

#### ◆参考図書◆

BACHのフーガ諸作品。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	和声実習		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-306	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

高度な和声書法の熟達と様式和声に精通することを目指す。フランス和声法の習得及び自作の和声課題集を創作できるまでに精通することを目標にする。

◆授業内容・計画◆

担当者講師の自作の課題、及びフランス和声のテキストの課題の実習、及び作曲家の和声様式の研究。和声課題集の創作。

前期

1～5回 フランスの和声課題の実習

6～11回 講師の自作課題の実習

11～13回 作曲家の様式研究

14回 まとめ

後期

1～5回 フランスの和声課題の実習

6～8回 近代フランス和声の様式研究

9～13回 自作和声課題の創作

14回 まとめ

◆準備学習の内容◆

これまでの学習の復習。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点及び期末試験により総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	和声実習		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-306	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

高度な和声書法の熟達と様式和声に精通することを目指す。フランス和声法の習得及び自作の和声課題集を創作できるまでに精通することを目標にする。

◆授業内容・計画◆

担当者講師の自作の課題、及びフランス和声のテキストの課題の実習、及び作曲家の和声様式の研究。和声課題集の創作。

前期

1～5回 フランスの和声課題の実習

6～11回 講師の自作課題の実習

11～13回 作曲家の様式研究

14回 まとめ

後期

1～5回 フランスの和声課題の実習

6～8回 近代フランス和声の様式研究

9～13回 自作和声課題の創作

14回 まとめ

◆準備学習の内容◆

これまでの学習の復習。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点及び期末試験により総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	古典対位法		
科目詳細			
担当教員	岩河 智子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-31	開講学期	通年
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- 1) 16世紀ルネサンスの作曲家パレストリーナを範とし、線的対位法を実習する。
- 2) 和声を基盤とするバッハの対位法とは異なり、パレストリーナは純粋に旋律どうしの美しい絡み合いを追求した。この対位法を実習することで「線」に対する感覚を養いたい。
- 3) 長調短調が確立される前の教会旋法によるこの対位法は、機能と声からの脱却を試みた近代の作曲家の音楽語法を理解するのにも役立つ事と思う。
- 4) パレストリーナのミサ曲に代表されるように、線的対位法は声楽曲として発展した。そのため「うた」の要素を忘れてはならない。歌いながら作曲して欲しい。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) 2声の線的対位法を実習する。与えられた定旋律に対旋律を作曲する。
- 2) 全音符から始まり、2分音符、4分音符、移勢(シンコペーション)と様々なリズムで対旋律を書いてゆく。
- 3) それらを総合して作曲する混合対位法では、美しく変化に富んだ流れるような旋律が生まれるだろう。
- 4) さらに、ラテン語の歌詞に旋律を付ける自由対位法へとすすむ。
- 5) これらの実習はまったく各人のペースで行ってゆく。それぞれじっくり取り組んで欲しい。
- 6) 「うた」をもとにした対位法なので、しばしば実施した課題を合唱する。
- 7) 2声が終了した者は、さらに3声、4声とすすんでゆく。
- 8) この対位法は作曲専攻の学生のみならず、演奏専攻の学生にもぜひ履修してほしいものである。なぜなら、旋律をうたい奏するための「線」に対する感覚を鍛えることができるからである。対位法を勉強すると、楽譜の見方が変わってくると思う。演奏や音楽指導にぜひ対位法で学んだ感覚を活かしてほしい。

#### ◆準備学習の内容◆

- 1) 授業で解説した対位法を、実際に自分で実習することが大事です。自分のペースで課題を実習して来てください。
- 2) 授業で取り上げた例題や、お手本となる課題をピアノで弾いて、美しさを確かめてください。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

試験は特に行わない。毎時間、課題の実施を添削することで、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「ルネッサンス対位法」増田宏三著、国立音楽大学出版(絶版につき、コピーを配付する)

#### ◆参考図書◆

「イエッペセン対位法」クヌート・イエッペセン著、音楽之友社

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	古典対位法		
科目詳細			
担当教員	岩河 智子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-31	開講学期	通年
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- 1) 16世紀ルネサンスの作曲家パレストリーナを範とし、線的対位法を実習する。
- 2) 和声を基盤とするバッハの対位法とは異なり、パレストリーナは純粋に旋律どうしの美しい絡み合いを追求した。この対位法を実習することで「線」に対する感覚を養いたい。
- 3) 長調短調が確立される前の教会旋法によるこの対位法は、機能と声からの脱却を試みた近代の作曲家の音楽語法を理解するのにも役立つ事と思う。
- 4) パレストリーナのミサ曲に代表されるように、線的対位法は声楽曲として発展した。そのため「うた」の要素を忘れてはならない。歌いながら作曲して欲しい。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) 2声の線的対位法を実習する。与えられた定旋律に対旋律を作曲する。
- 2) 全音符から始まり、2分音符、4分音符、移勢(シンコペーション)と様々なリズムで対旋律を書いてゆく。
- 3) それらを総合して作曲する混合対位法では、美しく変化に富んだ流れるような旋律が生まれるだろう。
- 4) さらに、ラテン語の歌詞に旋律を付ける自由対位法へとすすむ。
- 5) これらの実習はまったく各人のペースで行ってゆく。それぞれじっくり取り組んで欲しい。
- 6) 「うた」をもとにした対位法なので、しばしば実施した課題を合唱する。
- 7) 2声が終了した者は、さらに3声、4声とすすんでゆく。
- 8) この対位法は作曲専攻の学生のみならず、演奏専攻の学生にもぜひ履修してほしいものである。なぜなら、旋律をうたい奏するための「線」に対する感覚を鍛えることができるからである。対位法を勉強すると、楽譜の見方が変わってくると思う。演奏や音楽指導にぜひ対位法で学んだ感覚を活かしてほしい。

#### ◆準備学習の内容◆

- 1) 授業で解説した対位法を、実際に自分で実習することが大事です。自分のペースで課題を実習して来てください。
- 2) 授業で取り上げた例題や、お手本となる課題をピアノで弾いて、美しさを確かめてください。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

試験は特に行わない。毎時間、課題の実施を添削することで、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「ルネッサンス対位法」増田宏三著、国立音楽大学出版(絶版につき、コピーを配付する)

#### ◆参考図書◆

「イエッペセン対位法」クヌート・イエッペセン著、音楽之友社

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	原典講読(作曲)		
科目詳細			
担当教員	白石 美雪		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-302	開講学期	通年
曜日・時限	水4	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

英語で書かれた音楽書の一部、論文等を輪読する。20世紀音楽に関する著作を中心とする教材で、1年間に異なったタイプの複数の文章を解説して、履修以前より少しでも速く正確に翻訳できる力をつける。

◆授業内容・計画◆

進度は履修者の英語力次第だが、必ず毎回、文章を分担する。

第1週 履修者の英語の読解力の確認、教材選び

第2週～第14週 輪読

第15週 前期のまとめ

第16週 英語力確認テスト、教材選び

第17週～第29週 輪読

第30週 後期のまとめ

◆準備学習の内容◆

輪読する本や論文を毎回、分担し、事前に辞書を引きながら読解してくる。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業内での輪読によって評価する。出席も重視する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業でコピーを配付する。

◆参考図書◆

とくになし。

◆留意事項◆

毎回、必ず分担して英文を読むので、予習の時間が必要である。



ナンバリング			
科目名	原典講読(作曲)		
科目詳細			
担当教員	白石 美雪		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-302	開講学期	通年
曜日・時限	水4	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

英語で書かれた音楽書の一部、論文等を輪読する。20世紀音楽に関する著作を中心とする教材で、1年間に異なったタイプの複数の文章を解説して、履修以前より少しでも速く正確に翻訳できる力をつける。

◆授業内容・計画◆

進度は履修者の英語力次第だが、必ず毎回、文章を分担する。

第1週 履修者の英語の読解力の確認、教材選び

第2週～第14週 輪読

第15週 前期のまとめ

第16週 英語力確認テスト、教材選び

第17週～第29週 輪読

第30週 後期のまとめ

◆準備学習の内容◆

輪読する本や論文を毎回、分担し、事前に辞書を引きながら読解してくる。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業内での輪読によって評価する。出席も重視する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業でコピーを配付する。

◆参考図書◆

とくになし。

◆留意事項◆

毎回、必ず分担して英文を読むので、予習の時間が必要である。

ナンバリング			
科目名	楽曲分析		
科目詳細			
担当教員	斉木 由美		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-12, N-304	開講学期	通年
曜日・時限	木5	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

西洋音楽史の上で重要な作品を取り上げ、時間をかけて研究し、作曲家の創意や語法、更にはその作曲家の人間像や音楽観なども探っていきたい。楽曲分析によって作品理解を深めることを前提に、履修生の創作・演奏・研究などにもよい気づきと影響をもたらす時間としたい。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・履修生は、年に数回、個々に関心を持つ楽曲を分析し発表を行い、それに基づいて皆で更に研究を深め論じ合う。
- ・主に以下に示す種類の作品の他にも履修生の状況を鑑みて取り扱う曲を決め、授業内で分析した後その楽曲の真価を考察する。

印象派の作品  
 表現主義の作品  
 近代ヨーロッパの作品  
 非ヨーロッパの作品  
 現代の音楽作品  
 邦人の音楽作品  
 他

#### ◆準備学習の内容◆

大学院という高い専門性が求められるステージにおいて、各々が日頃から自らの音楽の関心事を整理し、楽曲を用意、研究しておく姿勢が望ましい。授業には自主的、積極的な参加意欲が求められる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席、平常点、課題の遂行状況

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	楽曲分析		
科目詳細			
担当教員	斉木 由美		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-12, N-304	開講学期	通年
曜日・時限	木5	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

西洋音楽史の上で重要な作品を取り上げ、時間をかけて研究し、作曲家の創意や語法、更にはその作曲家の人間像や音楽観なども探っていきたい。楽曲分析によって作品理解を深めることを前提に、履修生の創作・演奏・研究などにもよい気づきと影響をもたらす時間としたい。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・履修生は、年に数回、個々に関心を持つ楽曲を分析し発表を行い、それに基づいて皆で更に研究を深め論じ合う。
- ・主に以下に示す種類の作品の他にも履修生の状況を鑑みて取り扱う曲を決め、授業内で分析した後その楽曲の真価を考察する。

印象派の作品  
 表現主義の作品  
 近代ヨーロッパの作品  
 非ヨーロッパの作品  
 現代の音楽作品  
 邦人の音楽作品  
 他

#### ◆準備学習の内容◆

大学院という高い専門性が求められるステージにおいて、各々が日頃から自らの音楽の関心事を整理し、楽曲を用意、研究しておく姿勢が望ましい。授業には自主的、積極的な参加意欲が求められる。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

出席、平常点、課題の遂行状況

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	作曲特殊研究		
科目詳細			
担当教員	藤井 喬梓		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	通年
曜日・時限	火4	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1)音楽がそもそも人間にとってどのような本質を持っているかを考察する。
- (2)上記の考察から、自らの創作や音楽との関わりにおける美学的な立脚点を明確化する。
- (3)そのような意識化の作業を通じて、創作、教育活動における根本的な動因と意欲を得る。

#### ◆授業内容・計画◆

日本では教育の分野でよく知られている、オーストリアの思想家Rudolf Steinerは、Anthroposophieと称する総合的な思想体系の提唱者であり、ヨーロッパを中心に教育、芸術、医学、農業、建築、政治などの広範な領域で深い影響を及ぼしてきた。前期の講義では特に、その音楽に関する発言を題材に、後期は前期の内容を踏まえて受講者の志向に応じて、自由にテキストを選んで授業を勧める。いずれも種々の音源、映像等も利用しながら、ゼミ形式の自由な論議を通して行う。

##### 前期

- (1)(2)テキスト13-20ページとそれを題材にした討論
- (3)(4)テキスト21-26ページとそれを題材にした討論
- (5)(6)テキスト7-12ページとそれを題材にした討論
- (7)(8)テキスト41-59ページとそれを題材にした討論
- (9)(10)テキスト119-130ページとそれを題材にした討論
- (11)(12)テキスト130-139ページとそれを題材にした討論
- (13)(14)まとめと評価

##### 後期

- (1)(2)前期授業内で選択したテキスト輪読とそれによる討論
- (3)(4)同上
- (5)(6)同上
- (7)(8)同上
- (9)(10)同上
- (11)(12)同上
- (13)まとめと評価

#### ◆準備学習の内容◆

テキストの指定された箇所を読んでくること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発言。  
学期末に課すレポート。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『音楽の本質と人間の音体験』ドルフ・シュタイナー 著、西川隆範 訳（イザラ書房1993年刊）

後期については別途、授業内でテキストを指定する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

『音楽の本質と人間の音体験』を入手し、持参すること。

ナンバリング			
科目名	作曲特殊研究		
科目詳細			
担当教員	藤井 喬梓		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	通年
曜日・時限	火4	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1)音楽がそもそも人間にとってどのような本質を持っているかを考察する。
- (2)上記の考察から、自らの創作や音楽との関わりにおける美学的な立脚点を明確化する。
- (3)そのような意識化の作業を通じて、創作、教育活動における根本的な動因と意欲を得る。

#### ◆授業内容・計画◆

日本では教育の分野でよく知られている、オーストリアの思想家Rudolf Steinerは、Anthroposophieと称する総合的な思想体系の提唱者であり、ヨーロッパを中心に教育、芸術、医学、農業、建築、政治などの広範な領域で深い影響を及ぼしてきた。前期の講義では特に、その音楽に関する発言を題材に、後期は前期の内容を踏まえて受講者の志向に応じて、自由にテキストを選んで授業を勧める。いずれも種々の音源、映像等も利用しながら、ゼミ形式の自由な論議を通して行う。

##### 前期

- (1)(2)テキスト13-20ページとそれを題材にした討論
- (3)(4)テキスト21-26ページとそれを題材にした討論
- (5)(6)テキスト7-12ページとそれを題材にした討論
- (7)(8)テキスト41-59ページとそれを題材にした討論
- (9)(10)テキスト119-130ページとそれを題材にした討論
- (11)(12)テキスト130-139ページとそれを題材にした討論
- (13)(14)まとめと評価

##### 後期

- (1)(2)前期授業内で選択したテキスト輪読とそれによる討論
- (3)(4)同上
- (5)(6)同上
- (7)(8)同上
- (9)(10)同上
- (11)(12)同上
- (13)まとめと評価

#### ◆準備学習の内容◆

テキストの指定された箇所を読んでくること。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発言。  
学期末に課すレポート。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『音楽の本質と人間の音体験』ドルフ・シュタイナー 著、西川隆範 訳（イザラ書房1993年刊）

後期については別途、授業内でテキストを指定する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

『音楽の本質と人間の音体験』を入手し、持参すること。

ナンバリング			
科目名	民族音楽学研究		
科目詳細			
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	月2	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代社会では伝統的な音楽や芸能がかつてと同じ脈絡の中で以前と同じ意識をもって取り組まれることが難しくなった。どんな音楽や芸能にも多かれ少なかれ手が入り、改編されたり、異なる脈絡や場で提供されることが日常的になっている。この授業ではそうした音楽や伝統を、正統的なものと区別して扱うというよりも、どのような力学の中で、どのような立場の人たちがそれらと向き合い、どう生かしているのかと考えて取り組んでいるのか、改めて捉え直そうとする。

#### ◆授業内容・計画◆

##### 【前期】

現代社会の中で実践されている多様な音楽や芸能から、このテーマにふさわしいいくつかの対象を選び、ケーススタディを行う。可能であれば、実際にこうした音楽や芸能の当事者からの証言をきき、現場の意識を知る機会ももちたい。

##### 【後期】

前期のケーススタディに基づきながら、授業参加者がそれぞれ個別の事例を研究する。

#### ◆準備学習の内容◆

授業で扱う対象についての事前・事後調査に十分な時間を費やすことは言うまでもないが、身の回りで行われているさまざまな音楽や芸能に改めて注目することで問題点を見出すことが可能となる。また、自分の住む地域に改めて目を向け、地域作りに音楽や芸能がどのように生かされているのかも調べてほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点(授業への参加度を勘案する)と授業中の発表、および発表に基づくレポートで評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

最初の授業時に文献一覧を配付し、講師が解題を行う。

#### ◆留意事項◆

授業への積極的な参加を望む。言うまでもないが、遅刻せず、コンスタントな出席を心がけること。

ナンバリング			
科目名	民族音楽学研究		
科目詳細			
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	月2	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代社会では伝統的な音楽や芸能がかつてと同じ脈絡の中で以前と同じ意識をもって取り組まれることが難しくなった。どんな音楽や芸能にも多かれ少なかれ手が入り、改編されたり、異なる脈絡や場で提供されることが日常的になっている。この授業ではそうした音楽や伝統を、正統的なものと区別して扱うというよりも、どのような力学の中で、どのような立場の人たちがそれらと向き合い、どう生かしているのかと考えて取り組んでいるのか、改めて捉え直そうとする。

#### ◆授業内容・計画◆

##### 【前期】

現代社会の中で実践されている多様な音楽や芸能から、このテーマにふさわしいいくつかの対象を選び、ケーススタディを行う。可能であれば、実際にこうした音楽や芸能の当事者からの証言をきき、現場の意識を知る機会ももちたい。

##### 【後期】

前期のケーススタディに基づきながら、授業参加者がそれぞれ個別の事例を研究する。

#### ◆準備学習の内容◆

授業で扱う対象についての事前・事後調査に十分な時間を費やすことは言うまでもないが、身の回りで行われているさまざまな音楽や芸能に改めて注目することで問題点を見出すことが可能となる。また、自分の住む地域に改めて目を向け、地域作りに音楽や芸能がどのように生かされているのかも調べてほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点(授業への参加度を勘案する)と授業中の発表、および発表に基づくレポートで評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

最初の授業時に文献一覧を配付し、講師が解題を行う。

#### ◆留意事項◆

授業への積極的な参加を望む。言うまでもないが、遅刻せず、コンスタントな出席を心がけること。

ナンバリング			
科目名	西洋音楽史研究		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	通年
曜日・時限	木2	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

- ①バッハの音楽の文化的・社会的背景を理解する。
- ②バッハの音楽の特徴を理解する。
- ③バッハの音楽を分析して、文章にすることができる。

◆授業内容・計画◆

前期)

1. バッハの生涯
2. バッハの時代
3. バッハの社会
4. クラヴィーア曲(インヴェンション)
5. クラヴィーア曲(《平均律クラヴィーア曲集》)
6. クラヴィーア曲(組曲)
7. オルガン曲(コラール変奏など)
8. オルガン曲(ソナタなど)
9. 協奏曲(《ブランデンブルク協奏曲》)
10. 協奏曲(その他の協奏曲)
11. 室内楽(ヴァイオン)
12. 室内楽(フルートなど)
13. その他の器楽
14. まとめ

(後期)

1. バッハの教会音楽
2. バッハの教会音楽の歌詞と思想
3. 教会カンタータ(初期カンタータ)
4. 教会カンタータ(ライプツィヒ時代1)
5. 教会カンタータ(ライプツィヒ時代2)
6. モテット
7. 《マタイ受難曲》
8. 《ヨハネ受難曲》
9. 世俗カンタータ
10. 《口短調ミサ》
11. 特殊作品(《音楽の捧げもの》)
12. 特殊作品(《フーガの技法》)
13. バッハ受容史(出版と研究)
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、発表するので、その資料を準備すること。  
2時間ほど要する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表の内容

◆教科書(使用テキスト)◆

久保田慶一(編著):バッハ キーワード事典(春秋社)  
初回の授業で入手方法を教える。

◆参考図書◆

適時指示する。

◆留意事項◆

特になし



ナンバリング			
科目名	西洋音楽史研究		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	通年
曜日・時限	木2	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

- ①バッハの音楽の文化的・社会的背景を理解する。
- ②バッハの音楽の特徴を理解する。
- ③バッハの音楽を分析して、文章にすることができる。

◆授業内容・計画◆

前期)

1. バッハの生涯
2. バッハの時代
3. バッハの社会
4. クラヴィーア曲(インヴェンション)
5. クラヴィーア曲(《平均律クラヴィーア曲集》)
6. クラヴィーア曲(組曲)
7. オルガン曲(コラール変奏など)
8. オルガン曲(ソナタなど)
9. 協奏曲(《ブランデンブルク協奏曲》)
10. 協奏曲(その他の協奏曲)
11. 室内楽(ヴァイオン)
12. 室内楽(フルートなど)
13. その他の器楽
14. まとめ

(後期)

1. バッハの教会音楽
2. バッハの教会音楽の歌詞と思想
3. 教会カンタータ(初期カンタータ)
4. 教会カンタータ(ライプツィヒ時代1)
5. 教会カンタータ(ライプツィヒ時代2)
6. モテット
7. 《マタイ受難曲》
8. 《ヨハネ受難曲》
9. 世俗カンタータ
10. 《口短調ミサ》
11. 特殊作品(《音楽の捧げもの》)
12. 特殊作品(《フーガの技法》)
13. バッハ受容史(出版と研究)
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、発表するので、その資料を準備すること。  
2時間ほど要する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表の内容

◆教科書(使用テキスト)◆

久保田慶一(編著):バッハ キーワード事典(春秋社)  
初回の授業で入手方法を教える。

◆参考図書◆

適時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	日本音楽史研究		
科目詳細			
担当教員	塚原 康子		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	水2	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

近代日本の音楽文化の多様性と、個々の音楽ジャンルの特質・役割を理解する。

◆授業内容・計画◆

明治期以降の日本で鳴り響いたさまざまな音楽を、その背景にある時代思潮や音楽行動とからめて検証する。  
平成26年度は幕末明治期における西洋音楽の受容と、伝統音楽系の新ジャンル形成と新様式生成の問題を中心に扱う。

〈前期〉

1)オリエンテーション、近年の研究動向

2～3)江戸後期の西洋音楽知識

4～5)明治初期の音楽用語(1)

6～7)幕末の軍楽(鼓笛・喇叭)

8～9)明治期の軍楽隊

10～12)明治期の外国人教師

13～14)明治期の音楽留学

〈後期〉

1)明治期の新ジャンル・新様式概説

2～6)伝統音楽の新ジャンル形成

7～10)伝統音楽の新様式生成

11～14)発表(人数により調整する)

◆準備学習の内容◆

近代日本の音楽文化研究に関する近年の研究成果にできるだけ幅広く目を通しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点(発表とレポートをふくむ)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし(その都度指示する)

◆参考図書◆

なし(その都度指示する)

◆留意事項◆

主体的な授業参加を心がけること。

ナンバリング			
科目名	日本音楽史研究		
科目詳細			
担当教員	塚原 康子		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	水2	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

近代日本の音楽文化の多様性と、個々の音楽ジャンルの特質・役割を理解する。

◆授業内容・計画◆

明治期以降の日本で鳴り響いたさまざまな音楽を、その背景にある時代思潮や音楽行動とからめて検証する。  
平成26年度は幕末明治期における西洋音楽の受容と、伝統音楽系の新ジャンル形成と新様式生成の問題を中心に扱う。

〈前期〉

1)オリエンテーション、近年の研究動向

2～3)江戸後期の西洋音楽知識

4～5)明治初期の音楽用語(1)

6～7)幕末の軍楽(鼓笛・喇叭)

8～9)明治期の軍楽隊

10～12)明治期の外国人教師

13～14)明治期の音楽留学

〈後期〉

1)明治期の新ジャンル・新様式概説

2～6)伝統音楽の新ジャンル形成

7～10)伝統音楽の新様式生成

11～14)発表(人数により調整する)

◆準備学習の内容◆

近代日本の音楽文化研究に関する近年の研究成果にできるだけ幅広く目を通しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点(発表とレポートをふくむ)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし(その都度指示する)

◆参考図書◆

なし(その都度指示する)

◆留意事項◆

主体的な授業参加を心がけること。

ナンバリング			
科目名	音楽教育内容論		
科目詳細			
担当教員	塩原 麻里		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	通年
曜日・時限	火4	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1) 音楽教育における主要な教育メソッドの理論や方法論について理解する。
- (2) 創造性の育成という観点から音楽教育の意義を理解する。
- (3) 音楽と動き、という視点から音楽経験と音楽教育について理解する。
- (4) 文化の多様性を重視する音楽教育に関する理解を深める。
- (5) 音楽科教育における日本の伝統音楽の教授に関する課題を理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期

1. ダルクローズ・リトミック
2. オルフ・シュールヴェルク
3. コダーイ・メソッド
4. スズキ・メソッド
5. その他のメソッドについて
6. 音楽教育メソッドの比較検討
7. 音楽教育メソッドに関する討議
8. 創造的音楽学習の理論とその背景
9. 創造性を育成する音楽教育
10. サウンド・スケープ
11. 日本における音楽教育メソッド
13. レポート課題の設定
14. まとめ

後期

1. レポートの発表とディスカッション
2. 音楽と動き(1): 心理学的考察
3. 音楽と動き(2): 演奏と関連させて
4. 音楽と動き(3): 舞踊との関連から
5. 身体を通じた音楽理解
6. 多文化、異文化教育、自国文化
7. 音楽教育における多様性: イギリス
8. 日本伝統音楽と音楽科教育
9. 日本伝統音楽の指導に関する諸課題
10. レポート課題の設定
11. 資料収集に関する情報交換
12. レポート課題の確定
13. レポート課題に関する質疑応答
14. レポートの発表とディスカッション
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の討議に積極的に参加できるように、配布された資料や提示された図書はしっかりと読み込み、自ら根拠をもって批評できるようにしておく。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

レポート、その他随時課題を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時提示し、プリント資料等を配布する。授業内で適時提示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で随時紹介する。

#### ◆留意事項◆

英語の文献にも触れるので、辞書を持参すること。

ナンバリング			
科目名	音楽教育内容論		
科目詳細			
担当教員	塩原 麻里		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	通年
曜日・時限	火4	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1) 音楽教育における主要な教育メソッドの理論や方法論について理解する。
- (2) 創造性の育成という観点から音楽教育の意義を理解する。
- (3) 音楽と動き、という視点から音楽経験と音楽教育について理解する。
- (4) 文化の多様性を重視する音楽教育に関する理解を深める。
- (5) 音楽科教育における日本の伝統音楽の教授に関する課題を理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

前期

1. ダルクローズ・リトミック
2. オルフ・シュールヴェルク
3. コダーイ・メソッド
4. スズキ・メソッド
5. その他のメソッドについて
6. 音楽教育メソッドの比較検討
7. 音楽教育メソッドに関する討議
8. 創造的音楽学習の理論とその背景
9. 創造性を育成する音楽教育
10. サウンド・スケープ
11. 日本における音楽教育メソッド
13. レポート課題の設定
14. まとめ

後期

1. レポートの発表とディスカッション
2. 音楽と動き(1): 心理学的考察
3. 音楽と動き(2): 演奏と関連させて
4. 音楽と動き(3): 舞踊との関連から
5. 身体を通じた音楽理解
6. 多文化、異文化教育、自国文化
7. 音楽教育における多様性: イギリス
8. 日本伝統音楽と音楽科教育
9. 日本伝統音楽の指導に関する諸課題
10. レポート課題の設定
11. 資料収集に関する情報交換
12. レポート課題の確定
13. レポート課題に関する質疑応答
14. レポートの発表とディスカッション
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の討議に積極的に参加できるように、配布された資料や提示された図書はしっかりと読み込み、自ら根拠をもって批評できるようにしておく。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

レポート、その他随時課題を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時提示し、プリント資料等を配布する。授業内で適時提示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で随時紹介する。

#### ◆留意事項◆

英語の文献にも触れるので、辞書を持参すること。

ナンバリング			
科目名	音楽教育方法論		
科目詳細			
担当教員	江崎 公子		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

専門性と広い視野による豊かな総合性を目指す。そのための基礎となる方法論を探る。学校教育や社会教育のなかで行われた音楽教育の実際の記録を、どのように検索し掘り起こし読み解くかについて、具体的な事例と分析を交えながら考察する。各種データベースの扱い方を知る。

◆授業内容・計画◆

前期は昭和期の音楽教育の歴史について概説する。(14回)

後期は受講者の研究テーマを視野にいれ、音楽教育の実態について、資料検索と検証を行う。(14回)

◆準備学習の内容◆

配布資料を整理し、熟読の上で問題点を明確にして授業に臨むこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート提出による。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

授業内指示。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	音楽教育方法論		
科目詳細			
担当教員	江崎 公子		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	通年
曜日・時限	月3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

専門性と広い視野による豊かな総合性を目指す。そのための基礎となる方法論を探る。学校教育や社会教育のなかで行われた音楽教育の実際の記録を、どのように検索し掘り起こし読み解くかについて、具体的な事例と分析を交えながら考察する。各種データベースの扱い方を知る。

◆授業内容・計画◆

前期は昭和期の音楽教育の歴史について概説する。(14回)

後期は受講者の研究テーマを視野にいれ、音楽教育の実態について、資料検索と検証を行う。(14回)

◆準備学習の内容◆

配布資料を整理し、熟読の上で問題点を明確にして授業に臨むこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート提出による。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

授業内指示。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	音楽教育学特殊講義		
科目詳細			
担当教員	塩原 麻里		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	通年
曜日・時限	水2	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1) イギリスの音楽教育の歴史的・文化的背景を理解する。
- (2) イギリスの音楽教育の思想・理念・方法について理解する。
- (3) ナショナル・カリキュラム(音楽)の学習内容、到達目標、評価法などを理解する。
- (4) イギリスの主要な音楽教育者の教育論を理解する。
- (5) 日本とイギリスの音楽教育の比較を通して、音楽教育の基礎・基本や在り方について、自分なりの考えを持つことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期

1. オリエンテーション: 授業の内容説明とスケジュールの確認
2. イギリスの文化と音楽
3. イギリスの教育システムと音楽
4. イギリスの教育機関
5. イギリスの音楽教育の特徴
6. イギリスの音楽家と音楽教育者
7. ナショナル・カリキュラム導入以前の音楽教育
8. ナショナル・カリキュラム導入以後の音楽教育
9. ナショナル・カリキュラム(音楽)の概要
10. ナショナル・カリキュラム(音楽)の学習内容と到達目標
11. ナショナル・カリキュラムにおける作曲の重視
12. 学習指導要領・音楽との比較(1): 目標について
13. 学習指導要領・音楽との比較(2): 学習内容と評価
14. レポート課題の設定
15. まとめ

後期

1. レポートの発表とディスカッション
2. イギリスの音楽教科書の検討
3. 模擬授業(1): 教科書からの内容の選択と翻訳
4. 模擬授業(2): 準備
5. 模擬授業(3): 模擬授業とディスカッション
6. ジョン・ペインターの音楽教育論
7. 創造的音楽学習の体験とディスカッション
8. ケース・スワニックの音楽教育論
9. 多様性と音楽教育
10. 多文化音楽教育
11. 音楽教育のグローバル化と未来
12. レポート課題の設定
13. レポート課題に関する質疑応答
14. レポートの発表とディスカッション
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の討議に積極的に参加できるように、配布された資料や提示された図書はしっかりと読み込み、自ら根拠を持って批評できるようにしておく。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

レポート、その他随時課題を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時提示し、プリント資料等を配布する。

#### ◆参考図書◆

授業内で随時紹介する。

#### ◆留意事項◆

英語の文献にも触れるので、辞書を持参すること。



ナンバリング			
科目名	音楽教育学特殊講義		
科目詳細			
担当教員	塩原 麻里		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	通年
曜日・時限	水2	単位数	4単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1) イギリスの音楽教育の歴史的・文化的背景を理解する。
- (2) イギリスの音楽教育の思想・理念・方法について理解する。
- (3) ナショナル・カリキュラム(音楽)の学習内容、到達目標、評価法などを理解する。
- (4) イギリスの主要な音楽教育者の教育論を理解する。
- (5) 日本とイギリスの音楽教育の比較を通して、音楽教育の基礎・基本や在り方について、自分なりの考えを持つことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期

1. オリエンテーション: 授業の内容説明とスケジュールの確認
2. イギリスの文化と音楽
3. イギリスの教育システムと音楽
4. イギリスの教育機関
5. イギリスの音楽教育の特徴
6. イギリスの音楽家と音楽教育者
7. ナショナル・カリキュラム導入以前の音楽教育
8. ナショナル・カリキュラム導入以後の音楽教育
9. ナショナル・カリキュラム(音楽)の概要
10. ナショナル・カリキュラム(音楽)の学習内容と到達目標
11. ナショナル・カリキュラムにおける作曲の重視
12. 学習指導要領・音楽との比較(1): 目標について
13. 学習指導要領・音楽との比較(2): 学習内容と評価
14. レポート課題の設定
15. まとめ

後期

1. レポートの発表とディスカッション
2. イギリスの音楽教科書の検討
3. 模擬授業(1): 教科書からの内容の選択と翻訳
4. 模擬授業(2): 準備
5. 模擬授業(3): 模擬授業とディスカッション
6. ジョン・ペインターの音楽教育論
7. 創造的音楽学習の体験とディスカッション
8. ケース・スワニックの音楽教育論
9. 多様性と音楽教育
10. 多文化音楽教育
11. 音楽教育のグローバル化と未来
12. レポート課題の設定
13. レポート課題に関する質疑応答
14. レポートの発表とディスカッション
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の討議に積極的に参加できるように、配布された資料や提示された図書はしっかりと読み込み、自ら根拠を持って批評できるようにしておく。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

レポート、その他随時課題を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時提示し、プリント資料等を配布する。

#### ◆参考図書◆

授業内で随時紹介する。

#### ◆留意事項◆

英語の文献にも触れるので、辞書を持参すること。

ナンバリング			
科目名	研究指導		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	時間外	単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

博士論文作成のための指導。研究領域によっては、博士学位審査のための研究演奏の指導または研究作品制作の指導を含む。

◆準備学習の内容◆

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	研究指導		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	時間外	単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

博士論文作成のための指導。研究領域によっては、博士学位審査のための研究演奏の指導または研究作品制作の指導を含む。

◆準備学習の内容◆

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	特別総合演習		
科目詳細			
担当教員	友利 修, 横井 雅子, 吉成 順, 沼口 隆, 久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-309	開講学期	通年
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①博士論文[学位申請論文]の作成にむけて、各自の研究発表を行う。
- ②教員およびそのほか参加者によるディスカッションを通して、個々の論文に関する諸点を総合的に学ぶ。
- ③博士論文提出予定者はプレ発表の予行を行う。

◆授業内容・計画◆

- ①授業は隔週に設定される。
- ②博士課程の学生は全員、毎回出席すること。
- ③研究生の学生も全員、毎回出席すること。

(前期)

1. ガイダンスと発表予定の決定
2. 平成25年度学位授与者の研究発表
3. 個々の中間発表とディスカッション(1)
4. 個々の中間発表とディスカッション(2)
5. 個々の中間発表とディスカッション(3)
6. 博士論文提出予定者はプレ発表の予行
7. 個々の中間発表とディスカッション(4)

(後期)

1. 個々の中間発表とディスカッション(1)
2. 個々の中間発表とディスカッション(2)
3. 個々の中間発表とディスカッション(3)
4. 個々の中間発表とディスカッション(4)
5. 個々の中間発表とディスカッション(5)
6. 個々の中間発表とディスカッション(6)
7. 個々の中間発表とディスカッション(7)

◆準備学習の内容◆

各自、発表に向けて研究し、資料作成を行う。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表内容

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

4月23日に全員が顔合わせを行い、年間日程等打ち合わせを行う。他専攻の発表にも参加して各自の論文作成に役だてていただきたい。

ナンバリング			
科目名	特別総合演習		
科目詳細			
担当教員	友利 修, 横井 雅子, 吉成 順, 沼口 隆, 久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-309	開講学期	通年
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①博士論文[学位申請論文]の作成にむけて、各自の研究発表を行う。
- ②教員およびそのほか参加者によるディスカッションを通して、個々の論文に関する諸点を総合的に学ぶ。
- ③博士論文提出予定者はプレ発表の予行を行う。

◆授業内容・計画◆

- ①授業は隔週に設定される。
- ②博士課程の学生は全員、毎回出席すること。
- ③研究生の学生も全員、毎回出席すること。

(前期)

1. ガイダンスと発表予定の決定
2. 平成25年度学位授与者の研究発表
3. 個々の中間発表とディスカッション(1)
4. 個々の中間発表とディスカッション(2)
5. 個々の中間発表とディスカッション(3)
6. 博士論文提出予定者はプレ発表の予行
7. 個々の中間発表とディスカッション(4)

(後期)

1. 個々の中間発表とディスカッション(1)
2. 個々の中間発表とディスカッション(2)
3. 個々の中間発表とディスカッション(3)
4. 個々の中間発表とディスカッション(4)
5. 個々の中間発表とディスカッション(5)
6. 個々の中間発表とディスカッション(6)
7. 個々の中間発表とディスカッション(7)

◆準備学習の内容◆

各自、発表に向けて研究し、資料作成を行う。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表内容

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

4月23日に全員が顔合わせを行い、年間日程等打ち合わせを行う。他専攻の発表にも参加して各自の論文作成に役だてていただきたい。

ナンバリング			
科目名	器楽領域研究		
科目詳細	2年		
担当教員	武田 忠善		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	月1	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらに関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点評価

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽領域研究		
科目詳細	2年		
担当教員	武田 忠善		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	月1	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらに関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点評価

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	創作領域研究		
科目詳細	1年		
担当教員	古川 聖		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-01, 2-02	開講学期	通年
曜日・時限	月2	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、コンピュータ音楽を含む諸ジャンルの作曲法等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな作品創作を目指す。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

各担当者による。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内評価

◆参考図書◆

◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	創作領域研究		
科目詳細	1年		
担当教員	古川 聖		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-01, 2-02	開講学期	通年
曜日・時限	月2	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、コンピュータ音楽を含む諸ジャンルの作曲法等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな作品創作を目指す。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

各担当者による。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内評価

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	創作領域研究		
科目詳細	2年		
担当教員	川島 素晴		
学年	1年	クラス	02
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	火5	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、コンピュータ音楽を含む諸ジャンルの作曲法等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな作品創作を目指す。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

各担当者による。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内評価

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	創作領域研究		
科目詳細	2年		
担当教員	川島 素晴		
学年	1年	クラス	02
講義室		開講学期	通年
曜日・時限	火5	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、コンピュータ音楽を含む諸ジャンルの作曲法等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな作品創作を目指す。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

各担当者による。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内評価

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	音楽学領域研究		
科目詳細	2年		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-01	開講学期	通年
曜日・時限	火2	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

音楽文化研究の方法論を修得する。

◆授業内容・計画◆

音楽学の諸分野の先端的研究指導を通して、高度に専門的な音楽学研究の方法論の修得を目標とする。そのため、音楽美学、音楽資料論を含む音楽史学、音楽社会学、民族(俗)音楽学、さらに音環境論、音楽メディア論、音楽テクノロジー論、楽器学、楽器音響学、音楽音響学、音楽療法定論、音楽療法実践論等に関する高度に専門的な理論的研究を行うと同時に、演奏、創作、教育にも寄与しうる領域横断的な研究を積極的に行い、新たな音楽学研究の創造を目指す。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート提出による。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	音楽学領域研究		
科目詳細	2年		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-01	開講学期	通年
曜日・時限	火2	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

音楽文化研究の方法論を修得する。

◆授業内容・計画◆

音楽学の諸分野の先端的研究指導を通して、高度に専門的な音楽学研究の方法論の修得を目標とする。そのため、音楽美学、音楽資料論を含む音楽史学、音楽社会学、民族(俗)音楽学、さらに音環境論、音楽メディア論、音楽テクノロジー論、楽器学、楽器音響学、音楽音響学、音楽療法定論、音楽療法実践論等に関する高度に専門的な理論的研究を行うと同時に、演奏、創作、教育にも寄与しうる領域横断的な研究を積極的に行い、新たな音楽学研究の創造を目指す。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート提出による。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	音楽学領域研究		
科目詳細	2年		
担当教員	塚原 康子		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-219	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

音楽文化研究の方法論を修得する。

◆授業内容・計画◆

音楽学の諸分野の先端的研究指導を通して、高度に専門的な音楽学研究の方法論の修得を目標とする。そのため、音楽美学、音楽資料論を含む音楽史学、音楽社会学、民族(俗)音楽学、さらに音環境論、音楽メディア論、音楽テクノロジー論、楽器学、楽器音響学、音楽音響学、音楽療法定論、音楽療法実践論等に関する高度に専門的な理論的研究を行うと同時に、演奏、創作、教育にも寄与しうる領域横断的な研究を積極的に行い、新たな音楽学研究の創造を目指す。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート提出による。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	音楽学領域研究		
科目詳細	2年		
担当教員	塚原 康子		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-219	開講学期	通年
曜日・時限	水3	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

音楽文化研究の方法論を修得する。

◆授業内容・計画◆

音楽学の諸分野の先端的研究指導を通して、高度に専門的な音楽学研究の方法論の修得を目標とする。そのため、音楽美学、音楽資料論を含む音楽史学、音楽社会学、民族(俗)音楽学、さらに音環境論、音楽メディア論、音楽テクノロジー論、楽器学、楽器音響学、音楽音響学、音楽療法定論、音楽療法実践論等に関する高度に専門的な理論的研究を行うと同時に、演奏、創作、教育にも寄与しうる領域横断的な研究を積極的に行い、新たな音楽学研究の創造を目指す。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート提出による。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	音楽学領域研究		
科目詳細	3年		
担当教員	友利 修		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	4単位
備考			

◆授業目標◆

音楽文化研究の方法論を修得する。

◆授業内容・計画◆

音楽学の諸分野の先端的研究指導を通して、高度に専門的な音楽学研究の方法論の修得を目標とする。そのため、音楽美学、音楽資料論を含む音楽史学、音楽社会学、民族(俗)音楽学、さらに音環境論、音楽メディア論、音楽テクノロジー論、楽器学、楽器音響学、音楽音響学、音楽療法定論、音楽療法実践論等に関する高度に専門的な理論的研究を行うと同時に、演奏、創作、教育にも寄与しうる領域横断的な研究を積極的に行い、新たな音楽学研究の創造を目指す。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート提出による。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆



ナンバリング			
科目名	西洋音楽史特講		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	通年
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- ①バッハの音楽の文化的・社会的背景を理解する。
- ②バッハの音楽の特徴を理解する。
- ③バッハの音楽を分析して、文章にすることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期)

1. バッハの生涯
2. バッハの時代
3. バッハの社会
4. クラヴィーア曲(インヴェンション)
5. クラヴィーア曲(《平均律クラヴィーア曲集》)
6. クラヴィーア曲(組曲)
7. オルガン曲(コラール変奏など)
8. オルガン曲(ソナタなど)
9. 協奏曲(《ブランデンブルク協奏曲》)
10. 協奏曲(その他の協奏曲)
11. 室内楽(ヴァイオン)
12. 室内楽(フルートなど)
13. その他の器楽
14. まとめ

(後期)

1. バッハの教会音楽
2. バッハの教会音楽の歌詞と思想
3. 教会カンタータ(初期カンタータ)
4. 教会カンタータ(ライプツィヒ時代1)
5. 教会カンタータ(ライプツィヒ時代2)
6. モテット
7. 《マタイ受難曲》
8. 《ヨハネ受難曲》
9. 世俗カンタータ
10. 《口短調ミサ》
11. 特殊作品(《音楽の捧げもの》)
12. 特殊作品(《フーガの技法》)
13. バッハ受容史(出版と研究)
14. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自、発表するので、その資料を準備すること。  
2時間ほど要する。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表の内容

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

久保田慶一(編著):バッハ キーワード事典(春秋社)  
初回の授業で入手方法を教える。

#### ◆参考図書◆

適時指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	西洋音楽史特講		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	通年
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①バッハの音楽の文化的・社会的背景を理解する。
- ②バッハの音楽の特徴を理解する。
- ③バッハの音楽を分析して、文章にすることができる。

◆授業内容・計画◆

前期)

1. バッハの生涯
2. バッハの時代
3. バッハの社会
4. クラヴィーア曲(インヴェンション)
5. クラヴィーア曲(《平均律クラヴィーア曲集》)
6. クラヴィーア曲(組曲)
7. オルガン曲(コラール変奏など)
8. オルガン曲(ソナタなど)
9. 協奏曲(《ブランデンブルク協奏曲》)
10. 協奏曲(その他の協奏曲)
11. 室内楽(ヴァイオン)
12. 室内楽(フルートなど)
13. その他の器楽
14. まとめ

(後期)

1. バッハの教会音楽
2. バッハの教会音楽の歌詞と思想
3. 教会カンタータ(初期カンタータ)
4. 教会カンタータ(ライプツィヒ時代1)
5. 教会カンタータ(ライプツィヒ時代2)
6. モテット
7. 《マタイ受難曲》
8. 《ヨハネ受難曲》
9. 世俗カンタータ
10. 《口短調ミサ》
11. 特殊作品(《音楽の捧げもの》)
12. 特殊作品(《フーガの技法》)
13. バッハ受容史(出版と研究)
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、発表するので、その資料を準備すること。  
2時間ほど要する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表の内容

◆教科書(使用テキスト)◆

久保田慶一(編著):バッハ キーワード事典(春秋社)  
初回の授業で入手方法を教える。

◆参考図書◆

適時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	民族音楽学特講		
科目詳細			
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	通年
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代社会では伝統的な音楽や芸能がかつてと同じ脈絡の中で以前と同じ意識をもって取り組まれることが難しくなった。どんな音楽や芸能にも多かれ少なかれ手が入り、改編されたり、異なる脈絡や場で提供されることが日常的になっている。この授業ではそうした音楽や伝統を、正統的なものと区別して扱うというよりも、どのような力学の中で、どのような立場の人たちがそれらと向き合い、どう生かしているこうと考えて取り組んでいるのか、改めて捉え直そうとする。

#### ◆授業内容・計画◆

##### 【前期】

現代社会の中で実践されている多様な音楽や芸能から、このテーマにふさわしいいくつかの対象を選び、ケーススタディを行う。可能であれば、実際にこうした音楽や芸能の当事者からの証言をきき、現場の意識を知る機会ももちたい。

##### 【後期】

前期のケーススタディに基づきながら、授業参加者がそれぞれ個別の事例を研究する。

#### ◆準備学習の内容◆

授業で扱う対象についての事前・事後調査に十分な時間を費やすことは言うまでもないが、身の回りで行われているさまざまな音楽や芸能に改めて注目することで問題点を見出すことが可能となる。また、自分の住む地域に改めて目を向け、地域作りに音楽や芸能がどのように生かされているのかも調べてほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点(授業への参加度を勘案する)と授業中の発表、および発表に基づくレポートで評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

最初の授業時に文献一覧を配付し、講師が解題を行う。

#### ◆留意事項◆

授業への積極的な参加を望む。言うまでもないが、遅刻せず、コンスタントな出席を心がけること。

ナンバリング			
科目名	民族音楽学特講		
科目詳細			
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	通年
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代社会では伝統的な音楽や芸能がかつてと同じ脈絡の中で以前と同じ意識をもって取り組まれることが難しくなった。どんな音楽や芸能にも多かれ少なかれ手が入り、改編されたり、異なる脈絡や場で提供されることが日常的になっている。この授業ではそうした音楽や伝統を、正統的なものと区別して扱うというよりも、どのような力学の中で、どのような立場の人たちがそれらと向き合い、どう生かしているか考えて取り組んでいるのか、改めて捉え直そうとする。

#### ◆授業内容・計画◆

##### 【前期】

現代社会の中で実践されている多様な音楽や芸能から、このテーマにふさわしいいくつかの対象を選び、ケーススタディを行う。可能であれば、実際にこうした音楽や芸能の当事者からの証言をきき、現場の意識を知る機会ももちたい。

##### 【後期】

前期のケーススタディに基づきながら、授業参加者がそれぞれ個別の事例を研究する。

#### ◆準備学習の内容◆

授業で扱う対象についての事前・事後調査に十分な時間を費やすことは言うまでもないが、身の回りで行われているさまざまな音楽や芸能に改めて注目することで問題点を見出すことが可能となる。また、自分の住む地域に改めて目を向け、地域作りに音楽や芸能がどのように生かされているのかも調べてほしい。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

平常点(授業への参加度を勘案する)と授業中の発表、および発表に基づくレポートで評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

最初の授業時に文献一覧を配付し、講師が解題を行う。

#### ◆留意事項◆

授業への積極的な参加を望む。言うまでもないが、遅刻せず、コンスタントな出席を心がけること。

ナンバリング			
科目名	日本音楽史特講		
科目詳細			
担当教員	塚原 康子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	通年
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

近代日本の音楽文化の多様性と、個々の音楽ジャンルの特質・役割を理解する。

◆授業内容・計画◆

明治期以降の日本で鳴り響いたさまざまな音楽を、その背景にある時代思潮や音楽行動とからめて検証する。  
平成26年度は幕末明治期における西洋音楽の受容と、伝統音楽系の新ジャンル形成と新様式生成の問題を中心に扱う。

〈前期〉

1)オリエンテーション、近年の研究動向

2～3)江戸後期の西洋音楽知識

4～5)明治初期の音楽用語(1)

6～7)幕末の軍楽(鼓笛・喇叭)

8～9)明治期の軍楽隊

10～12)明治期の外国人教師

13～14)明治期の音楽留学

〈後期〉

1)明治期の新ジャンル・新様式概説

2～6)伝統音楽の新ジャンル形成

7～10)伝統音楽の新様式生成

11～14)発表(人数により調整する)

◆準備学習の内容◆

近代日本の音楽文化研究に関する近年の研究成果にできるだけ幅広く目を通しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点(発表とレポートをふくむ)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし(その都度指示する)

◆参考図書◆

なし(その都度指示する)

◆留意事項◆

主体的な授業参加を心がけること。

ナンバリング			
科目名	日本音楽史特講		
科目詳細			
担当教員	塚原 康子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	通年
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

近代日本の音楽文化の多様性と、個々の音楽ジャンルの特質・役割を理解する。

◆授業内容・計画◆

明治期以降の日本で鳴り響いたさまざまな音楽を、その背景にある時代思潮や音楽行動とからめて検証する。  
平成26年度は幕末明治期における西洋音楽の受容と、伝統音楽系の新ジャンル形成と新様式生成の問題を中心に扱う。

〈前期〉

1)オリエンテーション、近年の研究動向

2～3)江戸後期の西洋音楽知識

4～5)明治初期の音楽用語(1)

6～7)幕末の軍楽(鼓笛・喇叭)

8～9)明治期の軍楽隊

10～12)明治期の外国人教師

13～14)明治期の音楽留学

〈後期〉

1)明治期の新ジャンル・新様式概説

2～6)伝統音楽の新ジャンル形成

7～10)伝統音楽の新様式生成

11～14)発表(人数により調整する)

◆準備学習の内容◆

近代日本の音楽文化研究に関する近年の研究成果にできるだけ幅広く目を通しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点(発表とレポートをふくむ)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし(その都度指示する)

◆参考図書◆

なし(その都度指示する)

◆留意事項◆

主体的な授業参加を心がけること。

ナンバリング	DDL741N		
科目名	教授法		
科目詳細			
担当教員	神原 雅之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽大学等、音楽の高等教育機関で教える、指導することはどういうことかを知り、TAとして教えるための前提を理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽大学で教えるために必要な、前提となる以下の様々な法律等の規程とその意味について学ぶ。  
主な内容は次の通り。

- 1)人はなぜ学ぶのか
- 2)大学とは何か
- 3)教育基本法
- 4)学校教育法
- 5)大学設置基準
- 6)大学認証評価(1)導入期
- 7)大学認証評価(2)現在
- 8)FDについて(1)背景
- 9)FDについて(2)事例
- 10)学則について(1)位置づけ
- 11)学則について(2)その実際
- 12)諸規定について
- 13)TAについて(1)心構え
- 14)TAについて(2)役割
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の授業内容について各自事前に準備を行い授業に臨むこと。  
プレゼンテーションも課す。

#### ◆課題等◆

#### ◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加、課題の提出、最終レポートなどを総合して評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配付する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

TAを申請するものは、この授業を取ることが必須条件となる。